

平成 21 年度

自己点検・評価報告書

沖縄キリスト教短期大学

目次

《沖縄キリスト教短期大学の特色等》	1
《Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》	7
《Ⅱ 教育の内容》	13
《Ⅲ 教育の実施体制》	27
《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》	39
《Ⅴ 学生支援》	53
《Ⅵ 研究》	69
《Ⅶ 社会的活動》	73
《Ⅷ 管理運営》	79
《Ⅸ 財務》	95
《Ⅹ 改革・改善》	101
《将来計画の策定（自由記述）》	103

《沖繩キリスト教短期大学の特色等》

(1) 学校法人沖繩キリスト教学院（以下「法人」という）の沿革（概要）及び沖繩キリスト教短期大学の沿革（概要）。

沖繩キリスト教学院（旧沖繩キリスト教学院短期大学）は、昭和32年4月、キリスト教精神を建学の精神とし、沖繩を国際的平和な島として再建することを標榜し、沖繩基督教団によって首里教会内に創設された。初代理事長・学院長は仲里朝章。学院設立から約5年間は、教会内で授業を行う状態であったが、国内外の宗教団体始め多くの方々からの支援金（約3.3万ドル）を得て、昭和37年約4万ドルの総事業費を以って、旧首里城の東端に念願の校舎が完成した。

学院の草創期に在ってはキリスト教学科（昭和45年廃科）のみのスタートであった。昭和38年には英語科と児童福祉科（後の保育科）を設置し、沖繩県内で「英語・保育の“キリ短”」として知られるようになった。平成元年には現在地の西原町にキャンパス移転。その後、平成16年に沖繩キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科、平成20年には沖繩キリスト教学院大学大学院異文化コミュニケーション学研究科を開設した。

◆学校法人沖繩キリスト教学院及び沖繩キリスト教短期大学の沿革

昭和32（1957）年4月	沖繩キリスト教学院創立
昭和34（1959）年3月	財団法人沖繩キリスト教学院が設立許可され、沖繩キリスト教学院短期大学キリスト教学科を設置
昭和37（1962）年4月	附設保母養成科を設置
昭和37（1962）年9月	首里キャンパス1号館落成
昭和38（1963）年3月	英語科、児童福祉科を設置
昭和39（1964）年3月	附設保母養成科を廃科
昭和41（1966）年5月	キリスト教学校教育同盟に準加盟
昭和42（1967）年4月	児童福祉科を廃科し、保育科を設置
昭和42（1967）年6月	学校法人沖繩キリスト教学院として認可
昭和44（1969）年5月	キリスト教学校教育同盟に正式に加盟
昭和45（1970）年4月	沖繩キリスト教短期大学に改称、キリスト教学科を廃科
昭和47（1972）年5月	沖繩復帰に伴う文部省関係法令の特別措置に関する法令により、学校教育法による短期大学となる
平成元（1989）年9月	西原キャンパス落成、移転
平成16（2004）年4月	沖繩キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科を設置
平成20（2008）年4月	沖繩キリスト教学院大学大学院異文化コミュニケーション学研究科を設置
平成20（2008）年6月	沖繩キリスト教学院創立50周年記念式典を挙げる
平成21（2009）年3月	新校舎『沖繩キリスト教学院創立50周年記念 SHALOM 会館』落成
平成21（2009）年4月	沖繩キリスト教平和研究所を設置

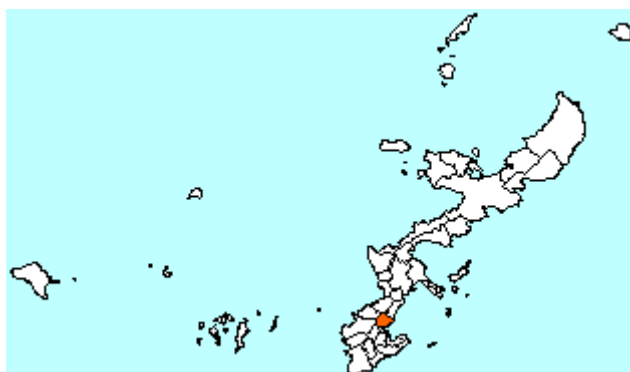
(2) 短期大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等。

1. 所在地

沖縄県中頭郡西原町字翁長 777 番地

2. 位置

沖縄本島の中部を占める中頭郡の町。那覇市の北東約 10 キロメートルほどの位置にある。



3. 周囲の状況

西原町は、人口 3 万 4,341 人（平成 21 年 3 月末現在）、県都那覇市の北東約 10 キロメートルに位置している。町内には、琉球大学、沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学の三大学が立地し「文教のまち」と呼ばれている。町内の臨海地域は、県内有数の石油、生コンクリート、金属製品等の工業集積地となっているほか、中城湾港マリントウンプロジェクトが展開中で、近年は那覇市、浦添市等人口密集地からの人口転入の傾向が強く、ベッドタウン化しつつある。

県内には 9 大学（国立 1、県立大学 2、私立大学 4、私立短期大学 2）が存在するが、その殆どが那覇市、宜野湾市、西原町に集中している。宜野湾市・西原町に琉球大学。那覇市に県立芸術大学、県立看護大学、沖縄大学、沖縄女子短期大学。宜野湾市に沖縄国際大学。那覇市から約 60 キロメートル以北の名護市に名桜大学がある。

(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、AL0 の氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、TEL、FAX、電子メール等を記載して下さい。

1. 学校法人沖縄キリスト教学院理事長

氏名	神山 繁實 (かみやま しげみ)		
連絡先	沖縄キリスト教学院理事長室 TEL: 098-946-1231 (代表) FAX: 098-946-1241 電子メール: kamiyama@ocjc.ac.jp		
生年月日	昭和 11 年 2 月 25 日 (73 歳) ※平成 21 年 5 月 1 日現在	出身地	沖縄県
学歴	昭和 37 年 3 月 東京神学大学卒業 昭和 39 年 3 月 東京神学大学院修了 昭和 55 年 5 月 ウェスタン神学大学院修了 (Th. M) 昭和 62 年 8 月 サンフランシスコ神学大学博士課程修了 平成 7 年 5 月 同大学より神学博士 (S. T. D.) 取得		
職歴	昭和 39 年 4 月 日本キリスト教団宮古島伝道所牧師 (昭和 47 年 12 月迄) 昭和 48 年 1 月 日本キリスト教団読谷教会牧師 (平成 5 年 3 月迄) 平成 5 年 4 月 沖縄キリスト教短期大学総合教育系教授 平成 11 年 10 月 沖縄キリスト教短期大学学長 (平成 20 年 3 月迄) 平成 16 年 4 月 沖縄キリスト教学院大学初代学長 (平成 20 年 3 月迄) 平成 20 年 4 月 沖縄キリスト教学院大学特任教授 (現在に至る) 平成 20 年 10 月 学校法人沖縄キリスト教学院理事長 (現在に至る)		

2. 沖縄キリスト教短期大学学長（沖縄キリスト教学院大学学長兼務）

氏名	Randolph H. Thrasher（ランドルフ スラッシャー）		
連絡先	沖縄キリスト教学院大学・短期大学学長室 TEL: 098-946-1231 (代表) FAX: 098-946-1241 電子メール: thrasher@ocjc.ac.jp		
生年月日	昭和 12 年 3 月 10 日 (72 歳) ※平成 21 年 5 月 1 日現在	出身地	アメリカ
学歴	昭和 30 年 9 月 デューク大学卒業 昭和 40 年 5 月 ミシガン大学大学院修士課程修了 (英語学) 昭和 49 年 5 月 ミシガン大学大学院博士課程修了 (言語学 PhD)		
職歴	昭和 34 年 9 月 沖縄キリスト教短期大学講師 (昭和 37 年 6 月迄) 昭和 45 年 4 月 関西学院大学教授 (昭和 50 年 3 月迄) 昭和 62 年 4 月 国際基督教大学教授 (平成 14 年 3 月迄) 平成 14 年 6 月 国際基督教大学名誉教授 平成 14 年 10 年 沖縄キリスト教短期大学英語科教授 (平成 16 年 3 月迄) 平成 16 年 4 年 沖縄キリスト教学院大学教授 (現在に至る) 平成 20 年 4 月 沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長 (現在に至る)		

3. ALO

氏名	上原 明子 (うえはら あきこ) 准教授		
連絡先	短期大学研究室 TEL: 098-946-1490 (FAX 兼用) 入試部入試課 TEL: 098-945-9782 FAX: 098-946-1241 電子メール: uehara@ocjc.ac.jp		
生年月日	昭和 42 年 3 月 23 日 (42 歳) ※平成 21 年 5 月 1 日現在	出身地	沖縄県
学歴	平成 2 年 3 月 琉球大学卒業 平成 5 年 3 月 東京外国語大学 大学院修士課程修了 (修士)		
職歴	平成 9 年 10 月 沖縄キリスト教短期大学総合教育系講師 平成 15 年 4 月 沖縄キリスト教短期大学総合教育系助教授 (准教授) 平成 19 年 4 月 入試部長 (現在に至る)		

(4) 平成15年度から21年度までの学科・専攻（通信による教育を行う学科（以下「通信教育学科」という）、専攻科を含み、以下「学科等」という）ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率（%）、収容定員、在籍者数、収容定員充足率（%）を次ページの表を例に作成して下さい。廃止、募集停止等の学科等を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度5月1日時点とします。

平成16年度、英語科の従前の入学定員250人を100人に変更し、学院内に沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科（入学定員120人）を併設。その後も、英語科は併設の沖縄キリスト教学院大学及び県内外大学への編入、保育科は「保育士資格」及び「幼稚園教諭二種免許」の資格取得ができることを強みとし、定員充足を保ち、良好な状況で推移している。

県民平均所得の低さや失業率の高さ等、沖縄県の特長事情から、早期の就職を求める短期大学進学志向者も少なくなく、短期大学に対する社会的需要はあるものの、近年は、18歳人口の減少並びに経済状況の悪化等により、本短期大学の置かれている状況は一段と厳しいものとなっている。就職で短期大学卒者が正規採用枠を獲得することの困難さ、あるいは就職難を反映して高学歴志向の優秀層が県内・県外四年制大学へ流れる傾向が加速しつつある。現在の学生獲得の状況は入試部の努力に頼るところが大きく、安定的に学生を獲得するためには教育課程の改編等、抜本的な改革が急務となっている。現在、両学科の発展の方向性について検討している。

◆平成15年度～21年度の設置学科、入学定員等

(各年5月1日現在)

学科		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
英語科	入学定員	250	100	100	100	100	100	100
	入学者数	276	128	134	127	101	122	113
	入学定員充足率(%)	110	128	134	127	101	122	113
	収容定員	500	200	200	200	200	200	200
	在籍者数	588	451	318	294	252	253	252
	収容定員充足率(%)	117	225	159	147	126	126	126
保育科	入学定員	100	100	100	100	100	100	100
	入学者数	121	129	130	127	124	115	105
	入学定員充足率(%)	121	129	130	127	124	115	105
	収容定員	200	200	200	200	200	200	200
	在籍者数	261	255	266	258	254	240	223
	収容定員充足率(%)	130	127	133	129	127	120	111

(5) 平成18年度～20年度に入学した学生（この事項においては通信教育学科の学生を除く）の出身地別人数及び割合（10程度の区分）を下表を例に毎年度5月1日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

過去3ヶ年の在学生の出身地別比率で県内出身者の占める平均割合は、それぞれ英語科が97.9パーセント、保育科が96.1パーセントとなっており、県外出身者が占める割合は僅少である。18歳人口の減少を始め、大学を取り巻く環境が厳しさを増す中、本短期大学在学生の出身地別比率が大きく県内に偏っている現状は、他の県内私立大学・短期大学同様、本短期大学にとっても大きな課題である。

本短期大学として、建学の精神並びに沖縄の歴史・文化の独自性の基盤の上に、如何に英語科及び保育科の優位性ある教育課程を再編してゆくかが大きな課題となっている。県内のみならず全国から学生を呼び込める教育課程、いわば「沖縄ブランド」の構築が求められる。

◆出身地別学生数（平成18年度～20年度）

（各年5月1日現在）

学科	地域	平成18年度		平成19年度		平成20年度	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
英語科	沖縄県	286	97.3%	245	97.2%	251	99.2%
	北海道	1	0.3%	1	0.4%	0	0.0%
	茨城	1	0.3%	1	0.4%	0	0.0%
	栃木	1	0.3%	1	0.4%	0	0.0%
	神奈川	2	0.7%	1	0.4%	0	0.0%
	広島	2	0.7%	1	0.4%	1	0.4%
	福岡	0	0.0%	1	0.4%	1	0.4%
	宮崎	1	0.3%	1	0.4%	0	0.0%
保育科	沖縄県	250	96.9%	243	95.7%	230	95.8%
	東京	1	0.4%	1	0.4%	1	0.4%
	神奈川	1	0.4%	2	0.8%	1	0.4%
	山梨	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%
	石川	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%
	岐阜	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%
	京都	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%
	兵庫	0	0.0%	1	0.4%	1	0.4%
	鳥取	0	0.0%	1	0.4%	1	0.4%
	岡山	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
	広島	0	0.0%	1	0.4%	1	0.4%
	山口	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
	福岡	1	0.4%	1	0.4%	2	0.8%
	佐賀	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
	鹿児島	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%

(6) 法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数をそれぞれ下表を例に平成21年5月1日時点で作成して下さい。

◆学校法人沖縄キリスト教学院が設置する他の教育機関の現状

(平成21年5月1日現在)

学科	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
◇沖縄キリスト教学院大学 ・人文学部 英語コミュニケーション学科 ・沖縄キリスト教学院大学大学院 異文化コミュニケーション学研究科	沖縄県中頭郡 西原町字翁長 777	120 5	510 10	512 11

(7) その他

評価員が誤解しないように事前に知ってもらいたい事項や事情があれば、記述して下さい。

《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》

【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

1. 建学の精神

「吾人の目標はキリスト教大学に非ず、
『キリスト大学』 活けるキリストに直接教育さるる大学を云う也
決してキリスト教の知識を得る大学には非ざるなり
キリストの私塾といふも可なり
キリストの大学といふも可なり
キリストによりて其感化を直接受けて人格を建造して行く
キリストの教育薫陶を受ける学校は聖書を教科としキリストを教師と仰ぐ学校なり」
(仲里朝章『靈感魂闘録』1946)

かつて太平洋上の孤児と呼ばれた沖縄が、今日国際的な島として政治・経済・文化のあらゆる面で一大変化をなしつつあるのは実に不思議な摂理であります。しかし複雑にして矛盾の多い現在の沖縄を国際的平和の島にするには是非ともキリスト教文化が基礎をなさねばならぬことは世界史が教えている真理であります。そこでわれらは新しい沖縄の建設に直面してキリスト教の精神を身につけた人材の養成が緊要であることを確信してこの学校の設立をしました。

(『沖縄基督教学院生徒募集要項』1957)

.....

沖縄キリスト教学院は、悲惨な「沖縄戦」を肯定し、推し進めた当時の教育に対する反省をすることから始まった。1957年、「沖縄キリスト教団」によって設立された本学院は、イエス・キリストの福音に基づき、真理の探究と人格の完成に努め、人類の福祉に貢献する教育と学術研究をとおして社会に仕えることを目指す共同体である。本学院は、沖縄の歴史と現状において、キリスト教信仰と思想を深め、学院の建学の精神及び教育理念を継承発展させる使命を帯びている。

(1) 教育の基礎としてのキリスト教

かつて、多くの日本人が人間である天皇を「現人神」とし、民を非人間化した皇民化教育への徹底した悔い改めをもって本学院は始まった。

イエス・キリストは、その宣教の始めに福音に基づく「悔い改め」を教えの中心として宣告したが(マルコ1:4, マタイ4:14)、本学院教育の基礎としてのキリスト教信仰とは、戦争肯定をはじめとした非人間化する価値観を転換して、「神」に創造された本来あるべき存在としての生き方に回帰することを意味する。また、あらゆる人々を「隣人」として認め、これを「自分を愛するように愛」し、自由かつ平等で自律したもののどうしの共生、協働の関係を築く生き方であり、解放しあう在り方である。

聖書は、神が歴史の最初から最後まで支配することを明示している。それゆえ、プ

ロテスタンティズム・キリスト教主義は、『聖書』に啓示された神以外の何ものをも神格・絶対化しない。全ての人々が、神に平等なものとして造られているからである。本学院は、聖書に示された神のみを神として崇め、いかなる背景をもっている人とも、互いに「人間化」(愛する)し合う教育の実践(plaxis)を今日的に展開する使命をもつ。

(2) 国際的平和を目指して

「国際的」と「平和」は不可分である。「国際的」とは、画一化を志向するグローバルイズムとは異なり、国籍をはじめとした「隔ての中垣を取り除き」(エフェソ2:14-18)、自己を多様な他者に「開放」し、相互交流する関係のことである。このようにそれぞれの固有性と価値を認めつつ、相互の関係性の追求によって互いの存在を尊重する平和が訪れるのである。かつて、自国〈のみ〉を愛することを強制した閉鎖的、画一的教育によって、排他・憎悪・対立の教育がなされ、その末に沖縄と日本とアジア・世界は荒廃し、多くの人命が「殺し」「殺された」。このような反省から、他者との「生かし」「生かされる」対話と関係を持ち続ける教育の必要性を痛感する。それは、強者、対等な者に対するよりも、弱者・少数者との開かれた関係の構築を目指す視点である。本学院は、沖縄のもつ歴史、文化、言語、経済、政治的背景と位置を認識し、他のあらゆる人々、民族、国家の豊かな背景と複雑な事情を理解し、相互に助けあう関係のための人材養成を目指す。

2. 教育理念

(1) ピースメーカー

◇「平和をつくり出す人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイによる福音書5章9節)

本学院は、聖書の教えを基礎とした普遍的真理、平和、正義、人類愛を希求する民主主義社会の建設に貢献できる人材を育成することを教育理念とする。イエス・キリストの愛と平和への奉仕の精神を今日の社会的状況に活かし、敬虔と寛容と自由の精神を培い、相互の尊敬と信頼を育み、人類普遍の価値観を追求する。これによって、多様な文化や価値観の交錯する世界において、真の平和をつくりだす働きに貢献できる社会的リーダーの育成に努める。

(2) 他者に仕えるために

◇「それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである。」(マタイによる福音書20章28節)

主イエス自身、「最後の晩餐」の席において弟子達の足を洗い、地位の高低にかかわらず互いに仕え合うことを命じられた(ヨハネによる福音書13章)。このことから、本学院は国籍、人種、民族、肌の色、思想、宗教、性の差異、社会的地位、経済的格差、政治的強弱を超えて、沖縄、日本、アジア、世界のあらゆる地域の人々のことを深く知り、彼らと平等かつ自由に向き合い、仕え合うことを教育理念とする。人は、強制によってではなく、自由に他者に奉仕することをとおして、他者との関係に生きる存在となるからである。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

沖縄キリスト教学院の「建学の精神」は、沖縄戦の反省の中でキリストの教えに立ち返った創立者の平和教育の理念である。必修及び選択科目（キリスト教学Ⅰ、Ⅱ、キリスト教概論、キリスト教平和学等）を設けて、学生がキリスト教の歴史と教えと精神を学ぶようにする。また「宗教部」を設け、短期大学と大学全体のキリスト教関係の活動を行なう中で、その理念を浸透させるための活動を以下のように行なっている。その他、学生宗教委員会やコイノニアサークルなどの学生によるキリスト教活動を通じても教育理念の活性化を行なっている。

1. 月曜礼拝

建学の精神を知らせる最も基本的で重要なプログラムである。講義の行われる期間、チャペルで毎週月曜（午前9時50分～午前10時30分）に行なわれる。これによってキリスト教の伝統を体験し、キリスト教の教えを詳細に聞くことができる。聖書を実際に紐解き、その意味を説教を通して教える。全学学生教職員対象で年間約30回。

2. キリスト教講演会

前後期に年2回行われる。キリスト教週間の一環として内外の著名なキリスト教関係者を招いて、教育または平和の活動にたずさわる人々の講話を聞く。建学の精神とのより広い関係性を知ることができる。全学学生教職員が対象。

3. 建学の精神懇談会

前期「キリスト教講演会」終了後、全教職員を対象に行うもので、平成16年度以来行ってきた。本短期大学設立の具体的な歴史と創設者達の理念と体験を詳細に解説する。

4. 新入生オリエンテーションキャンプ

毎年渡嘉敷島において実施される新入生を対象にした2泊3日のプログラムである。宗教部では「キリストとの出会い」の時間を設けて、全教員と新入生全員がキリスト教と平和について講話を聴き、建学の精神を確認する。

5. サマー聖書キャンプ

宗教部の夏季休業期間中に行われる2泊3日のプログラム。3日間寝食を共にする中で本短期大学の創設者たちがその理念を生み出さざるを得なかった沖縄戦での戦跡等を巡り、沖縄の現実の中で聖書の使信を考える。学生、教員の自由参加。

6. アジア・フレンドシップキャンプ

台湾や韓国を1週間から10日の旅程で訪問し、アジアのキリスト教会や施設を訪問する中で、日本・沖縄の歴史に重なる痛みと相互の信頼を確認する中で「隣人」と「共に生きる」という聖書の教えを実践的に学ぶ。学生、教員の自由参加。

【教育目的、教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います（例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標並びにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

本短期大学では、学院の建学の精神と教育理念に基づき、地域社会並びに国際社会の発展に貢献する、「ピースメーカー」、「他者に仕える」人材を育成すべく、英語科、保育科、総合教育系において、以下のように教育目標を定めている。

〔英語科〕

英語科では、建学の精神及び教育理念に基づき、英語と母国語による適切なコミュニケーション能力を修得し、地域社会と国際社会の発展に意欲的に貢献する人材の育成を教育目標としている。

英語科では、英語の実践的な運用能力の養成を中心とし、留学、進学、就職に備えたスキルアップ、TOEIC への取り組みを推進している。ネイティブスピーカーによる週 8 時間の Oral English をコアとする選択必修 A 群を教育課程の中心に据え、英文法系の B 群、英語講読の C 群、英米文学の科目を選択必修科目 D 群として配置し、英語の実践的な運用能力とそれを支える総合的な教養を付与できる教育課程を整備している。

〔保育科〕

保育科では、キリスト教の愛と奉仕の精神に基づき、人類の未来である子どもを慈しみ、幼児・児童一人ひとりの個性を尊重し、その個性から発する能力を引き出し、育み、「人間を慈しみ育てる」保育士及び幼稚園教諭二種免許を養成することを教育目標としている。保育科では学科設立当初から、幼児・児童教育の重要性を認識し、激しく変化し複雑化する社会のニーズ、世界との共生の重要性に鑑み、「創造性」、「意欲と行動力」、そして社会のグローバル化にも対応できる「隣人とともに生きる国際性と豊かな感性」の涵養を重視している。

保育科の草創期を牽引し、学生たちの人格形成に多大な影響を与えた前田伊都子は、「世界に通用する人材育成」をモットーとし、進んで学生たちを首都圏・関西圏への実習に送り出した。

保育科は、昭和 37 年附設保母養成科として出発し、翌年沖縄で最初の保母養成校として設置された児童福祉科をその前身とする。昭和 43 年 1 月 4 日、琉球政府行政主席宛に提出された保育科の設置目的は「キリストの愛と奉仕の精神をもって人材の育成をすること」とし、爾来、その精神が保育科の教育目標として継承されている。

〔総合教育系〕

本短期大学においては、学生の多面的な能力を育む要として教養教育を重視し、その教養教育を効果的に推進するため、英語科及び保育科の両学科から独立させ、総合教育系を置いている。

総合教育系では、建学の精神であるキリスト教の平和理念に基づき、国籍や民族の枠を超えて世界平和を希求する地球市民を育成するため、英語科及び保育科の両学科に幅広い教養科目群を提供することを教育目標としている。教養科目群は、「キリスト教学」、「表現技法」、「コンピュータ・リテラシー」の三本柱から成る必修科目のほか、30の選択必修科目から構成されている。

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在はどういう方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

本短期大学の英語科、保育科及び総合教育系の教育目標は、以下のような状況で周知している。

1. 学生に対して

- ①大学入学前教育スクーリング（平成19年度より英語科で実施）
- ②履修登録オリエンテーション〔入学直前（3月下旬）、各学期開始直前〕
 - ・各学科の教育目標並びに教育課程についての体系的な説明。
- ③学生生活オリエンテーション〔入学直後（4月上旬）〕
- ④新入生オリエンテーションキャンプ〔5月、於渡嘉敷島、2泊3日〕
 - ・各科ごとの集会で学科の教育内容を様々な角度から紹介。
 - ・集団自決が発生した現場を訪れ、体験者から当時の様子を聴く「平和学習」を通して、建学の精神、学科の教育目標を学習。

2. 教職員に対して

- ①教育職員に対して
本短期大学教授会で適宜伝えているほか、教授会ワークショップ（年2回×6時間）において必要に応じて協議。
- ②職員に対して
月曜礼拝、キリスト教週間、建学の精神懇談会。

3. 学外に対して

本短期大学主催の大学紹介・入試説明会及び進路指導担当者への入試説明会・懇談会において受験生及び高等学校教員、予備校教員を対象に実施

なお、上記教育目標の説明は一定の成果を収めているものの、「キリスト教精神」については、説明を受ける側の理解に温度差があり、今後周知の方法等を吟味することが課題である。また、教育活動を共有する兼任教員への周知は、教育の質の向上を図るためにも、体系的な取り組みの実現に向け努力することが急務である。

【定期的な点検等について】

- (1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

本短期大学を設置する学院においては、従来からキリスト教懇談会等で、「建学の精神」の浸透を図るため、全職員参加のグループ別討議等も定期的（年1回）に実施されているが、「建学の精神」や「教育理念」の解釈を見直すための定期的な取り組みは実施されていなかった。しかし、学院創立50周年（平成19年）を契機として、時代に即した解釈の必要性が問題提起され、教授会ワークショップにおける議論を経て、平成20年度より「建学の精神」及び「教育理念」を改めて整理するための作業が行われた。

先ず、理事長、学長、理事（元学長）、宗教部長、キリスト教学担当教員等で素案を作成し、全体説明会、教授会、大学運営協議会等において説明し、質疑応答を経て、必要な修正を加えた上で、理事会にて報告・承認された。

- (2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

学生や教職員への周知は、「建学の精神」がキリスト教精神に立脚したものであるため、学院内に設けられた宗教部が中心となり、建学の精神を理解するための各種活動が行われている。本短期大学及び各学科の教育目標に関しては、教授会、科会を中心に、各種オリエンテーション並びに学内行事で周知している。

前述の学院内における「建学の精神」及び「教育理念」の解釈の見直しや整理のための作業においては、本短期大学教授会及び理事会は、諮問機関あるいは審議・決議機関として関与している。

今後は、必要に応じて、①学科のワークショップ（年2回定例：夏季、春季）、②短期大学教授会ワークショップ（年1回定例：夏季）で議論し、建学の精神や教育理念、あるいは各学科の教育目標の解釈の見直しが必要と認められた場合は、学院内の大学運営協議会、評議員会、理事会へ議題を提出し審議されることとなる。

〈添付資料－1〉 2010年度 沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学 大学案内

《Ⅱ 教育の内容》

【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

平成21年度に学科改組等を行った場合は、平成20年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

◆英語科専門教育科目

(平成21年5月1日現在)

必修・ 選択の別	授 業 科 目	授業形態			単位数			教員配置			昨年度の 履修人員 (クラス数)		備 考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任			
必修 科目	英語聖書講読	○			2			○			106	4	
	特別研究	○			2			○		○	111	5	
選 択 必 修 A	Basic Oral Skills		○			4		○		○	26	1	科目等：1
	Oral English I		○			4		○		○	122	5	科目等：1
	Oral English II		○			4		○		○	98	4	
	Oral English III		○			4				○	78	3	科目等：1
	Oral English IV		○			4				○	47	2	
	Tourism English I		○			4		○			31	1	
	Tourism English II		○			4		○		○	29	1	
	Discussion in Eng. Oral Presentation	○	○			2 2				○ ○	21 15	1 1	
選 択 必 修 B	基礎英文法		○			2		○		○	62	2	科目等：1
	英作・文法 I		○			2		○		○	105	4	科目等：2
	英作・文法 II	○				2		○		○	88	3	
	Paragraph Writing I	○				2				○	99	4	
	Paragraph Writing II	○				2				○	20	1	
	高等英文法	○				2			○		7	1	
選 択 必 修 C	英語講読基礎 I		○			2		○		○	97	3	科目等：1
	英語講読基礎 II		○			2				○	72	2	
	英語講読 I		○			2		○		○	42	2	
	英語講読 II		○			2		○			50	2	科目等：1
	英語講読 III		○			2				○	20	1	
	英語講読 IV		○			2			○	○	5	3	
	Current Issues in English	○				2				○	64	2	科目等：1
選 択 必 修 D	イギリス文学	○				2		○			63	2	
	アメリカ文学	○				2		○			51	1	
選 択 科 目	Dramatic Reading		○			2				○	2	1	08 僅少により開講
	英米のポップカルチャー	○				2				○	42	1	
	TOEIC I		○			2		○			32	1	
	TOEIC II		○			2				○	60	2	
	TOEIC III		○			2		○			29	1	
	観光概論	○				2				○	55	1	
	観光実務	○				2				○	51	1	
	Travel Industry Components	○				2		○			18	1	科目等：1
	商業英語	○				2				○	48	1	
	秘書学概論	○				2		○		○	71	2	
	秘書実務		○			2				○	81	2	
	経営概論	○				2			○		14	1	
	簿記	○				2				○	45	1	
	ビジネス実務総論	○				2				○	63	2	
ビジネス実務演習		○			2		○		○	56	2		

(英語科専門教育科目のつづき)

必修・ 選択の別	授 業 科 目	授 業 形 態			単 位 数			教 員 配 置			昨年度の 履修人員 (クラス数)		備 考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任			
選 択 科 目	人間関係論	○				2				○	48	1	08 開設なし
	文書実務	○				2					—	—	
	沖縄経済論	○				2				○	15	1	
	キャリア ガイダンス	○				2				○	39	1	
	インターンシップ			○		2		○			29	1	
	英文ワードプロセッサ		○			2		○			14	1	
	マルチメディア演習		○			2		○		○	51	2	
	情報処理概論	○				2				○	12	1	
	情報倫理	○				2					—	—	
	プログラミング基礎演習		○			2					—	—	
	表現伝達の技法	○				2				○	3	1	
	プレゼンテーション概論	○				2				○	31	1	
	プレゼンテーション技能		○			2				○	19	1	
	情報機器利用プレゼンテーション演習		○			2		○		○	31	2	
	マーケティング入門	○				2		○			37	1	
	日本語表現法	○				2		○			18	1	
	通訳とプレゼンテーション		○			2					—	—	
	総合中国語 I	○	○			2					—	—	
	英語学概論 I	○				2				○	4	1	
	英語音声学	○				2				○	5	1	
	異文化理解	○				2		○			29	1	
	海外研修 (国際交流)			○		2		○			12	2	
	海外研修 (多文化共生)			○		2					—	—	
	コミュニケーション入門	○				2				○	11	2	
同時通訳基礎		○			2		○	○		11	2		
同時通訳初級		○			2		○	○		9	2		
同時通訳 I	○	○			2		○	○	○	3	1		
同時通訳 II	○	○			2		○	○	○	0	1		
比較文化	○				2				○	5	1		

◆保育科専門教育科目

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

必修・ 選択の別	授 業 科 目	授 業 形 態			単 位 数			教 員 配 置			昨年度の 履修人員 (クラス数)		備 考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任			
必 修 科 目	社会福祉	○			2			○			115	3	科目等：2 科目等：3
	児童福祉	○			2			○			117	3	
	教育原理	○			2			○			118	3	
	保育原理 I	○			2			○			118	3	
	保育原理 II	○			2			○			128	3	
	キリスト教保育	○			2			○			124	3	
	発達心理学 I	○			2			○			123	3	
	乳児保育演習		○		2			○			122	4	
	小児保健 I	○			2					○	116	3	
	精神保健	○			2					○	123	3	
	小児栄養演習		○		2					○	124	4	
	家族援助論	○			2					○	123	3	
	健康指導法		○		1			○			120	4	
	人間関係指導法		○		1					○	115	4	
	環境指導法		○		1			○			117	4	
	言葉指導法		○		1					○	119	4	
	音楽表現指導法		○		1			○			117	4	
	造形指導法		○		1			○			115	4	

(保育科専門教育科目のつづき)

必修・ 選択の別	授 業 科 目	授 業 形 態			単 位 数			教 員 配 置			昨 年 度 の 履 修 人 員 (ク ラ ス 数)		備 考
		講 義	演 習	実 習	必 修	選 択	自 由	専 任	兼 担	兼 任			
選 択 科 目	音 楽 I		○			1		○		○	129	8	科目等：2
	音 楽 II		○			1		○		○	151	9	
	図画工作 I		○			1		○			122	4	
	図画工作 II		○			1		○			121	4	
	幼児体育 I		○			1		○			122	4	
	幼児体育 II		○			1				○	121	4	
	生 活 技 能		○			1		○			120	4	
	飼 育 栽 培		○			1		○			118	4	
	幼児の言葉	○				2				○	119	3	
	総合教育研究		○			2		○			107	7	
	△ 保育課程総論	○				2		○			124	4	科目等：1 科目等：1
	△ 保育者論	○				2		○			119	3	
	△ 保育指導法ゼミ		○			2		○		○	116	6	
	△ 保育カウンセリング 教育実習	○		○		2 5		○		○	120 121	3 —	
	視聴覚教育		○			2		○		○	65	2	科目等：1
	保育メディア研究		○			2				○	64	2	
	社会福祉援助技術		○			2		○		○	123	4	
	養 護 原 理	○				2				○	107	3	
	教育心理学	○				2		○			124	3	
	小児保健II	○				2				○	118	3	
	小児保健実習			○		1				○	117	3	
	障害児保育演習			○		2				○	123	4	
	養護内容演習			○		2				○	121	4	
	保育実習 I			○		2		○			122	—	
	施設実習 I			○		2					117	—	
	保育実習指導		○			1		○			123	2	
	施設実習指導		○			1		○			117	2	
	保育実習 II			○		2		○			122	—	
	施設実習 II			○		2					4	—	
	△ 発達心理学 II	○				2		○			—	1	08 僅少により開講
	△ 海外幼児教育研究	○				2		○			27	1	08 開設なし(隔年)
	△ 老人福祉論	○				2					—	—	
△ 手 話 I		○			2				○	63	2		
手 話 II		○			2				○	—	1	08 僅少により開講	
音 楽 III		○			1		○			20	1	08 開設なし	
海外幼児教育研修		○			2					—	—		
レクリエーション概論	○				2				○	28	1		
レクリエーション基礎実技 I		○			1				○	28	1		
レクリエーション基礎実技 II		○			1				○	26	1		
レクリエーション実習			○		1		○			26	1		
英語講読		○			2					—	—	08 開設なし	

※保育士資格取得希望者は△印の科目より2単位以上選択必修

◆総合教育系科目

(平成21年5月1日現在)

必修・選択の別		授業科目		授業形態			単位数			教員配置			昨年度の履修人員 (クラス数)		授業形態	
				講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任				
必修科目	キリスト教系	※	キリスト教学Ⅰ	○			2				○		○	251	6	科目等：2
		※	キリスト教学Ⅱ	○			2				○		○	247	6	科目等：2
	国語表現系		表現技法	○	○		2				○		○	259	8	科目等：3
	IT系	※	コンピュータリテラシー	○	○		2				○		○	229	7	科目等：1
選択必修科目	キリスト教系		キリスト教平和学	○			2				○			13	1	
			キリスト教人間学	○			2				○			8	1	
	人文科学系Ⅰ 〈国語表現系〉		文学と読書	○			2					○		27	1	科目等：1
			朗読の科学	○			2				○			21	1	
	人文科学系Ⅱ 〈沖縄研究系〉	◇	アジア研究	○			2					○		35	1	
		◇	沖縄の自然と文化	○			2				○			46	1	
	自然科学系		琉球史	○			2					○		56	1	
			科学リタラシー	○	○		2				○			41	2	1クラス増設
	社会科学系	○	日本国憲法	○			2					○		159	3	科目等：2
			心理学	○			2					○		95	2	
			カウンセリング	○			2				○			82	2	
			文化人類学	○			2					○		63	1	
			経済学	○			2							—	—	08開設なし
	健康と運動系	○	ヘルスプランニング	○			2				○			58	1	
○		体育理論	○			1				○			121	3		
○		体育実技			○	1				○			137	4		
ボランティア教育系		人間の研究	○		○	2				○			6	1		
		要約筆記(ノートテイキング)	○	○		2					○		19	1		
		ボランティア		○		2							—	—	08開設なし	
外国語系		統計情報処理	○			2							—	—	08開設なし	
	◇	日本語読解表現Ⅰ		○		2							—	—	08開設なし	
	◇	日本語読解表現Ⅱ		○		2							—	—	08開設なし	
	◇	日本語音声表現Ⅰ		○		1				○			2	1	科目等：2	
	◇	日本語音声表現Ⅱ		○		1				○			2	1		
		オーラルイングリッシュ		○		2					○		29	1	科目等：6	
		英語		○		2				○			113	3	科目等：7	
		中国語		○		2					○		70	2		
		韓国語		○		2					○		25	1		
		スペイン語		○		2					○		39	1		

※留学生・帰国生は、必修科目中の※印の科目を6単位、選択必修科目の一般より◇印の科目1科目を含む6単位以上、外国語より◇印の科目から4単位以上、計16単位以上履修しなければならない。

(2) 教養教育の取り組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

〔英語科〕

英語科では平成16年度に教育課程の改編を行い、専門教育科目においては、英語コミュニケーション能力の養成に必須であるネイティブスピーカーによる Oral English ※(90分×週4日)を選択必修A、英文法・英作文等を選択必修B、英語講読等を選択必修C、英米文学を選択必修Dの4グループに分類し、実践的な英語能力の習得に十分な授業科目を提供している。専門科目の授業では多く少人数制を採用し、きめ細かな指導をしている。Oral Englishのクラスで20～25人/1クラス、文法・英作と読解のクラス30～35人/1クラス(その他講義形式の授業は50人未満/1クラス)。多くのネイティブ教授陣によって英語教育が展開されている丘の上の小さなキャンパス

は、学生と教員の距離が近く、アットホームかつ国際感覚に満ちた環境となっている。

専門教育科目においては、選択必修科目以外に、幅広い知識を身に付け、多角的な思考能力を付与するため、商業英語、観光概論、ビジネス実務総論・実習、異文化理解、TOEIC I-III、プレゼンテーション演習、秘書概論・秘書実務、人間関係論等、44種の選択科目を開設している。

なお、教員の配置については、選択必修科目はできるだけ専任教員が担当し、選択科目に関してもできるだけベテランの兼任教員を配するよう努めている。

(※Oral English の授業(90分)は、会話コミュニケーションセクションと表現練習中心セクションに二分し、2人のネイティブスピーカーが担当し、学生が効果的に口頭英語を学べる環境づくりに努めている。)

〔保育科〕

保育科においては、「幼児教育」「福祉保育」の2つの専門領域がある。「幼児教育」領域では、幼児教育の専門知識と技術を修得し、幼稚園教諭二種免許の取得。「福祉保育」領域では、福祉保育の専門知識と技術を修得し、保育士資格の取得を目標としている。授業科目の内訳は、必修が30単位で、選択科目は、音楽、図画工作、幼児体育等、42種を開講している。さらに、保育科では、国際化・多文化共生時代の到来から、建学の精神に基づいた世界との共生、あるいは外国の保育の動向や子育て支援等の現状を学び、かつ我が国の保育を省みる機会を得るため、異文化教育を実践できる海外研修先の開拓に努めている。近年は、夏季休業期間にミシガン州立大学、春季休業期間にはハワイコミュニティカレッジ（カウアイ島）へ学生を派遣し海外保育実習を実施している。

保育科の殆どの学生が、卒業要件の62単位に留まることなく、保育士資格（81単位以上）及び幼稚園教諭二種免許（73単位以上）を取得して卒業しており、2年間という限られた修学期間で効果的な履修環境を実現するため、専門教育必修科目及び選択科目の授業内容・授業形態を工夫するとともに、学生たちの生活面の指導も含め教授陣によるきめ細かな指導を行っている。

〔総合教育系〕

総合教育系は、「キリスト教学」「コンピュータ・リテラシー」「表現技法」の必修科目を三本柱として位置付けているほか、社会科学系、体育系の科目をはじめ、「ボランティア」「要約筆記（ノートテイキング）」等、多彩な選択必修科目を配置し、本短期大学2学科へ充実した教養科目を提供している。なお、教養教育科目は16単位を卒業に必要な取得単位数としている。上記三本柱となる3教科には専任教員を1人ずつ配置し、総合教育系の指導性が発揮できるよう配慮している。

- (3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。
 また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その
 免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

〔英語科〕

免許・資格	免許・資格認定先
①秘書士	全国大学実務教育協会
②情報処理士	全国大学実務教育協会
③ビジネス実務士	全国大学実務教育協会
④プレゼンテーション実務士	全国大学実務教育協会
⑤観光実務士	沖縄キリスト教短期大学

〔保育科〕

免許・資格	免許・資格認定先
①保育士資格	沖縄キリスト教短期大学
②幼稚園教諭二種免許	沖縄県
③レクリエーション・インストラクター	財団法人レクリエーション協会

- (4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等
 でどのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいよう
 に、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

前・後学期開始前に各学科で履修登録オリエンテーションを開催し、『講義要項』、
 「時間割表」を用いて講義内容並びに履修の方法に関する詳細な説明を行うとともに、
 僅少科目（履修者が10人以下）の発生で閉講となり学生が不利益を被らないよう、履
 修科目の傾向等、具体的な科目情報を提供するよう努めている。

その他、教務課による履修登録指導においても、『講義要項』、各学科・学年の時
 間割、登録申請票、登録カード、「履修登録手順」を基に、①必要書類の確認、②事
 前準備、③登録日当日のスケジュール確認、④登録後の自己チェックを促している。
 教務課窓口では、学生からの履修方法等の質問に対応するとともに、逐次学科長及び
 担当教員と連絡を取りつつ、学生の円滑な履修登録を実現するための指導に留意して
 いる。

授業時間帯の設定（時間割表の作成）に際しては、各学科の提供する「資格」等の
 条件とも照合しながら必修科目と選択科目が重ならないよう配慮し、学生が効率的か
 つ過重負担なく履修できるよう、十分に工夫された授業科目の配置（授業時間帯等）
 を実現している。各教員（専任、兼任）からあらかじめ提出されたスケジュール表を、
 教務課で調整を行った上で、時間割表を作成している。教養科目と選択科目の行を変
 えた配列や色分けによる工夫等で、英語科及び保育科の学生が入学から卒業までに受
 講しなければならない授業科目が、一目で理解・確認できる時間割表の作成に努めて
 いる。特に、保育科においては、学生たちが2年間で卒業要件の定める単位をスムーズ
 に履修し、かつ保育士資格及び幼稚園教諭二種免許も併せて取得できるよう、分かり

易い時間割表を作成している。

〈参考資料-1〉 英語科 履修登録指導に係る資料

〈参考資料-2〉 保育科 履修登録指導に係る資料

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

本短期大学学則の定める卒業要件で求められる単位数は英語科・保育科両学科ともに62単位で、その内訳は、総合教育系の提供する教養科目16単位（必修6単位、選択必修10単位）、各学科専門科目の必修4単位、選択必修30単位、選択12単位（合計62単位）である。教授会における卒業判定の基準となるのは基本的に上記卒業要件であるが、学生納付金未納者は判定保留とされる。その場合、引き続き納付を督促し、3月31日以前の納付を以って卒業としている。

各学科で行われる履修登録オリエンテーションで、『講義要項』及び学科独自の資料を配布し、卒業要件について詳細に説明している。

教務課では、学生に配布している「登録確認表」を基に履修状況を確認しているほか、2年次学生については、每学期履修登録後2週間以内に、個々の学生の履修状況を仔細に確認し「卒業見込み」の判定を行い、卒業が危ぶまれる場合は学生を呼び出し、追加登録等の指導を行っている。

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等。以下「学科長等」という）が記述して下さい。

本短期大学では、各学科の教育課程の見直し・改善については、まず各学科会議及びワークショップで原案を作成し、教務委員会並びに教授会での審議を経て、了承されたものを実施することとしている。

〔英語科〕

英語科では、学科会議・学科ワークショップにおいて、『学生による授業評価報告書』、授業担当者の意見、アドバイザーが学生からすくい上げた情報等を基に、学科が提供している個々の授業科目について、現代社会のニーズに即したものであるか、建学の精神及び教育理念を反映したものになっているか、平素からその妥当性について協議、検討しており、必要と認められた場合は、適宜修正している。

これまでに、「プログラミング理論」「システム設計演習」を閉講し、「プログラミング基礎演習」「情報倫理」を開講している。平成20年度には、TOEICの包括的な教育体制を実現するため、従来TOEIC(reading)、TOEIC(listening)と分散されていた科目を、TOEIC I-IIIと系統化し、平成21年度からは、「通訳とプレゼンテーション」と「総合中国語I」を新規開設した。

〔保育科〕

保育科では例年学科ワークショップ（夏季・春季）を開催し、学科の運営や教育課程の充実に向けた改善策等の在り方について議論を行っている。目下、以下の取り組みを進めている。

- ①「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」の改訂（平成21年度施行）に伴う、教育課程改編のための作業（現行保育科教育課程の検証、求められる改編案の策定等）
- ②高まる現場からの要望に応えるための教育課程の再編

昨今、保育界では「認定こども園」制度が設けられるなど、保育園・幼稚園の連携も促進される中、保育士・幼稚園教諭二種免許の両免許を取得した、即戦力としての人材が望まれるようになった。このような社会的需要に即し、保育系教育現場では、両免許の取得のため、必然的に多くの履修単位を課すようになっている。しかし、学生の基礎学力低下が顕在化する状況下で、如何に、基礎学力の向上に資する教育課程、学生の個性を伸ばす特色ある教育課程を構築し、現場の要望に応えるか、教育課程の在り方を検討している。

〔総合教育系〕

総合教育系では、現行教育課程での講義内容の充実に力点をおいている。学生の基礎学力向上のための、読み書き等の国語表現指導やその他基礎学力向上のための指導を、今後より一層推進してゆきたい。担当教員間で積極的に講義内容の検証を行い、実効性のある方策を講ずることが最優先されるべきであると考えている。

【授業内容・教育方法について】

- (1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

本短期大学の『講義要項』は、文部科学省へ申請する際のシラバスをその参考書式とし、15週分の授業計画を具体的に明記するように様式を統一している。また、卒業要件や履修登録方法等が学生に効果的に伝わるよう、フローチャート等、分かり易い説明を心がけている。

入学時の履修登録オリエンテーションで全新生に『講義要項』を配布し、卒業要件、資格・称号等の説明をしている。また、授業科目の講義内容に関しては、全ての授業担当者が第1回目の授業の90分を用いて、詳細な説明を行っている。

- (2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

〔英語科〕

生活環境や入学目標が多種多様な、限りなく全員入学に近い状態で入学した1学年100余名の学生では、履修態度、学習意欲の程度にも大きな差が認められる。

在学中に最大限の学業を修め、卒業要件のみならず資格取得や留学をも考える学生から、卒業さえできればよいと考える学生まで、様々である。特に近年は、慢性化する

る経済状況の悪化に伴い、学費を工面するためのアルバイトに時間を割かれ、学業に集中できない学生も増加している感がある。

履修態度が気になる学生に関しては、随時学科会議で情報を共有しているが、学生の変化に気づいた教員から、アドバイザーや学科長による面接・指導に繋げる体系的な体制づくりの充実に努めている。

今後も、学生が自分と向き合い、自分を見つめ、社会における自分の存在意義を認識し、自分に合った目標が定められるよう、キャリア教育の充実と、効果的な指導・助言が行えるよう、アドバイザー制度の更なる充実に努めたい。

〔保育科〕

就職に直結するという保育科の特性から、学生は入学時点で既に高いキャリア意識を有しており、入学後は殆どの学生が保育士と幼稚園教諭二種免許の両資格取得を目指し、勉学に励む多忙な履修期間（2年間で85単位以上）を過ごすのが通例である。各種授業科目の受講に加え、夏季・春季休業期間中に実施される保育実習、幼稚園実習、施設実習等で、極めて過密な履修期間である。その多忙さが幸いしてか、履修態度の悪い学生、学習意欲の低い学生は、特に見当たらない。

しかし、近年は、そういった学生の中にも、基礎学力低下の傾向が顕著となってきている。中には、困窮する家計を援けるため、多忙な学業とアルバイトを両立させる者もあり、基礎学力低下を生み出す構造的な悪循環が垣間見えるケースも散見される。学科では、学生の基礎学力向上を意図し、筆記試験で記述部分を増やし作文能力の向上を図る等の対策も講じているが、多方面に亘る学力不足（自己表現能力、理解力、読解力等）の問題を、如何にして経済支援策ともタイアップさせ、実効性のあるものにしてゆくかが今後の課題である。

〔総合教育系〕

基礎学力の低い学生が増加傾向にある。ゆとり教育、全入時代の到来によって、競争原理が働かなくなったことが原因か。本短期大学においても、学習意欲旺盛な学生と、やる気が希薄な学生へと、二極化の現象が発生している。総合教育系では、「建学の精神」を学習させ、レポート提出を課す等の大学入学前教育を実施している。今後も、入学前スクーリングをより充実したものにしてゆくとともに、入学後の補習授業等、全学的な取り組みを構築すべく取り組みたい。

【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

平成14年度から、前期・後期に、本短期大学全ての授業科目について、「学生による授業評価アンケート」を実施している。教務課がアンケート調査を行い、自己点検・評価・改善委員会が分析・編集し、学期ごとに報告書として、配布・公表している。実施時期は学年暦に明記し、学生や教員に周知している。

〈参考資料-3〉 学生による授業評価について

- (2) 短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

英語科、保育科、総合教育系、各科会の下ワークショップ（年2回）において、各学科・系の教育課程の実効性に関する議論のほか、学生の履修上の問題点（履修状況、履修態度、学習意欲等）について、毎年議論を重ね、必要に応じて、教育課程の改編等の対策案を決議している。各学科・系で策定された対策案は、本短期大学教授会に議題提出し、審議・決議の上、実行されている。

ただし、一般的に定義されるFDに含まれる全ての取り組みがなされてきたわけではない。教育力向上を図るための『学生による授業評価報告書』は学期ごとに印刷物で公表しているものの、ピア・レビュー（教員間授業公開）は実施されておらず、多角的かつ公平な授業評価という点で不十分な状況である。今後、大学の要である授業を的確に評価できる評価制度を構築し、個々の授業の実情を踏まえつつ、学科ごとにより具体的な達成目標を設定し、時代的ニーズに即した教育課程の整備・維持に努めたい。

〈参考資料-4〉 沖縄キリスト教短期大学 FD 委員会規程

- (3) 担当授業について教員間の意思疎通や協力体制、または兼任教員との意思疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

〔英語科〕

専任教員間の意思疎通、協力体制に関しては、おおむね良好であると受け止めている。兼任教員への情報伝達は、必要に応じて電子メールや電話、文書（メールボックス）で行っており、現在のところ、情報伝達は滞りなく行われていると認識している。兼任教員からの意見（教科書の選定や気になる学生の情報等）は積極的に収集し、必要に応じて学科会議で検討し、対処している。

同じ科目を受け持つ専任教員と兼任教員は、必要に応じて会合を持って意見交換をしている。特にOral English担当の兼任教員については、専任教員がそのリーダーとして、常に目を配りよく統括している。ただし、それ以外の専任・兼任教員の意思疎通については、会合が定期的・体系的なものとして確立されておらず、今後の改善課題としたい。

〔保育科〕

専任教員間の意思疎通は、科会での協議、あるいは複数の教員で担当する各種実習、学科の各種報告書・申請書の作成等、協調して作業する機会が多く、おおむね良好である。

専任・兼任教員、複数人で担当する「音楽Ⅰ・Ⅱ」「保育指導法ゼミ」「小児保健」「実習指導」等の授業科目では、授業が効果的に進められるよう、学習計画・内容を調整するため、専任・兼任教員間の意思疎通を図る話し合いの場を設けている。それ

以外にも、学期1回、学科内の授業を担当する兼任教員全員を対象とした懇談会を開催し親睦を図っている。

大学を取巻く環境が厳しさを増す中に在って、専任・兼任教員が均しく、建学の精神、教育理念、学科の教育目標を理解し、学科の現状を認識し、教育力向上のため、より一層努力することが求められる。

〔総合教育系〕

総合教育系における専任教員、専任・兼任教員間の意思疎通と協力体制はおおむね良好である。授業でトラブルが発生した場合は、専任、兼任教員から主任に報告され、科会での協議、あるいは兼任教員との話し合いが行われている。

平成21年度は、本短期大学が重視するリベラルアーツ教育をより充実したものにしてゆくため、総合教育系の教育目標と具体的な達成目標を明示した「ミッション・ステートメント」を配布し、教育力向上に努める予定である。

【特記事項について】

- (1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取り組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

本短期大学としては以下のようなことを実施している。

1. 単位互換制度

- ①国内：併設の沖縄キリスト教学院大学を含む県内5私立大学、県外1私立大学と単位互換協定を締結。協定大学で取得した単位を卒業要件に換算する単位互換制度を整備。
- ②国外：アメリカ（本土3校、ハワイ7校）、フィリピン2校、台湾1校、中国1校と交流協定を締結し、単位互換制度に基づく正規留学生（在学扱い）の派遣を実施。平成18年度6人（3人）、平成19年度8人（1人）、平成20年度2人（1人）を派遣（内数は継続留学者）。成績優秀者には最大50万円（2人）の奨学金を支給している。

2. 習熟度別授業

英語科では、平成17年度より、プレースメントテストを実施し、選択必修A群（Oral English系列）及び選択必修B群（英文法・英作文系列）の習熟度別クラス編制を行っている。平成21年度からは、学生の英語読解能力の差異にも開きがみられることから、選択必修C群（英語講読系列）でも習熟度別クラス編制を導入。現在のところ、プレースメントテストは入学時1回のみの実施となっており、学期ごと、あるいは年ごとの実施へ向けた取り組みが課題となっている。

保育科、総合教育系では、習熟度別クラス編制は行っていない。

3. 情報・メディア教育

学内には多くの情報機器が完備され、各学科で以下のような取り組みが行われている。

- ①英語科では、LL教室での「Oral English」、「TOEIC I-III」「情報機器利用プレゼンテーション演習」「マルチメディア演習」「情報処理概論」等の選択科目。
- ②保育科では、「視聴覚教育」「保育メディア研究」等の選択科目を設けている。
- ③総合教育系では教養科目として「コンピュータ・リテラシー」を提供。

その他、教員の中には、パワーポイント等の機器を活用し、分かり易い授業を工夫しているケースも多々ある。

4. 国際理解教育

本短期大学では、総合教育系で提供している「キリスト教学Ⅰ・Ⅱ（必修）」及び「キリスト教平和学」「キリスト教人間学」（共に選択必修）を西洋文化の思想的背景を学ぶための授業科目として位置付けているほか、「アジア研究」（総合教育系）、「異文化理解」「比較文化」（共に英語科）「海外幼児研究」（保育科）等の授業科目を開設している。また、学院内では、国際理解のための講演会の開催も精力的に行われている。

〈平成19年度、平成20年度実績〉

- ・フェアトレード月間IN沖縄 平成19年5月12～31日
- ・「元米海兵隊員が語る戦争と平和そしてゴスペル演奏」平成19年10月25日
- ・「いのちをつなぐアースハーモニー」平成20年4月27日～6月8日
- ・『ツバルという国を知っていますか?』平成20年10月23日
- ・「人間の安全保障」講演会 平成20年11月7日

5. 海外研修制度（2単位修得）

①台湾研修

夏季休業期間中に実施。台湾の長榮大学での2週間の研修。台湾の文化体験、フィールドトリップ、中国語学習、現地学生との交流等。

②フィリピン研修

夏季休業期間中に実施。現地の大学やNGO、コミュニティとの交流及び研修。途上国の現状と課題を学ぶプログラム。

③Hawaii Study Tour

春季休業期間中に実施。カウアイ島にあるカウアイ・コミュニティ・カレッジでハワイの伝統文化を学習。現地学生との交流、ハワイの伝統料理や手工芸、フラダンス体験等。

④海外幼児教育研修

夏季もしくは春季休業期間中に実施。ミシガン州立大学及びハワイコミュニティーカレッジでの海外幼児保育実習。

6. インターンシップ

英語科では選択科目として「インターンシップ（2単位）」を開設。保育科では、「保育実習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」「施設実習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」等の名称で現場実務を体

験できる授業科目が開設されている。

7. 女子教育の伝統継承と発展への取り組み

本短期大学は、従来より女子学生が多く、時に“女子短期大学”と誤解されるイメージがあったが、開学当初より、男性保育士の必要性を訴える等、むしろ「男女共学」を重視している。

〈添付資料-2〉 2009年度 学生便覧

〈添付資料-3〉 2009年度 講義要項（シラバス含む）

《Ⅲ 教育の実施体制》

【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数を下表を例にして作成して下さい。

◆専任教員等の人数

(平成 21 年 10 月 26 日現在)

学科 等名	専任教員数					設置基準で 定める教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
英語科	3	4	2	0	9	5 (2)	—	0	0	
保育科	4	4	1	0	9	8 (3)	—	0	0	
(小計)	7	8	3	0	18	13 (5)	—	0	0	
〔ロ〕	0	0	0	0	0	—	4 (2)	0	0	
(合計)	7	8	3	0	18	13 (5)	4 (2)	0	0	

※〔イ〕は短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイに定める学科の種類に応じて定める教員数。

※〔ロ〕は短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める教員数。

※〔イ〕及び〔ロ〕の欄の()は、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイの備考第 1 号に定める教授数。

※〔ハ〕は、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員(事務職員を除く)(例えば副手、補助職員、技術職員等)。

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書(①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他)を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

〈参考資料-5〉 教員の個人調書(①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名等、④その他)

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

1. 採用

採用は、「沖縄キリスト教学院教員資格審査基準」及び「沖縄キリスト教学院教員資格審査基準に関する内規」に基づいて行われている。書面審査において、研究経歴、業績、教育経験等を審査、面接試験において、本短期大学の建学の精神及びキリスト教への理解、人格及び見識、教育研究への意欲等を審査し、採用が決定されている。募集は原則公募とし、インターネット等を通して募集活動を行っている。

審査のプロセスとしては、まず学科で採用候補者を複数人選考し、その後学長を委員長とする教員人事委員会で面接審査候補者を決定する。教員人事委員会及び学長が指名する教員を加えて面接を行い、採用候補者を決定する。候補者は教授会に報告され、教授会で採用が決議されれば、総務課より採用稟議を起案し、理事長決裁により採用が決定される。その後、理事会に報告される。

今後は、教育課程変更等に柔軟に対応してゆくための環境整備として、平成 20 年度より事務職員採用で導入された任期採用制度を教育職員採用にも導入することが課題

である。

2. 昇任

昇任は、「沖縄キリスト教短期大学教員昇任規程」に基づき、希望者が資格審査申請を行う。学科長が資格審査を行い、採用と同じく、「沖縄キリスト教学院教員資格審査基準」及び「沖縄キリスト教学院教員資格審査基準に関する内規」に基づき、研究経歴、業績、教育経験、本短期大学への貢献度について審査を行い、教員人事委員会で昇任候補者を決定する。その後教授会で昇任が決議されれば、総務課で昇任稟議を起案し、理事長決裁により、昇任が決定される。その後、理事会に報告される。

〈参考資料-6〉 沖縄キリスト教学院教員資格審査基準

〈参考資料-7〉 沖縄キリスト教学院教員資格審査基準に関する内規

〈参考資料-8〉 沖縄キリスト教短期大学教員昇任規程

(4) 教員の年齢構成について下表を例に現状を記載して下さい。

◆専任教員等の年齢構成表（短期大学全体で作成）（年齢は平成21年4月1日現在）

区分	年齢ごとの専任教員数（助教以上）							助手等の平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下	平均年齢		
合計人数（18）	0	2	5	6	5	0	46.5歳		
割合	0%	11%	28%	33%	28%	0%			

(5) 専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記4つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去3ヶ年（平成18年度～20年度）程度の教員の担当コマ数（担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む）、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

◆専任教員担当コマ数（平成18年度～平成20年度）

学科	職名	教員名	平成18年度				平成19年度				平成20年度			
			役職	年間時間	前期時間	後期時間	役職	年間時間	前期時間	後期時間	役職	年間時間	前期時間	後期時間
英語科	教授	作田 真由子		13	6	7	学科長(4)	8	4	4	学科長(4)	9	4	5
	教授	William Randall		—	—	—	新任(特任)	6	3	3	特任	6	3	3
	准教授	城間 仙子	英語科長(4)	10	5	5		14	8	6	教学部長(4)	10	5	5
	准教授	仲座 栄利子	新	15	8	7		12	6	6		14	9	5
	講師	James A. Ross		14	7	7		12	5	7		14	7	7
	講師	柳田 正豪	新	15	7	8		12	6	6	カウンセラー(2)	10	7	3
		平均コマ数			6.6	6.8			5.3	5.3			5.8	4.7

(専任教員担当コマ数のつづき)

学科	職名	教員名	平成 18 年度				平成 19 年度				平成 20 年度			
			役職	年間時間	前期間	後期間	役職	年間時間	前期間	後期間	役職	年間時間	前期間	後期間
保育科	教授	喜友名 静子	保育実習 I・II (2)	13	8	5		12	7	5		13	7	6
	教授	山城 真紀子	図書館長(4)	10	5	5	学科長(4)	10	3	7	学科長(4) 短大部長	10	5	5
	教授	川西 康裕	施設実習 I・II (2)	11	5	6	短大部長(2)実習	11	5	6	実習(2)	11	5	6
	教授	大山 伸子	保育科長(4)	12	5	7	実習(2)	13	6	7	実習(2)	11	5	6
	准教授	吉村 壮明		13	6	7		13	6	7		13	6	7
	准教授	喜舎場 勤子	教育実習(2)	11	5	6	実習(2)	11	5	6	実習(2)	11	5	6
	准教授	大城 りえ		13	6	7		13	6	7		12	6	6
	講師	照屋 建太		13	6	7		13	6	7		13	6	7
	平均コマ数					5.8	6.3			5.5	6.5			5.6
総合教育系	教授	大城 実	特任	6	3	3		—	—	—		—	—	—
	教授	渡久地 政順	特任	7	4	3		—	—	—		—	—	—
	教授	内間 清晴		—	—	—	新任	12	6	6		12	6	6
	准教授	上原 明子	総合系主任(4)	11	5	6	入試部長(4)	10	5	5	入試部長(4)	9	5	4
	准教授	青野 和彦		12	6	6	主任(4)	9	4	5	主任(4)	9	4	5
	准教授	張本 文昭		—	—	—	新任	12.5	6	6.5		13.5	7	6.5
	平均コマ数					4.5	4.5			5.3	5.6			5.5

※役職の（ ）内数字は、授業責任時間の軽減を示す。

本短期大学における、平成 18 年度～20 年度間の専任教員の平均担当コマ数は、前掲表のとおりである。なお、平成 21 年度からは、人件費抑制策の一環として 1 コマを増やし、7 コマとなっている。

学科長、部署長等の管理職の任にある者は、業務の負担を考慮され、担当コマ数の若干の軽減はされているものの、専任教員は概して多忙な教育活動の職責を担っている状況である。

その他、専任教員は、アドバイザーとして約 20 人（1・2 年次）の学生指導を担当し、オフィス・アワーにおける学生相談にも対応している。

教育活動並びに学生指導、その他、実習指導や委員会活動等の公務の負担のためか、研究活動（論文数）等においては、平時と昇任時期の論文数に極端な差が発生したり、学内紀要に留まらず積極的に学会誌にも投稿する者や地域支援活動に取り組む者等、二極化の傾向にある。

- (6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

特になし

(7) 2以上の校地（校地が隣接はしていないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外）において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

本短期大学は、2以上の校地において教育研究を行っていない。

【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。

校舎について、まず短期大学設置基準第31条（通信教育学科を置く短期大学の場合には短期大学通信教育設置基準第10条を含む）の規定による短期大学全体の基準面積（基準面積を算出する計算式を含む）を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途（室名）、専用・共用の別を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

◆校舎・校地一覧表

（平成21年5月1日現在）

	収容定員	校舎			校地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
沖縄キリスト教短期大学	400人	3,650 m ²	1,110 m ²	△2,540 m ²	4,000 m ²	12,962 m ²	8,962 m ²
沖縄キリスト教学院大学	510人	3,760 m ²	1,981 m ²	△1,779 m ²	5,100 m ²	16,497 m ²	11,397 m ²
沖縄キリスト教学院大学大学院	5人	—	83 m ²	—	—	—	—
沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教学院大学 沖縄キリスト教学院大学大学院 共用	—	—	10,610 m ²	—	—	—	—
計			13,784 m ²			29,459 m ²	

※基準面積とは短期大学設置基準等、各学校の設置基準で定める面積とします。

$$\text{基準面積} = \text{収容定員} 400 \text{人} \times 10 \text{ m}^2 = 4,000 \text{ m}^2$$

本短期大学の校地は、2万9,459平方メートルあり、四年制大学部分が占める面積5,100平方メートルを減じても、短期大学設置基準の定める面積4,000平方メートルを充足し、校地は教育環境として適切に整備されている。

校舎面積は、短期大学設置基準第31条別表第二のイより算出すると、保育科が、収容定員200人までに相当し、2,350平方メートル。英語科が、同別表第二のロにより、収容定員200人までに相当し、1,300平方メートルとなり、加算すると3,650平方メートルである。現有面積は、基準面積を下回っているが、全体では、1万3,784平方メートルを有し、うち共用部分が1万610平方メートルとなり、基準を上回っている。

〈参考資料-9〉 校舎、校地に関する図面（全体図、校舎等の位置を示す配置図、用途（室名）を示した各階の図面）

(2) 校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述して下さい。

本短期大学は、本学院内に併設されている四年制大学及び大学院と校地・校舎を共有しているが、校地2万9,459平方メートル、校舎1万610平方メートルを有し、教育研究活動に支障を来たさない十分な校舎面積の確保がなされており、設置申請においても特に問題とはなっていない。

授業間の短い休み時間（10分）のスムーズな移動を図るため、学生の動線を考えた教室配置を行っているほか、車椅子の学生が同じ校舎内で授業が受けられるよう時間割作成に努力している。

沖縄県の特徴として、学生の通学手段が自動車中心となっているため、駐車スペースの確保及び機能的な校舎の活用を考慮し、学生が倦厭しがちな1時限や5時限目に人気科目を配置する等の工夫をしている。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況（機種、台数等を含む）について記述して下さい。またその使用状況（使用頻度等）についても記述して下さい。なお、2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。

1. 情報機器等の設置状況とその使用状況

北2-1教室、北2-2教室及びSHALOM*2-8教室の3つのコンピュータ教室があり、コンピュータ操作の基本的な知識・技能を習得するための「コンピュータ・リテラシー」や「情報処理概論」、「マルチメディア演習」等の授業で使用されている。また、SHALOM2-6LL教室、SHALOM 2-7LL教室の2教室には、マルチメディア語学教育支援システムを導入しており、Oral Communication、Oral English及び同時通訳等の授業で使用している。教室設置の全てのコンピュータに運用環境の自動復元機能を導入しており、コンピュータの再起動によって自動的にシステムの復元が可能となっている。

授業以外でのコンピュータ利用環境については、自主学习室として、北3-1教室（コンピュータ・アシステッド・ランゲージ・ラボラトリー（CALL）教室）を配備しており、授業で使用されるコンピュータ設置教室についても時間割の掲示を行い、授業の空き時間には自由にコンピュータが利用可能となっている。利用時間については、平日午前8時40分～午後8時、土曜日午前8時40分～午後4時30分としている（夏季・春季休業期間等は変更有り）。

学内LANは、学術情報ネットワーク（SINET）へ接続しており、学内無線LANネットワークは、図書館、学生ユニオン、就職情報コーナー、中庭、会議室、SHALOM会館及び一部の教室にアクセスポイントを設置して無線で学内LANに接続ができるよう整備している。新設のSHALOM会館では、館内の全エリアで無線LANの利用が可能である。利用できないエリアについては、計画的にアクセスポイントの増設を実施してエリア拡大を行う予定である。

2. 各教室のコンピュータ等の設置状況

教室名		パソコン			プリンタ		
		メーカー	機種	台数	メーカー	機種	台数
コンピュータ 教室	北 2-1	IBM	ThinkCentre S51 8171-KJB	41	EPSON	LP-S3000	3
	北 2-2	IBM	ThinkCentre S51 8171-KJB	42	EPSON	LP-S3000	3
	北 3-1	富士通	FMV-D5250	26	EPSON	LP-S3000	2
	S. 2-8	富士通	FMV-D5270	43	EPSON	LP-S3000	3
LL 教室 (ラボ室)	S. 2-6	富士通	FMV-W630	1	EPSON	LP-9000C	1
		富士通	FMV-K630	42			
	S. 2-7	富士通	FMV-D5270	49	EPSON	LP-S6000C	1
大学院研究室	S. 1-5	富士通	FMV-D5250	11	EPSON	LP-S3000	1

※コンピュータ教室・LL教室は併設の沖縄キリスト教学院大学と共用で使用している。

※「S.」は、SHALOM 会館を示す。SHALOM はヘブライ語で平和の意味。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況、整備計画等を含む）について、その概要を記述して下さい。2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

教室の使用状況の必要性に応じて、液晶プロジェクター、テレビ、DVD/VHS デッキ、OHC、マイク等を適切に設置し、教室の高い利便性を実現している。授業用の機器・備品は総務課で全体を把握し、平素の点検等(コンピュータ関連機器は情報センター課が担当)を行っている。修理等については、総務課及び情報センター課が連携して対応している。

新たな機器備品の購入は、必要とする部署が購入し、備品等の管理、資産登録等は総務課が行っている。

本短期大学の視聴覚機器の設置状況は、表1のとおりである。授業用貸し出し視聴覚機器・備品等は、表2のとおり準備し、必要に応じて授業等で使用している。

今後、年々増加傾向にあるパワーポイントを用いた授業に対応できるよう、普通教室への関連機器・設備の増設が必要である。その他、学生の実習・自習用に表3のとおり、備品・施設等を整備している。

◆表1 授業用視聴覚機器等が設置されている教室

機器	教室数	教室
プロジェクター・スクリーン	13	北 2-1 教室、北 2-2 教室、南 1-2 教室、南 2-1 教室、南 2-4 教室、南 2-5 教室、南 3-5 教室、西 1-2 視聴覚教室 SHALOM1-1 教室、SHALOM2-6LL 教室、SHALOM2-7LL 教室、SHALOM2-8 コンピュータ教室、SHALOM2-9 教室
テレビ、DVD/VHS デッキ	22	北 2-3 教室、北 2-4 教室、北 2-5 教室、北 2-6 教室、北 3-2 教室、北 3-3 教室、北 3-4 教室、北 3-5 教室、北 3-7 教室、南 1-1 教室、南 1-2 教室、南 1-3 教室、南 1-4 教室、南 2-1 教室、南 2-2 教室、南 2-3 教室、南 3-3 教室、南 3-4 教室 SHALOM1-3 教室、SHALOM1-4 教室、SHALOM2-10 教室、SHALOM2-11 教室
OHC 設置教室	4	西 1-2 視聴覚教室、SHALOM1-1 教室、SHALOM2-7LL 教室、SHALOM2-6LL 教室、SHALOM2-8 コンピュータ教室
マイク設備 (ワイヤレス含む)	16	北 2-1 コンピュータ教室、北 2-2 コンピュータ教室、南 1-2 教室、南 2-1 教室、南 2-4 教室、南 2-5 教室、南 3-5 教室、西 1-2 視聴覚教室、SHALOM1-1 教室、SHALOM2-6LL 教室、SHALOM2-7LL 教室、SHALOM2-8 コンピュータ教室、SHALOM2-9 教室、チャペル、体育館

◆表2 貸出用視聴覚機器・備品等

CD・MD デッキ (1 台) 、CD・カセットデッキ (3 台)	教務課管理
ポータブル PA セット (2 台) 、OHC (1 台) 、ビデオカメラ (1 台) スライド映写機 (1 台)	総務課管理
プロジェクター (3 台) 、ノートパソコン (2 台)	情報センター課管理

◆表3 自習・実習室等

ピアノレッスン室・練習室	20 室	ピアノレッスン室 1~2、練習室 1~18
EML 教室(電子オルガン)	1 教室	北 3-6 教室(25 台)
コンピュータ教室	4 教室	北 3-1 教室(自習室)、北 2-1 教室、北 2-2 教室、SHALOM2-8 教室
LL 教室	2 教室	SHALOM2-6LL 教室、SHALOM2-7LL 教室
絵画・工作室	1 室	北 2-5 教室
小児保健・調理実習室	1 室	北 2-6 教室
自然科学実験室	1 室	SHALOM2-9 教室

本短期大学のネットワークを構成する管理機器及び教育用コンピュータについては、「沖縄キリスト教学院情報センター委員会(以下、「委員会」)規程」に基づき運用管理を行い、ハードウェアの不具合や運用上の技術的な問題に関しては、専門業者と保守契約を取り交わし対応を依頼している。

また、「情報教育ネットワーク利用ガイドライン」にネットワークシステム及びコンピュータの利用に関する事項を定めており、学生便覧及びイントラネットに記載する

とともに、「教室コンピュータの利用手引き」及び「無線 LAN ネットワークの利用手引き」等をオンラインマニュアルとしてイントラネットに掲載している。

教室に設置している教育用コンピュータの平素の管理は、授業開始前に簡易な点検と見回りを実施し、コンピュータに不具合が発生した場合は、教室内設置の内線電話から連絡を受け、情報センター課の職員が対応を行っている。

教育用コンピュータのハードウェアと周辺環境のクリーニング並びに、アプリケーションソフトウェア、ウイルスチェックソフト等のアップデートについては、年 2 回（夏季・春季休業期間中）集中的なメンテナンス整備を専門業者と情報センター課の職員が連携して実施している。講義で使用するアプリケーションソフトについては、情報教育に携わる教員から、変更、更新及び導入等に関して要望を聴取し、委員会で検討している。

また、委員会では、ネットワークシステム及び教育用コンピュータに関する整備計画等についても協議し、学長、事務局長及び部署長等で構成する「沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学運営協議会」に上申している。

〈参考資料-10〉 沖縄キリスト教学院情報センター委員会規程

〈参考資料-11〉 沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学運営協議会規程

（5）校地、校舎の安全性、障がい者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

滑り防止のため、講義棟等全ての建物内部のフローリングをウレタン膜仕上げにし、階段にはノンスリップタイルを施すとともに、扉のドアクローザーを定期的に点検し、開閉時の事故防止に努めている。また、美観維持のため、定期的に構内の除草作業を行っており、これにより危険生物（ハブ等）の構内への侵入を防ぐ結果にも繋がっている。

キャンパス内には、点字タイル、車椅子のためのスロープ、障がい者トイレ等が整備され、北棟及び西棟のエレベータ横には、車椅子の学生の目線に合わせたスイッチ、車椅子対応の冷水機を設けるなど、バリアフリーの環境整備を行っている。各階への移動はスムーズに行えるようになっているが、西棟チャペル前のスロープの勾配がきつく介助者を必要とすること、雨天時の更なる滑り防止対策が今後の重要な課題となっている。

体育館には音響、照明設備等の整った舞台があり、授業以外、入学式・卒業式等の式典会場としても利用されている。放課後や休日は、スポーツ、サークル活動の場として学生や地域の方々にも開放している。

学生の休憩場所としては、北棟 1 階に座席数 230 の食堂を兼ねた学生ユニオンや SHALOM 会館にコーヒーショップを併設するラウンジが整備されている。その他、中庭にはガジュマル（多幸の木）、サガリバナ等の木々を植樹し、厳しい夏の陽光を遮る憩いの場を成し、中庭を取り囲むようにキャンパス内各所にベンチを配置し、くつろげる環境整備に努めている。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

1. 図書館の概要

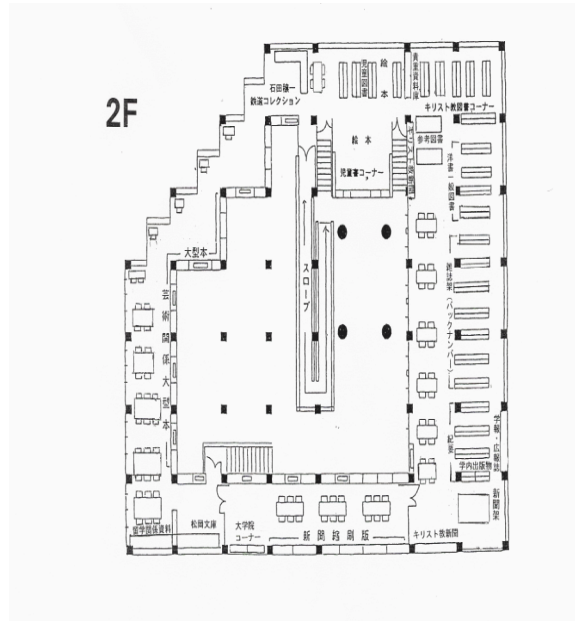
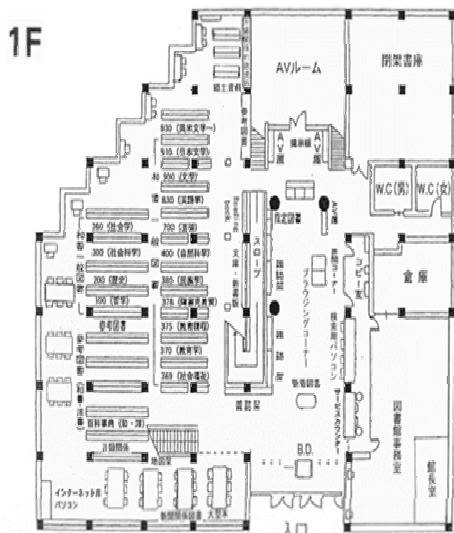
本短期大学図書館は、キャンパスの中心に位置し、1～2階が図書館、3～4階がチャペルで、「祈りつつ学び、学びつつ祈る」場として、チャペルとともに本短期大学教育の根幹に捉えられている。

図書館前には「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」(ヨハネによる福音書8:32)という言葉が定礎に刻まれており、これが本短期大学の土台石となっている。

平成9年4月9日には、短期大学創立40周年記念事業の一環として、本短期大学の設立と運営に多大な貢献をなした宣教師を記念して、WALTER W. KRIDER 図書館と命名し、図書館正面玄関に銘記されている。

専有延床面積は1,271平方メートル。書架収納可能冊数は、約17万冊、閲覧座席数は、166席。情報端末は、オンライン蔵書目録(OPAC)検索用2台、インターネット検索用2台、データベース検索用2台、カウンター用1台、図書館事務専用5台の、計12台を整備している。AVルーム1室、ビデオ5台、CD5台、LD5台あり、複写機2台(内1台カラーコピー可)、マイクロレコーダ1台を備えている。

2. 全体配置図



3. 年間図書館予算

◆平成21年度

(単位：円)

予算総額	図書費 (AV資料含)	出版物費 (雑誌等)	情報関連資料費
27,001,000円	9,900,000円	4,400,000円	6,083,000円

4. 購入図書等選定システム

本図書館では、基本図書を選定するとともに、参考図書、継続購入図書、一般図書、学術研究図書なども積極的に選書している。毎年4月に図書館委員会において図書の選定について協議し、講義開始時期（前期・後期）に各科図書館委員を經由して、約100万円の図書選定予算枠を各学科（英語科・保育科・総合教育系）へ配分し、各学科のシラバス「授業計画・授業内容」への効果的な供給ができるよう配慮している。各学科より推薦された図書や研究者から希望図書として申請のある高額図書、新規購入雑誌等については、図書館委員会で協議決定している。また、各授業科目担当者から指定図書として推薦された未所蔵の図書については、館長決裁を以って承認し、授業に支障のないよう迅速な対応を講じている。特に、県内随一のキリスト教関係図書の蔵書数を誇る本短期大学としては、積極的にキリスト教関連図書の選定並びに資料の収集に当たっている。

本図書館では、図書購入リクエストシステムがあり、カウンター前に申請用紙を設置し学生、教職員が自由にリクエストできるようになっている。最大限リクエストに応えられるように、館長決裁を以って購入している。また、学生の読書を推進する目的で、学生及び教職員からの投稿を募り、毎年『こんな本読んだ』の小冊子を刊行し、冊子の中で紹介された図書は全て購入対象として選定している。

5. 図書等廃棄システム

紛失が判明し、さらに3ヶ年を経過した図書及び資料については、「沖縄キリスト教学院図書館資料収集・管理規程」第13条及び第14条に基づき、所定の手続きを取り廃棄し、除籍原簿を作成している。

6. 司書数

職員は、専任職員2人、非専任職員（非常勤事務職員・派遣職員）3人の計5人で構成し、そのうち司書有資格者は、専任職員1人、非専任職員3人の計4人である。

7. 情報化の進捗状況

本図書館では、平成9年にローカルシステムとして「情報館」を導入し、蔵書管理、発注・受入、貸出管理、会計・統計処理業務を行っている。国立情報学研究所（NII）が構築する学術情報システムも同時に参加し、全国の大学図書館等が所蔵する膨大な情報源にウェブサイト上で簡単にアクセスできるようになった。また、学内にLANを敷設し、図書館に専用パソコンを6台設置したことにより、ウェブサイト上の膨大な資料源へのアクセス、並びに本図書館の蔵書の検索・閲覧・印刷が迅速にできるようになった。

オンラインデータベース導入状況は下記のとおりである。

◇朝日新聞記事データベース「聞蔵」

◇ELNET（日本全国新聞・雑誌記事 紙面データベース）

◇CSA Illumina（JPN/ENG）

CSA（Cambridge Scientific Abstracts）社が提供する各種データベースを横断検索することができるインターフェース。以下のデータベース。

・（言語学）CSA Linguistics and Language Behavior Abstracts

- ・(社会学) CSA Sociological Abstracts
- ・(心理学) PsycINFO
- ◇琉球新報データベース
- ◇沖縄タイムスデータベース
- ◇EBSCO 社 (Academic Search Elite) 大学・学術機関向けにつくられた雑誌論文全文データベース。収録誌数：約 2,030 誌。
- ◇日本経済新聞社 (日経 BP) 専門誌 50 誌の雑誌・記事のデータベース

〈参考資料-12〉 沖縄キリスト教学院大学図書館資料収集・管理規程

〈参考資料-13〉 図書館委員会規程

(2) 図書館等に備えられている蔵書数 (和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等) を下表を例に作成して下さい。

◆図書館蔵書数一覧 (平成 21 年 5 月 1 日現在)

区分	和書	洋書	AV資料	学術雑誌
冊 (種)	79,539 冊	12,563 冊	4,571 点	112 種

※併設の沖縄キリスト教学院大学と共用

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者 (図書館長等) が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

本図書館では、図書委員会において、平素から、授業に関連する参考図書並びに一般図書の選書について協議し、学生の教育及び自習に支障を来たさないよう万全を期している。特に、平成 19 年度からは、学生・研究者への利用要求を充足するため、講義開始の時期に各学科へ要望伺いを行っている。その結果を基に、研究者・各学科のシラバス「授業計画・授業内容」の要求を充足できるよう、図書館委員会において協議することが定例となっている。

英語科においては、英語の読解力と読書力を強化するため、多読用教材を読ませてブックレポートの作成を課し、原著を読むトレーニングにもつなげている。それに呼応し、図書館では、洋書・多読書を一昨年より多数購入し、多読書コーナーを充実させている。読本に難易度別のポイントを配分し、一定量のノルマを課しているクラスもあり、英語科学学生の利用頻度が高く、貸出増につながっている。

保育科においては、保育実習・幼稚園実習に使用するため、大型絵本・大型紙芝居の購入を積極的に取組んでいる。絵本の読み聞かせ等に大型本に人気集中し、実習時には館外貸出も活発である。

その他、講義に関連した必読書として担当教員が指定した図書で、未所蔵のものを優先的に購入し、指定図書コーナーを充実させている。

学生の貸出数は、全国平均を超えているが、今後、さらに利用増を図る施策を講じていきたい。

◆利用者数及び利用状況

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

開館日数	257 日	
入館者数※	107,604 人 (1 日平均 418.7 人)	
貸出状況※	7,819 冊・点	2,557 人 (内 AV 資料: 41 点 27 人)

※入館者数は、ブックディテクションシステムにより、自動的にカウントされた全入館者数。

併設の沖縄キリスト教学院大学と共用のため、短期大学のみのカウントはできない。

※貸出状況は、短期大学の学生数。

◆館外貸出冊数・図書 (学生・職員・学外)

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

	学 生	職 員	学 外	合 計
人 数	2,557	413	385	3,355
冊 数	7,819	881	939	9,639

学生数	493
学生 1 人当り年間貸出冊数	15

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

本図書館ウェブサイトには図書館の利用等に関する情報を発信している。学内外からウェブサイト上での OPAC 検索が可能で、本図書館の公開している情報検索が容易にできる。

他の図書館等との連携等については、県内では、沖縄県大学図書館協議会及び沖縄県立図書館協議会に加盟しており、県外においては、私立大学図書館協議会及び九州地区図書館協議会に加盟している。文献複写の依頼・受付、資料貸出・借受、レファレンスの依頼・受付等、積極的に相互協力を推進している。

本短期大学の学習・教育をサポートするため、図書館利用者のマナー向上を図書館における重要な課題と捉え、利用者教育に取り組んでいる。図書館利用者教育の一環として、新生全員を対象とし、4月の入学時に「表現技法」の授業の中で、クラスごとの図書館利用オリエンテーションを実施している。図書館利用のビデオ視聴、館内ツアー、コンピュータによる情報検索等を実施している。その他、教員と図書館司書が協働で、クラスやゼミ単位で、学生に対する文献探索指導を行うこともある。

本図書館は、全国の大学図書館と連携し、学術情報の共有に務めているという点で大きく進化しつつある。今後は、デジタル情報検索の周知徹底等、大学教育に資する授業科目との連携は無論のこと、学生たちが読書を楽しめる環境づくりに努めてゆきたい。

《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》

【単位認定について】

(1) 次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。

なお、この表は平成20年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

◆英語科の単位認定状況

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
					本試	再試験等	計	秀	優	良	可	不可
必修科目	英語聖書講読	講義	106	期末試験	93%	0%	93%	29%	25%	27%	11%	7%
	特別研究	講義	111	リサーチペーパー	93%	0%	93%	40%	35%	16%	2%	7%
選択必修A	Basic Oral Skills	演習	22	期末試験	95%	0%	95%	32%	36%	23%	5%	5%
	Oral English I	演習	95	期末試験	95%	0%	95%	34%	41%	13%	7%	5%
	Oral English II	演習	91	期末試験	99%	0%	99%	27%	31%	33%	8%	1%
	Oral English III	演習	74	期末試験	95%	0%	95%	53%	34%	7%	1%	5%
	Oral English IV	演習	54	期末試験	96%	2%	98%	31%	33%	20%	13%	2%
	Tourism English I	演習	25	期末試験	100%	0%	100%	48%	44%	8%	0%	0%
	Tourism English II	演習	31	期末試験	97%	0%	97%	19%	55%	23%	0%	3%
	Discussion in Eng. Oral Presentation	講義 演習	27 20	期末試験 期末試験	96% 95%	0% 0%	96% 95%	26% 35%	41% 35%	22% 5%	7% 20%	4% 5%
選択必修B	基礎英文法	演習	36	期末試験	89%	0%	89%	6%	17%	36%	31%	11%
	英作・文法 I	演習	82	期末試験	89%	0%	89%	20%	30%	21%	18%	11%
	英作・文法 II	演習	95	期末試験	92%	0%	92%	27%	25%	33%	6%	8%
	Paragraph Writing I	講義	94	期末試験	87%	1%	88%	30%	29%	22%	7%	12%
	Paragraph Writing II 高等英文法	講義 講義	20 9	期末試験 期末試験	75% 56%	10% 0%	85% 56%	10% 33%	40% 22%	35% 0%	0% 0%	15% 44%
選択必修C	英語講読基礎 I	演習	64	期末試験	94%	0%	94%	28%	34%	25%	6%	6%
	英語講読基礎 II	演習	65	期末試験	95%	0%	95%	52%	25%	18%	0%	5%
	英語講読 I	演習	58	期末試験	90%	3%	93%	29%	22%	26%	16%	7%
	英語講読 II	演習	45	期末試験	84%	0%	84%	40%	18%	18%	9%	16%
	英語講読 III	演習	16	期末試験	75%	0%	75%	6%	25%	38%	6%	25%
	英語講読 IV Current Issues in English	演習 講義	6 65	期末試験 期末試験	100% 91%	0% 0%	100% 91%	50% 20%	50% 51%	0% 20%	0% 0%	0% 9%
選択必修D	イギリス文学	講義	62	期末試験	87%	2%	89%	29%	29%	27%	3%	11%
	アメリカ文学	講義	47	期末試験	85%	0%	85%	9%	32%	45%	0%	15%
選択科目	Dramatic Reading	演習	11	期末試験	82%	0%	82%	18%	27%	18%	18%	18%
	英米のポップカルチャー	講義	23	期末試験	70%	0%	70%	22%	17%	22%	9%	30%
	TOEIC I	演習	53	期末試験	85%	0%	85%	25%	13%	15%	32%	15%
	TOEIC II	演習	11	期末試験	64%	0%	64%	9%	18%	18%	18%	36%
	TOEIC III	演習	11	期末試験	82%	9%	91%	18%	9%	36%	27%	9%
	観光概論	講義	49	期末試験	76%	2%	78%	20%	24%	24%	8%	22%
	観光実務	講義	46	期末試験	87%	0%	87%	28%	20%	24%	15%	13%
	Travel Industry Components	講義	19	期末試験	84%	0%	84%	0%	26%	26%	32%	16%
	商業英語	講義	44	期末試験	93%	0%	93%	14%	30%	34%	16%	7%
	秘書学概論	講義	73	期末試験	93%	0%	93%	25%	27%	26%	15%	7%
	秘書実務	演習	74	期末試験	91%	0%	91%	36%	32%	16%	5%	9%
	経営概論	講義	15	期末試験	93%	0%	93%	40%	27%	13%	13%	7%
	簿記	講義	21	期末試験	81%	0%	81%	14%	5%	24%	38%	19%
	ビジネス実務総論	講義	77	期末試験	81%	0%	81%	21%	21%	25%	14%	19%
	ビジネス実務演習	講義	58	課題	100%	0%	100%	64%	26%	3%	7%	0%
	人間関係論	講義	47	レポート	91%	0%	91%	28%	40%	23%	0%	9%
文書実務	講義	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

(英語科の単位認定状況のつづき)

種別	授 業 科 目	授 業 形 態	履 修 人 員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
					本試	再試験等	計	秀	優	良	可	不可
選 択 科 目	沖縄経済論	講義	15	期末試験	100%	0%	100%	87%	0%	0%	13%	0%
	キャリア ガイダンス	講義	28	期末試験	82%	0%	82%	21%	46%	11%	4%	18%
	インターンシップ	実習	29	レポート	76%	0%	76%	66%	7%	0%	3%	24%
	英文ワードプロセッサ	演習	41	期末試験	95%	0%	95%	29%	37%	24%	5%	5%
	マルチメディア演習	演習	53	課題	91%	0%	91%	81%	8%	2%	0%	9%
	情報処理概論	講義	12	期末試験	100%	0%	100%	50%	42%	0%	8%	0%
	情報倫理	講義	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	プログラミング基礎演習	演習	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	表現伝達の技法	講義	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	プレゼンテーション概論	講義	10	課題	100%	0%	100%	0%	80%	20%	0%	0%
	プレゼンテーション技能	演習	21	実践	100%	0%	100%	62%	29%	10%	0%	0%
	情報機器利用アプリケーション演習	演習	27	実践	100%	0%	100%	67%	22%	7%	4%	0%
	マーケティング入門	講義	42	期末試験	95%	0%	95%	40%	33%	19%	2%	5%
	日本語表現法	講義	20	レポート	90%	0%	90%	35%	40%	15%	0%	10%
	通訳とプレゼンテーション	演習	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	総合中国語	講義・演習	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	英語学概論 I	講義	3	期末試験	67%	0%	67%	67%	0%	0%	0%	33%
	英語音声学	講義	10	期末試験	40%	10%	50%	20%	10%	10%	10%	50%
	異文化理解	講義	42	期末試験	93%	0%	93%	19%	45%	21%	7%	7%
	海外研修 (国際交流)	講義	6	レポート	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
	海外研修 (多文化共生)	講義	4	レポート	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
	コミュニケーション入門	講義	5	期末試験	40%	0%	40%	0%	0%	20%	20%	60%
	同時通訳初級	講義・演習	9	実演	89%	0%	89%	33%	44%	11%	0%	11%
	同時通訳上級	講義・演習	0	実演	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	比較文化	講義	5	期末試験	80%	0%	80%	20%	40%	20%	0%	20%
	Dramatic Performance	講義	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	TOEIC(Listening)	講義	23	期末試験	78%	0%	78%	22%	26%	9%	22%	22%
	TOEIC(Reading)	講義	17	期末試験	82%	0%	82%	18%	0%	12%	53%	18%
	プログラミング理論	講義	27	期末試験	89%	0%	89%	26%	44%	19%	0%	11%
	システム設計演習	講義	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	同時通訳基礎	講義	9	実演	89%	0%	89%	56%	11%	22%	0%	11%
	同時通訳 I	講義	5	実演	60%	0%	60%	20%	40%	0%	0%	40%
	同時通訳 II	講義	0	実演	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

◆保育科の単位認定状況

(平成 20 年度卒業生)

種別	授 業 科 目	授 業 形 態	履 修 人 員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
					本試	再試験等	計	秀	優	良	可	不可
必 修 科 目	社会福祉	講義	124	期末試験	100%	0%	100%	43%	47%	10%	0%	0%
	児童福祉	講義	124	期末試験	98%	0%	98%	81%	15%	2%	0%	2%
	教育原理	講義	127	期末試験	97%	0%	97%	13%	23%	10%	51%	3%
	保育原理 I	講義	124	期末試験	100%	0%	100%	23%	34%	25%	19%	0%
	保育原理 II	講義	137	期末試験	89%	0%	89%	19%	29%	25%	16%	11%
	キリスト教保育	講義	121	期末試験	98%	0%	98%	30%	42%	19%	7%	2%
	発達心理学 I	講義	133	期末試験	92%	0%	92%	42%	17%	13%	21%	8%
	乳児保育演習	演習	131	期末試験	93%	0%	93%	14%	30%	24%	25%	7%
	小児保健 I	講義	123	期末試験	100%	0%	100%	63%	16%	16%	4%	0%
	精神保健	講義	121	期末試験	99%	0%	99%	49%	35%	12%	4%	1%
	小児栄養演習	演習	123	期末試験	97%	0%	97%	46%	37%	11%	4%	3%
	家族援助論	講義	121	期末試験	98%	0%	98%	98%	1%	0%	0%	2%
	健康指導法	演習	125	期末試験	96%	2%	98%	16%	42%	30%	10%	2%
	人間関係指導法	演習	123	期末試験	100%	0%	100%	46%	41%	12%	0%	0%
	環境指導法	演習	123	期末試験	98%	0%	98%	61%	24%	8%	6%	2%

(保育科の単位認定状況のつづき)

種別	授 業 科 目	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)					
					本試	再試験等	計	秀	優	良	可	不可	
必修科目	言葉指導法	演習	128	期末試験	95%	0%	95%	60%	28%	5%	2%	5%	
	音楽表現指導法	演習	126	実技テスト	97%	0%	97%	70%	16%	6%	5%	3%	
	造形指導法	演習	124	作品	100%	0%	100%	99%	0%	0%	1%	0%	
選択科目	音楽Ⅰ	演習	140	期末試験	84%	0%	84%	31%	26%	14%	13%	16%	
	音楽Ⅱ	演習	152	期末試験	77%	2%	79%	30%	23%	18%	8%	21%	
	図画工作Ⅰ	演習	121	作品	100%	0%	100%	98%	2%	1%	0%	0%	
	図画工作Ⅱ	演習	118	作品	100%	0%	100%	75%	9%	13%	3%	0%	
	幼児体育Ⅰ	演習	122	実技テスト	98%	0%	98%	60%	28%	7%	2%	2%	
	幼児体育Ⅱ	演習	120	実技テスト	99%	0%	99%	93%	6%	0%	0%	1%	
	生活技能	演習	117	期末試験	99%	0%	99%	62%	23%	12%	3%	1%	
	飼育栽培	演習	124	期末試験	97%	0%	97%	81%	12%	2%	1%	3%	
	幼児の言葉	講義	123	期末試験	98%	0%	98%	52%	27%	10%	10%	2%	
	総合教育研究	演習	118	研究発表	99%	1%	100%	81%	9%	1%	9%	0%	
	△ 保育課程総論	講義	121	期末試験	97%	0%	97%	3%	18%	50%	26%	3%	
	△ 保育者論	講義	117	期末試験	100%	0%	100%	36%	44%	20%	1%	0%	
	△ 保育指導法ゼミ	演習	122	期末試験	98%	0%	98%	21%	38%	21%	17%	2%	
	△ 保育カウンセリング教育実習	講義 実習	117 113	期末試験 現場評価	100% 100%	0% 0%	100% 100%	29% 11%	21% 52%	43% 32%	7% 5%	0% 0%	
	選択科目	視聴覚教育	演習	64	発表	98%	0%	98%	28%	66%	5%	0%	2%
		保育メディア研究	演習	69	作品	91%	0%	91%	71%	14%	0%	6%	9%
		社会福祉援助技術	演習	121	期末試験	95%	2%	97%	43%	27%	13%	13%	3%
		養護原理	講義	123	期末試験	100%	0%	100%	46%	33%	17%	4%	0%
		教育心理学	講義	121	期末試験	98%	0%	98%	43%	50%	4%	1%	2%
		小児保健Ⅱ	講義	126	期末試験	97%	0%	97%	45%	23%	21%	8%	3%
		小児保健実習	実習	124	期末試験	98%	0%	98%	44%	28%	21%	5%	2%
		障害児保育演習	演習	121	期末試験	97%	0%	97%	69%	17%	8%	3%	3%
		養護内容演習	演習	118	期末試験	99%	0%	99%	31%	40%	25%	3%	1%
		保育実習Ⅰ	実習	116	現場評価	100%	0%	100%	12%	59%	28%	2%	0%
		施設実習Ⅰ	実習	119	現場評価	98%	0%	98%	98%	0%	0%	0%	2%
		保育実習指導	演習	122	レポート	98%	0%	98%	55%	35%	6%	2%	2%
		施設実習指導	演習	126	レポート	97%	0%	97%	85%	10%	2%	0%	3%
		保育実習Ⅱ	実習	116	現場評価	100%	0%	100%	13%	58%	28%	2%	0%
		施設実習Ⅱ	実習	4	現場評価	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
		△ 発達心理学Ⅱ	講義	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
△ 海外幼児教育研究		講義	23	課題	91%	0%	91%	74%	13%	0%	4%	9%	
△ 老人福祉論	講義	0	レポート	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		
△ 手話Ⅰ	演習	38	実技の表現	95%	0%	95%	18%	45%	26%	5%	5%		
選択科目	手話Ⅱ	演習	0	実技の表現	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
	音楽Ⅲ	演習	20	実技テスト	95%	0%	95%	95%	0%	0%	0%	5%	
	海外幼児教育研修	実習	3	レポート	100%	0%	100%	0%	67%	33%	0%	0%	
	英語講読	演習	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
	レクリエーション概論	講義	28	レポート	100%	0%	100%	50%	29%	21%	0%	0%	
レクリエーション基礎実技Ⅰ	演習	28	実技テスト	100%	0%	100%	50%	43%	7%	0%	0%		
レクリエーション基礎実技Ⅱ	演習	27	実技テスト	100%	0%	100%	37%	44%	19%	0%	0%		
レクリエーション実習	実習	28	実習状況	100%	0%	100%	89%	11%	0%	0%	0%		

※保育士資格取得希望者は△印の科目より2単位以上選択必修

◆総合教育系の単位認定状況

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
					本試	再試験等	計	秀	優	良	可	不可
必修科目	※ キリスト教学Ⅰ	講義	255	期末試験	85%	0%	85%	32%	16%	18%	18%	15%
	※ キリスト教学Ⅱ	講義	238	期末試験	94%	0%	94%	30%	26%	25%	13%	6%
	表現技法	講義・演習	246	課題	92%	0%	92%	36%	35%	15%	7%	8%
	○ コンピュータ・リテラシー	講義・演習	228	期末試験	92%	0%	92%	53%	20%	14%	5%	8%
選択必修科目	キリスト教平和学	講義	7	レポート	100%	0%	100%	43%	0%	57%	0%	0%
	キリスト教人間学	講義	6	レポート	100%	0%	100%	17%	67%	17%	0%	0%
	文学と読書	講義	10	期末試験	100%	0%	100%	20%	40%	40%	0%	0%
	朗読の科学	講義	16	レポート	94%	0%	94%	44%	50%	0%	0%	6%
	◇ アジア研究	講義	24	朗読	83%	0%	83%	38%	46%	0%	0%	17%
	◇ 沖縄の自然と文化	講義	45	レポート・エッセイ	91%	0%	91%	80%	4%	7%	0%	9%
	琉球史	講義	43	期末試験	88%	0%	88%	5%	47%	28%	9%	12%
	科学リテラシー	講義・演習	38	期末試験	100%	0%	100%	82%	8%	5%	5%	0%
	○ 日本国憲法	講義	176	期末試験	98%	0%	98%	20%	48%	23%	7%	2%
	心理学	講義	84	期末試験	82%	0%	82%	17%	33%	18%	14%	18%
	カウンセリング	講義	90	期末試験	82%	2%	84%	32%	28%	17%	8%	16%
	文化人類学	講義	82	エッセイ	99%	0%	99%	70%	16%	11%	2%	1%
	経済学	講義	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	ヘルスプランニング	講義	38	期末試験	95%	0%	95%	37%	55%	3%	0%	5%
	○ 体育理論	講義	129	期末試験	95%	0%	95%	49%	28%	13%	5%	5%
	○ 体育実技	実習	143	期末試験	97%	0%	97%	92%	3%	0%	2%	3%
	人間の研究	講義・実習	6	期末試験	83%	0%	83%	83%	0%	0%	0%	17%
要約筆記(ノートテイキング)	講義・演習	9	期末試験	44%	0%	44%	0%	33%	11%	0%	56%	
ボランティア	演習	0	活動証明書・レポート	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
統計情報処理	講義	6	期末試験	17%	0%	17%	0%	17%	0%	0%	83%	
外国語系	◇ 日本語読解表現Ⅰ	演習	1	期末試験	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
	◇ 日本語読解表現Ⅱ	演習	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	◇ 日本語音声表現Ⅰ	演習	0	期末試験	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	◇ 日本語音声表現Ⅱ	演習	1	期末試験	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
	オーラルイングリッシュ	演習	24	総合的評価	100%	0%	100%	33%	50%	17%	0%	0%
	英語	演習	109	発表・出席・態度	94%	1%	95%	21%	50%	23%	2%	5%
	中国語	演習	59	期末試験	95%	0%	95%	68%	14%	14%	0%	5%
韓国語	演習	29	期末試験	72%	0%	72%	38%	24%	3%	7%	28%	
スペイン語	演習	47	期末試験	87%	0%	87%	11%	19%	17%	40%	13%	

※留学生・帰国生は、必修科目中の※印の科目を6単位、選択必修科目の一般より◇印の科目1科目を含む6単位以上、外国語より◇印の科目から4単位以上、計16単位以上履修しなければならない。

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

〔英語科〕

評価はおおむね良好に行われているが、単位の取得状況については、授業科目によりかなりの差異がみられる。また、「不可」の評価に出席回数不足によるものが多く、学生の生活リズム面の指導も英語科の課題の一つである。

〔保育科〕

保育科の単位の評価に在っては、教育活動に参画する専任・兼任教員が、教員としての良識を持ち、科会・兼任教員懇談会等における意思疎通により、おおむね本短期

大学の評価制度に即した評価を実施しているものと認識している。今後は、昨今の基礎学力低下の傾向に対する対策をより充実させつつ、決して資格の取得を優先する評価に陥らぬよう、高い保育士・幼稚園教諭二種免許の免許・資格取得率を逆の視点から注視し、教育力の維持、向上に努めていきたいと思う。

【総合教育系】

おおむね適切な評価がなされているが、授業科目によっては、レポート等の課題の量、平均点の基準設定等、評価方法においてバラつきが散見される。今後協議を重ね、可能な限り透明な統一性のある評価基準を設定し、学生に公表してゆきたい。

（3）学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

本学学則第5章第29条（成績考査）において、「評価は期末試験成績、随時試験成績、出席状況・平時の学習状況・レポート等により総合的に行う。」とし、評価結果を、「秀」（90点以上）、「優」（80点～90点未満）、「良」（70点～80点未満）、「可」（60点～70点未満）、「不可」（60点未満）で表示することとしている。

なお、本短期大学授業科目に対する、前述の5段階評価のほか、（短期大学・大学等教育機関において履修した）入学前の既修得単位についても認定（最大30単位）している。

個々の学生の評価結果は、本短期大学「履修規程」に基づき、グレード・ポイント・アベレージ(GPA)制度によって算出した評定平均値を学生の履修状況を把握する目安としており、GPA 1.5未満の場合、アドバイザーによる勧告・指導・助言を行い、GPA 1.0未満の者に対しては、学科長が退学を勧告することができる、としている。

このように、学則及び履修規程において明示されている基準ではあるが、果たして、その運用が同等の評価基準となっているか。本短期大学では、評価基準の運用を、統一性のある公平なものとするための、議論、制度整備が遅れている。その評価基準の優劣を分け、あるいは実効性のあるものとするか否かは、全ての評価者が、その評価基準の運用を、統一性のある公平なものとし、本短期大学の教育力レベルの維持・向上に努めることが肝要であると考え。そのためには、学科の別、専任、兼任教員の別を問わず、全ての評価者が、統一した評価基準が持てるよう、議論を重ねていく必要がある。

【授業に対する学生の満足度について】

（1）各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

本短期大学では、毎学期末、学内の全授業を対象に、授業の計画性、分かり易さ、教員の熱意等に関する「学生による授業評価アンケート」を実施し、その結果を印刷物として公表している。また、後学期末には、卒業生を対象とした「満足度調査」アンケートも行っている。調査結果の概要に見る授業全体の満足度の平均値は、5段階

評価で約4となっており、おおむね高い評価を得ている。

〈参考資料-3〉 学生による授業評価について

〈参考資料-14〉 満足度調査

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

本短期大学では、毎学期末に「学生による授業評価アンケート」を実施し、その結果を印刷物にし、全専任・兼任教員に配布・公表している。「学生の満足度への配慮」に関しては、英語科、保育科、総合教育系において均しく、特に問題のある場合は、科会及び教授会において全学的な問題として協議し、必要な場合は、学科長から授業担当者に対し改善を促している。それ以外の場合は、学生の評価を受けた個々の教員の自主的な改善を尊重している。

現行のアンケート調査の様式（質問項目、内容等）並びに編集方法に関しては、内容を精査し、より教育力の向上に資するものに改めるべきとの要望が挙がっている。評価者が真面目な評価を行っているか否かという点でも、真摯な評価と悪ふざけとも取れる酷評（特に自由記述の部分で顕著）へと二極化している状況が認められ、評価される授業が抱える問題点の実情を洗い出すための更なる工夫が求められる。評価者の意図することが十分に反映される質問項目となっているかという点でも、事務所窓口等で授業に対する種々の不満を訴えてくる学生もおり、今一度、再考を要する。

今後、専任・兼任教員が共に、教育力の向上のため、積極的に切磋琢磨し、改善を実践していくためには、当該アンケートに加え、ピア・レビュー制度等、異なった視点での評価制度も導入し、多角的に議論できる制度・環境整備が必要であると認識している。

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

前述のとおり、「学生による授業評価アンケート」及び「満足度調査」では概して高い評価を得ており、本短期大学の教育活動はおおむね順調に展開していると認識している。

また、平成20年度に、マーケティング専門の業者に委託し、英語科、保育科の在学生に対して実施した意識調査では、「大学のお気に入り」においては、それぞれ、〔図書館、小さな大学、先生が外国人〕、〔ピアノ教室、ユニオン、チャペル〕と回答し、満足度と密接な関係があると思われる「本学のイメージ」では、それぞれ、〔英語や語学、小さな大学、キリスト教教育／建学の精神〕、〔保育、キリスト教教育／建学の精神、小さな大学〕となっている。

この調査結果からは、学生が学習環境に基本的に満足し、教育面においても、両学科の専門教育並びにその根底を成す建学の精神に関し、イメージ形成に足りる評価を与えているものと考えられる。

今後は、教育力の更なる充実を図るため、現行の「授業評価」の質問項目をより効

果的なものに精選するとともに、ピア・レビュー制度も加え、客観的かつ総合的な評価制度の構築に努めたい。

〈参考資料-15〉 沖縄キリスト教学院各種マーケティングリサーチ結果及び今後の展開

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の退学、休学、留年等の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

◆英語科退学者等一覧表

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

区分	18年度入学	19年度入学	20年度入学	備考
入学者数	127	101	122	
うち退学者数	7	3	6	
うち休学者数	14	12	2	
休学者のうち復学者数	9	10	2	
うち留年者数	3	5	—	
卒業者数	98	83		

◆保育科の退学者等一覧表

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

区分	18年度入学	19年度入学	20年度入学	備考
入学者数	127	124	115	
うち退学者数	4	3	3	
うち休学者数	2	3	0	
休学者のうち復学者数	2	2	0	
うち留年者数	0	2	—	
卒業者数	121	116		

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について学科等ごとに記述して下さい

〔英語科〕

英語科における平成 18 年度～20 年度間の退学者数は、前掲表のとおり、7 人／127 人、3 人／101 人、6 人／122 人である。退学者の退学理由の割合は、「進路変更」〔14%、67%、33%〕※、「経済的理由」〔29%、—※、17%〕、「一身上の都合」〔14%、—、—〕、「家庭の事情」〔—、33%、—〕、「出産育児」〔14%、—、—〕となっている。

(※〔平成 18 年度、平成 19 年度、平成 20 年度〕、—：該当者無し)

退学・休学の相談は原則的にその学生のアドバイザーが受け、面接をし、指導・助言を行った後、学科長、教学部長、教授会、学長がこれを承認している。長期欠席者に対しては、アドバイザーが逐次指導しているほか、カウンセラーも相談に対応している

る。留年者に対する指導に関しては、まだ体系的な制度として成熟しておらず、課題であると認識している。

〔保育科〕

保育科における平成 18 年度～20 年度間の退学者数は、前掲表のとおり、4 人／127 人、3 人／124 人、3 人／115 人である。退学者の退学理由の割合は、「進路変更」[75%，33%，33%]※、「経済的理由」[－※，33%，－]、「家庭の事情」[－，－，33%]となっている。

(※ [平成 18 年度，平成 19 年度，平成 20 年度]、－：該当者無し)

保育科では、従来より、個々のアドバイザーによる指導のほか、毎月の定例学科会議において学生の出席状況、履修態度等の情報を共有し、学科長を中心に、専任教員が一丸となって、学生の生活面をも含めた木目細かな指導を行っている。長期欠席者が出た場合は、カウンセラーも相談に対応している。

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

〔英語科〕

退学理由の中で顕著なのが「進路変更」と「経済的理由」で、特に、近年「進路変更」による退学の増加が際立つ。「経済的理由」は、平均所得の低さ等沖縄県の特殊事情を反映するものとして、従来から学生支援策（緊急特別奨学金等）を講じる上で注視しており、世界的な不況が蔓延する昨今一層注意を要する。「進路変更」による退学については、英語科として、極めて深刻な状況であると認識している。「進路変更」という退学理由は、退学を決した学生からすると、即ち「本短期大学英语科の教育課程が学生を満足させるに不十分なものであった」と理解し、危機感を持ってその現実を直視し、魅力ある教育課程の実現に向け改編に着手している。

〔保育科〕

保育科では、学生指導に万全を期してきた結果、退学者数を低く抑えることに成功しているものの、退学理由が、小学校教諭の免許取得のため他大学に進学した者を含め、「進学のため」となっているのが気になる。今後、如何に社会のニーズに応える教育課程にするか、現在検討中である。

(4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

退学者、休学者、留年者の数は少なく、また多くの休学者は、復学し卒業しているが、私達が最小限に抑えようと最大限の努力をしているも少数の退学者はなおも存在している。それらの退学者の中には、経済的な理由による者が多く含まれている。本短期大学では、経済的に困窮する学生たちが学業を全うし卒業できるよう支援するため、平成 20 年度より 500 万円の特別奨学金を設けている。このような支援策は、本土と比べ経済的減退が厳しい沖縄県に在っては、極めて重要である。

【資格取得の取り組みについて】

(1) 《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3)(8ページ)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等)を学科等ごとに示して下さい。

〔英語科〕

教育課程において取得可能な免許・資格の取得状況は以下のとおりである。100パーセントを満たしていないのは、必要な単位取得の不足による。

◆英語科の免許・資格取得状況

	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合
秘書士	37	35	94.6%	35	35	100%	23	23	100%
情報処理士	28	28	100%	16	16	100%	13	10	76.9%
ビジネス実務士	34	33	97.1%	19	18	94.7%	18	17	94.4%
プレゼンテーション実務士	7	7	100%	6	6	100%	2	1	50.0%
観光実務士	6	6	100%	8	8	100%	8	7	87.5%

〔保育科〕

教育課程において取得可能な免許・資格の取得状況は以下のとおりである。保育科では、教育課程を修了した卒業生全員が保育士、幼稚園教諭二種免許状を取得している。100パーセントを満たしていないのは、休学や退学、単位保留等の事由による。

◆保育科の免許・資格取得状況

	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合
保育士	131	117	89.3%	127	121	95.3%	124	115	92.7%
幼稚園教諭二種免許状	131	116	88.5%	127	121	95.3%	124	113	91.1%
レクリエーション・インストラクター	47	47	100%	27	27	100%	26	26	100%

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

英語科では、「即戦力として通用する人材の育成」を学科の努力目標として掲げており、今後、その目標達成に有効な免許・資格の導入を積極的に実施したいと考えている。

保育科では、学生の基礎学力並びに保育士・幼稚園教諭二種免許取得率の向上に全力を傾注しており、現在のところ新たな免許・資格の導入は考えていない。

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職（当該学科等で学習した分野に関連する就職）の状況（専門就職数、割合等）について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

〔英語科〕

本短期大学英语科で修めた英語能力を生かした就職、いわゆる“専門就職”の割合に関しては、2年間という履修期間の短さ、あるいは県内に英語能力を生かせる就職先が極端に少ないという雇用環境から、その割合は、極めて低いというのが現状である。「英語及び母国語によるコミュニケーション能力の養成」という教育目標を楽観的に解釈するならば、卒業生の就職先となっている①金融・保険業〔10人、29.4%〕^{*}、②サービス業（宿泊業、旅行代理店等）〔7人、20.6%〕、③情報通信業〔5人、14.7%〕等から口頭で寄せられる「コミュニケーション能力が高い」とのコメントを、卒業生が本短期大学英语科の専門教育課程において修得した教育目標の一端が評価されたものと理解したい。

（※〔平成20年度就職者数（34人中），割合〕）

なお、前述のとおり、英語科卒業生の従事する職種が必ずしも英語実務を主とするものとなっておらず、専門能力の評価を依頼することも難しく、調査結果を示す就職先からの文書等の資料は準備できていない。

〔保育科〕

保育科では、殆どの卒業生が保育士・幼稚園教諭二種免許、両方の資格を取得しており、従来より高い専門就職の割合を維持している。平成20年度卒者の専門就職者数は88人〔医療、福祉（保育園、施設含む）76人、教育、学習支援業（幼稚園含む）12人〕／118人で、卒業生に占める割合は74.6パーセントとなっている。ただし、近年就職先が四年制大学卒者を望む傾向が強くなっていることに加え、不況による就職難等の要因からも、就職者に占める非正規雇用の割合が極めて高く、その対応策が今後の最も大きな課題である。

本短期大学保育科は県内で限られた保育士・幼稚園教諭二種免許養成機関となっており、その点で、保育園、幼稚園との関わりは深く、就職先へ出向く機会も多く、卒業生に対する評価に接する機会も多い（口頭評価のみ）。その評価は、以下二つに分類できる。

①専ら短期大学卒者を雇用している保育園：

- ・「キリ短保育科卒者は、理論に強く、問題意識を持って行動できる」
- ・「元気があり、協調性にも優れている」
- ・「マナーがしっかりしている」

②四年制大学卒者と併せて短期大学卒者を雇用する保育園、幼稚園：

- ・「四年制大学卒者に比べ、技術・知識面で劣る」
- ・「四年制大学卒者に比べ、身のこなし、マナーが劣る」

(2) 卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

〔学長〕

本短期大学における卒業生の就職内定率及び就職希望率は、英語科が、平成 18 年度卒者〔51.5%、62.7%〕、平成 19 年度卒者〔45.6%、55.3%〕、平成 20 年度卒者〔32.4%、42.9%〕。保育科が、平成 18 年度卒者〔85.0%、90.0%〕、平成 19 年度卒者〔87.9%、89.5%〕、平成 20 年度卒者〔80.5%、82.2%〕。ここ 3 ヶ年の傾向としては、就職内定率、就職希望率ともに減少しており、特に平成 20 年度卒者の場合は、世界同時不況に起因する有効求人倍率の減少（平成 21 年 1 月で 0.37）により、就職内定率が両学科ともに落ち込んでいる。

英語科の場合は、極めて低い就職率ではあるが、就職希望率も低く、就職を希望しない学生が、留学や四年制大学に進学している傾向がうかがえる。英語科では、就職希望者の就職先の確保と同時に、留学や四年制大学編入に力点を置くことが、英語科の特色創りと認識する。保育科の場合は、不況期に在っても、なお極めて高い就職率を維持しているが、より多くの正規雇用を勝ち取るための努力、あるいは四年制大学卒者と比して遜色ない本短期大学保育科卒業生の独自性を創ってゆくための工夫が必要である。

一方、進学状況をみた場合、英語科の平成 18 年度～20 年度間の四年制大学編入者は、31 人 (1) *、20 人 (0)、27 人 (3)、保育科が 3 人 (1)、5 人 (0)、7 人 (2) となっている〔※内数は県外進学者〕。県内編入先からは、卒業時に優秀学生として表彰される者も含め、おおむね好評を得ている。

就職先からの評価に関しては、キャリア開発部担当者、他本短期大学関係者が卒業生の就職先を訪れる際に耳にする評価は肯定的なものが多くを占める。しかし、本短期大学としては、先ず、両学科の上記就職率を社会から本短期大学卒業生に対する一義的評価として、真摯に受け止めたいと思う。今後、アンケート調査等を実施しより精緻な「評価の把握」に努めたいと考える。

〔英語科〕

英語科としては、前述の就職状況を重く受け止め、その改善に向け、以下 4 点を今後の努力目標としたいと考える。①実践的な英語能力の養成を一層充実したものにする、②即戦力として高い社会的評価を獲得できる資格・称号を導入する、③英語に加え、沖縄県の観光産業の需要に即した中国語等の能力を養成する、④進学率（四年制大学編入、留学等）の向上を図る。

なお、英語科における平成 18 年度～20 年度間の進学者数は、31 人 (23.1%)、20 人 (17.5%)、27 人 (25.7%) と高い比率を維持しており、県内進学（四年制大学編入）先からはおおむね高く評価されている。

〔保育科〕

嘗ては“保育のキリ短”として社会的に高く評価され、行政や現場でリーダーとして活躍する者を含め、多くの人材を輩出してきた保育科としては、前述の就職先から

の厳しい評価を重く受け止めている。今後は、平素の教育活動をより充実したものに
するための努力を怠らず、現代社会の需要に即した教育課程改編の可能性を検討して
ゆきたいと考える。

**(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート(卒業後評価等)」等を実施
している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を
確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取
り組みの概要と結果について記述して下さい。**

卒業式前日(リハーサル時)に「満足度調査」を行っている。授業内容、学生生活、
校風等に関する50個の質問項目に対する総合評価の平均値は、平成18年度4.00(33項
目が4.0以上)、平成19年度4.00、平成20年度4.00である。多くの卒業生が、授業内容、
学生生活、校風、課外活動等を高く評価し、自由記述部分では「沖縄キリスト教短期
大学に来て良かった」と記述している。

既卒生が母校を訪れ、「キリ短が親切な大学だと改めて感じる」「今度は自分が人
の役に立ちたい」等のコメントを残してゆくことも少なくなく、建学の精神や大学・
学科の教育目標が具現化していることを示す嬉しい知らせとして受け止めている。

同窓会は活発に活動し、奨学金の提供や学内行事への参加等、積極的に支援し、本
短期大学と密接な関係を維持しているが、教育の実績や効果を確認するための卒業生
との接触や同窓会との連携は目下なく、今後の課題の一つである。

〈参考資料-14〉 満足度調査

**(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をど
のように受け止めているかを記述して下さい。**

本短期大学、英語科、保育科は、嘗て“英語のキリ短”“保育のキリ短”として、1
万余名の卒業生を社会に送り出している。その中には、牧師をはじめ、行政、企業等
各界において、リーダーとして活躍している者も少なくなく、建学以来、極めて高い
社会的評価を得てきた。

近年は、県内高等教育機関や各種学校の増加、あるいは入学者の基礎学力の低下等
により、教育活動が格段に難しいものとなっていることもあり、卒業生のレベルも従
来に比してやや低下しているものと思われる。必然的に、社会的な評価も相対的に低
下していることが懸念され、大学の命運をかけ、教育力の維持・向上に努めなければ
ならない、正に正念場であると認識している。

〔学長〕

本短期大学は52年の伝統を有し、沖縄県に在っては、建学以来“英語のキリ短”“保
育のキリ短”として高く評価されてきた。今日の沖縄県においても短期大学に対する
社会的需要は依然として高く、本短期大学への期待も極めて高い。5年前、学院内に四
年制大学が併設された時、英語科が実践的な英語能力の養成へと方向転換を図ったこ
とは賢明な判断であったし、現在は、沖縄県の観光産業界の需要に対応すべく、英語

以外の外国語教育をも含めた教育課程の改編を進めている。保育科は、伝統的に高く評価された学科の優れた教育方針を継承しつつ、「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」の改訂に伴う教育課程改編の準備に着手している。

本短期大学の現在の各種取り組み並びに卒業生の社会での活躍をみると、「短期大学の社会的需要はなくなりつつある」とみる一部潮流に反し、特に沖縄県に在ってはなお高い需要があると感じる。

《V 学生支援》

【入学に関する支援について】

- (1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい

大学全体の建学の精神や教育目的、学科別のアドミッション・ポリシーを募集要項・大学案内に表記し、本短期大学で求める学生像等を案内している。英語科は、実践的な英語力の習得を目指し、「地域社会と世界に奉仕する意欲のある学生」・「英語と母国語による適切なコミュニケーション能力を修得し、国際社会に貢献する意欲を持つ学生」を、また、保育科は、幼児教育のスペシャリストの育成を目的とし、「子どもが好きで、子どもとともに生きることを望む学生」・「保育の理論と実践を深く学ぶ意欲のある学生」・「家庭や地域社会の保育課題解決に意欲のある学生」をアドミッション・ポリシーに掲げている。

〈添付資料-1〉 2010年度 沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学 大学案内

- (2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、A0入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

『学生募集要項』に入試日程、選抜方法等を記載し、高等学校を中心に広く配布している。その他、日本キリスト教団沖縄教区の全教会、県内の大手予備校（10箇所程度）、県内主要書店（5箇所程度）、入試課宛請求のあった個人、入試ガイダンス・オープンキャンパスへの参加者等へ配布している。『学生募集要項』以外では、本短期大学ウェブサイトへの掲載、沖縄テレビ／琉球放送（年3回）、宮古テレビ（年1回）のTVCM放映や、新聞広告（琉球新報、沖縄タイムス、大学新聞）、受験雑誌（『全国短大進学ガイド』旺文社、『短大受験案内』学研、『進学図鑑』ハンズコム、『進学LIFE』栄美通信）、ウェブサイト情報（「大学発見ナビ（Web版）」、ベネッセコーポレーションWeb情報）も利用して、入学志願者へ情報提供を行っている。

対面型入試広報としては、5月～9月にかけての県内高校内入試説明会（28校・平成20年度実績）、年3回の県内高等学校訪問（延べ31校・2008年度実績）、離島2件（宮古、八重山）を含む県内進学ガイダンス（有料24件・無料24件）等を実施し、県内高等学校と丁寧に連絡をとり、入試に係る多くの配慮を行っている。

『学生募集要項』の記載内容は、入試委員会の議を経て、教授会で審議されている。

〈添付資料-5〉 2010年度 学生募集要項

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

平成19年度より、教務部入試課を入試部として独立。入試広報及び入試事務は、部長、課長、事務担当者2人、非常勤職員1人体制で組織している。入試関連業務を独立して管轄する部署の設立は、時代に即した組織改変であったと考える。本短期大学は、対面型広報を主としているため、慢性的なスタッフ不足が課題である。電話での問い合わせに対しては、丁寧に対応し、電子メールでの質問に対しては、迅速に返信している。現状としては、数が多くないため、十分に対応できていると考える。平時夜間、休業期間中（夏季一斉休暇、年末）は、課長ほか実務担当者が、携帯電話で対応（勤務時間の如何を問わず）し、資料請求への迅速な対応を実施。本短期大学入試課の電話対応、窓口対応の丁寧さに関しては定評がある。

入試広報に関しては、「本短期大学への関心を促進することで、社会的認知度を高める」ことを目的に、3ヶ年計画で平成19年度から「トータル・ブランド・コミュニケーション型の広報戦略」を実施中。本短期大学のイメージ調査に基づき、入試広報の方向性を定め、ロゴやカラーを統一し、ブランドイメージの浸透を図っている。また、平成20年度より、『大学案内』をA6版という思い切ったサイズにして、大学のイメージ（小さなキャンパス）を発信したことにより、認知度が高まった。それ以前は、『大学案内』を手にとってもらうことができず、毎年、多くの残部を抱えていたが、広報戦略を展開してからは、初版5,000冊に1,000冊の増刷をしても追いつかない程になった。さらに、新年度スタートと同時に、『大学案内』を配布することに腐心したことが、社会的信頼につながり、大きな効果を生んでいる。

ウェブサイトへの入試広報掲載については、情報センター課との連携により、オープンキャンパスの案内や報告等、常に新しい情報発信を行っている。オープンキャンパスでは、教員による体験授業や入試相談コーナーのほか、大学情報発信については在学生を中心としたプログラム（「キャンパスツアー」、「先輩とのしゃべり場」、「各種サークル紹介」、「学科紹介」等）を展開し、来校する高校生から高い評価を得ている。

入試広報の今後の課題は、大学広報との連携をどう取るのかということである。また、ケータイサイトが無いために、他大学の入試広報と比べ遅れを感じている。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

1. 推薦入試

願書受付後に書類評価し、入試当日は面接を行う。合否に関わる判定調整委員会や判定教授会の議を経て、合格者を選抜し、学内及び本短期大学ウェブサイトを受験番号のみの掲示により合格を発表する。受験生全員へ合否通知をし、受験生の所属する出身高等学校へも合否の通知を行う。

平成 21 年度入試より、推薦入試 B 日程を廃止し、一般入試後期日程へ変更。推薦基準に満たない学生で、学力に自信のある受験生の確保につながった。(保育科は、推薦入試、一般入試(前期日程)のみ)

推薦入試の合否判定については、入試実施後、入試委員会のメンバーによる合否判定に関わる調整委員会を組織し、合否についての協議を行い、その結果を合否判定教授会の審議に諮る。書類審査は、各学科の専任教員で行なう。入試課で、出願書類一式を揃え、「書類審査日」に実施する。

一般推薦入試・専門総合推薦入試では、ディスカッション形式のグループ面接(英語科 5~6 人、保育科 4~5 人、35 分~40 分)を実施している。特別推薦入試(社会人等)では、個人面接を実施(1 人 10 分)。外国人等推薦入試では、個人面接(1 人 10 分)を実施。

推薦入試の体制は、入試課職員と教員(原則として全員)に加え、他部署の協力を得ながら、全学体制で臨んでいる。

2. 一般入試

一般入試は、平成 20 年度より前期日程、後期日程の 2 回実施している。受験から合格発表までの所要時間は、一般入試前期日程で 1 週間、一般入試後期日程で 2 日となっている。合否判定については、各学科による判定科会で協議し、その結果を合否判定教授会で審議する体制をとっている。入試委員会は、入試実施前に委員会を開き、監督者割り当て、面接担当者割り当て、合格発表人数の確定等、入試実施に関わる業務を遂行し、合否判定については関与しない。合格者発表は、学内及び本短期大学ウェブサイトで受験番号のみの掲示のほか、受験生全員へ合否通知をし、受験生の所属する出身高等学校へも合否の通知を行っている。

一般入試の体制は、入試課職員と教員(原則として全員)に加え、他部署の協力を得ながら、全学体制で臨んでいる。

□一般入試(前期日程)

英語科:「国語総合(客観・記述)」60 分、「英語 I・II(読解・文法・語彙)」40 分、「英語 I・II(リスニング)」20 分、「英語 I・II(自由英作文)」25 分、「面接(グループ面接)」15 分

保育科:「国語総合(客観・記述)」60 分、「英語 I(読解・文法・語彙)」60 分、「面接(グループ面接)」15 分

□一般入試(後期日程)※英語科のみ実施。

「小論文」30 分、「英作文」15 分、「面接」15 分(志願者が少ない場合は個人面接 10 分)

3. A0 入学試験・社会人 A0 入学試験

平成 19 年度より実施した A0 入学試験・社会人 A0 入学試験(平成 13 年度から実施し、平成 19 年度に統合)は、願書受付の前に予備面談申込期間を設け、希望者を対象に検定料金は無料で予備面談を受けていただき、その後出願してもらう形式となっている。「予備面談」は、本短期大学と受験生へのミスマッチが起きないように、本短期大学の紹介並びに、A0 入試制度についての 15 分程度の説明を教員と志願者の 1 対 1 で

実施している。平成 19 年度、平成 20 年度の 2 年間の実施状況を分析すると、志願者の多くが、入試ガイダンスやオープンキャンパスへの参加率が高いことがわかった。この結果を受け、平成 21 年度の入試より、予備面談を廃止し、代わりに本短期大学職員による入試ガイダンスやオープンキャンパスへの参加を原則として必須とすることにした。

予備面談の後、出願した書類に基づき書類審査を行い、一次審査合格者のみ二次審査の個人面接を行なう。二次審査は、受験生一人に対し、面接担当者 2 人の個人面接（20 分程度）を実施している。合否判定に関しては、入試委員会のメンバーが、A0 入試判定委員会にて合否の審議を行い、その結果を判定教授会へ報告を行なう。受験から合格発表までの所要時間は、約 20 日間となっている。合格者発表は、学内及び本短期大学ウェブサイトで受験番号のみの掲示のほか、受験生全員へ合否通知をし、受験生の所属する出身高等学校へも合否の通知を行っている。

A0 入試の体制は、入試課職員と教員（原則として全員）に加え、他部署の協力を得ながら、全学体制で臨んでいる。

4. 10 月入学者推薦入試

本短期大学の 10 月推薦入試は、平成 6 年度より実施しており、これまで、留学により高等学校卒業が遅れた学生や社会人を受け入れてきた。保育科は実習との関係もあり、10 月入学を廃止し、平成 16 年度からは、英語科のみ実施している。

試験は、書類評価と面接で行なわれる。書類審査は、入試課で、出願書類一式を揃え、「書類審査日」に英語科の専任教員による審査が実施される。一般推薦・特別推薦は、個人面接（10 分）、外国人等推薦入試は、日本語作文（30 分）、英語（30 分）、個人面接（10 分）。受験から合格発表までの所要時間は 2 日。推薦入試の合否判定については、入試実施後、入試委員会のメンバーによる合否判定に関わる調整委員会を組織し、合否についての協議を行い、その結果を合否判定教授会の審議に諮る。合格者発表は、学内及び本短期大学ウェブサイトで受験番号のみの掲示のほか、受験生全員へ合否通知をし、受験生の所属する出身高等学校へも合否の通知を行っている。

A0 入試の体制は、入試課職員と教員（原則として全員）に加え、他部署の協力を得ながら、全学体制で臨んでいる。

〔入試部長〕

文部科学省の入学者選抜に係る諸通知に基づき、大学としての入試業務のためのマニュアルを作成し、ミス防止に細心の注意を払っている。各入試ごとに、実施要綱を作成し、入試オリエンテーションで担当者に配布することで、入試に関わる注意を喚起している。入試作問については、作問委員会と校閲者のチェック後、入試委員長（入試部長）による最終チェックを行い、ミスの回避に努めている。入試問題管理（印刷・管理）については、入試課内で、厳重な体制で業務遂行している。採点業務については、複数担当者での確認を義務付けている。全体として、入試ミス防止への備えは万全であると考えている。

〈添付資料－5〉 2010 年度 学生募集要項（出願書類一式）

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

合格者へは、合格通知に大学入学前教育への案内、入学手続要項を同封する方法で通知している。スクーリングや課題による大学入学前教育を実施している。各学科から課せられる課題に取り組むことで、4月からの大学生活へのウォーミングアップになる。

①英語科

課題（英文法のテキスト学習）、個人プロジェクト（自由）、スクーリング（3回）

※スクーリング時に、課題のテキストの進め方を教授。オーラルのガイダンスと体験授業。

②保育科

課題（新聞のスクラップ）、個人プロジェクト（自由）、スクーリング（1回）

※スクーリング時に、学科ガイダンスと、個人プロジェクトの報告会を実施。

③総合教育系

課題：建学の精神に関わる資料を配布し、意見感想等を含むエッセイを作成。800～1200字。

※英語科・保育科共に、スクーリング時に提出。

〈参考資料-16〉 A0 入試合格者 大学入学前教育へのご案内

〈参考資料-17〉 推薦入試合格者 大学入学前教育へのご案内

〈参考資料-18〉 一般入試合格者 大学入学前教育へのご案内

(6) 入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

本短期大学においては、入学者に対し、以下の内容で、「履修登録オリエンテーション」及び「学生生活オリエンテーション」「新入生オリエンテーションキャンプ」「大学入学前教育スクーリング」を開催している。

1. 履修登録オリエンテーション

入学直前（3月下旬）、各学科において『講義要項』『時間割表』『登録資料』を配布し、学科の教育目標、卒業要件、登録の方法、評価制度、時間割表の作成方法、テキストの購入方法、資格・称号取得等について説明。

英語科では、オリエンテーションに引き続き、Oral English、英文法、英語講読のプレースメントテストを実施している。

保育科では、クラス編制（A～D）、保育士、幼稚園教諭二種免許の資格取得のための留意事項等の説明を行っている。

総合教育系では、教養教育の方針、特色ある授業科目の説明等を行っている。

2. 学生生活オリエンテーション（4月上旬）

◇午前・午後の2部構成で開催し、午前（9時～12時）は事務所主導で以下の説明を行っている。

(1) 学生課説明部分

- ①学年暦に即した学生生活全般の概要、各種学内行事について
- ②奨学金制度について
- ③保健室、カウンセリング室の利用について

(2) キャリア開発課説明部分

- ①就職支援について

(3) 国際平和文化交流センター説明部分

- ①留学生制度について

(4) 宗教部説明部分

- ①月曜礼拝等、各種学内キリスト教関連行事について

◇午後（1時～3時30分）は、教員主導で、以下のようなオリエンテーションを実施している。

(1) アドバイザー（教員）及び学生会を中心とした先輩たちとの交流、各種アドバイス等

アドバイザーは、新入生総数を各学科の教員数で除し、1人で約10人の新入生を担当。なお、障がいを持った学生や留学生等、特別な配慮を必要とする学生については、学科長または役職経験者が担当するよう工夫している。

3. 新入生オリエンテーションキャンプ

入学直後の5月中旬、2泊3日の日程で渡嘉敷島にて実施。両学科の新入生及び教職員が寝食を共にし、学科ごとの集会で学科の教育内容を様々な角度から紹介するとともに、建学の精神、平和学習等を行うことが恒例となっている。平和学習では、集団自決が発生した現場を訪れ、体験者から当時の様子を聴いている（毎年印刷物として報告書を発行）。

4. 大学入学前教育スクーリング

英語科では、全入試選抜（一般選抜、A0選抜、推薦等）の学生を対象とし、年3回（10月、12月、3月）のスクーリングを実施している。Oral English及び英文法の授業体験のほか、建学の精神についての学習を行い、レポート提出を課している。また、在学生との懇談会を設け、スムーズに大学生活に溶け込めるよう工夫している。

【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

1. 新入生対象

3月下旬、英語科、保育科、総合教育系、それぞれ学科別にオリエンテーションを実施。卒業要件、学年暦、履修規程、資格・称号取得、授業科目の概要の説明に加え、

登録の方法、時間割表作成の方法等を具体的に指導している。英語科では、オリエンテーション終了後、Oral English、英文法のレベル別クラス編制のため、プレイスメントテストを実施。保育科では、固定クラス制（A～D）や保育士及び幼稚園教諭二種免許に関連した実習のスケジュール等を学生に周知。総合教育系では、本短期大学の重視するリベラルアーツ教育並びに、キリスト教学等必修教養科目に関する説明を行っている。

2. 在学生対象

毎学期開始直前（3月下旬、9月下旬）、学科別に、卒業要件、履修規程、学年暦、授業科目の説明、登録上の諸注意等を行っている。

（2）学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

〈参考資料-1〉 英語科 履修登録指導に係る資料

〈参考資料-2〉 保育科 履修登録指導に係る資料

（3）基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取り組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

英語科では、専任教員1名が英検対策の補習授業（週1回、90分）を行っている。また、保育科でも、専任教員1名が、学生の必要に応じて、音楽（ピアノ）の補習授業を行っている。

（4）学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取り組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

本短期大学において、学生の学習上の悩み相談に対応する体制としては、①アドバイザーグループ制度、②オフィス・アワー、③教務課窓口、④学生課窓口、⑤学生相談室があり、問題の現状把握及び具体策を協議する場として「学生生活委員会」がある。

学生の学習上の悩み・相談は、基本的に、アドバイザー及び各授業科目担当者（専任教員によるオフィス・アワー）が待機する研究室で対応することとなっている。その他、学生は自由に教務課窓口及び学生課窓口で相談することもできる。この場合、事務所窓口は、実務に関連する情報の提供、アドバイス・指導のほか、対応できない事項に関しては、アドバイザー、カウンセラーへの紹介を行っている。

（5）進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

特定授業科目の単位修得者のレベルに相当する実績（英検・TOEICのスコア、ピアノ演奏能力等）を有する学生に対しては、単位として認定している。また、平素教室内

で著しく高い能力・知識を有すると認められる学生については、授業担当者の裁量により、学習意欲の高い学生に相応しい課題を別途与えて、向学心に応えるよう努めている。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

1. アドバイザーグループ制度

高等学校までの担任に似た制度であり、学生の履修状況、進路等について気楽に話し合える関係を結ぶことを目的としている。休学・退学等の面談も行っている。本短期大学では「面倒見の良い大学」を謳っており、学生の希望に応じて、アドバイザー以外の者も積極的に対応することが伝統となっている。

2. オフィス・アワー

学生が個々の授業担当者（専任教員）と自由に話し合える固定された時間帯を週1～2回設けている。時間帯の設定に関しては、利便性を考慮し、各学科、各年次の教員のオフィスアワーが重ならないよう、教務課において調整している。

3. 学生相談室

専門のカウンセラーを2人（専任教員1人、兼任教員1人）配置し、様々な相談にのれる体制を整えている。予約のない者への対応や電子メールによる相談にも対応し、学生の悩みに逐次対応するよう努めている。また、月に1回カウンセラーと教員、教務・学生課担当職員、保健室担当が連携を取るための情報交換会を行っている。

4. 保健室

看護師1人が常駐。定期健康診断、応急処置、校医による健康相談（月4回）等。内科、整形外科等の応急処置のほか、学生からの種々の悩み相談にも対応している。

5. 学生課窓口

奨学金、学費延納手続、アパート情報、ボランティア・アルバイトの紹介、拾得物、その他学生生活に係ること全般。学生の各種悩み相談への対応等。

6. 学生生活委員会

学生の厚生補導に関する事項を審議する。構成は各学科教員（英語科、保育科、総合教育系）各1人、教学部長、学生課長、カウンセラー。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

学生代表者が学生会を組織し、16人の役員で運営している。学生課と連携し、スポーツ大会、新入生オリエンテーションキャンプ、大学祭の運営等、様々な場面で学生全体を盛り上げる役割を担っている。

クラブ活動は21（体育系8、文化系13）の団体が活動している。本短期大学は学科

構成上（英語科及び保育科）、女子学生の割合が多いため、文化系サークルが活発であることが特徴となっている。また一人の学生が複数のサークルに所属しているのも特徴の一つである。活動中の団体の中で、「児童文化研究サークル」は保育科学生を中心として構成し、学内行事だけでなく、県内の福祉施設等で人形劇やフィンガーアクションを公演するなど、学外からも非常に評価されている伝統的なクラブである。また、「WLO (We Love Okinawa) サークル」は沖縄の海岸でのごみ拾い活動を継続的に実施し、地元の高等学校への啓発活動・協力依頼や地域社会への問題提起を行っていることが認められ、学生ボランティアのグループ活動に対して助成を行う『ソニーマーケティング学生ボランティアファンド』の助成対象となった（平成19年度）。

クラブ活動ではないが、学内 NGO「ONE LOVE」がフェアトレードを主体にエコ活動を展開し、学内外で積極的に活動している。建学の精神をよく理解し、本短期大学が重視する「ピースメーカー」を実践しているものとして高く評価できる。

近年、サークルの新設申請が増えており、学院側も積極的に協力しているが、部室不足が課題となっている。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

本短期大学では、学生の休息のための施設として、以下の施設を設置している。

- ①学生が休息できる場所としては、北棟1階に座席数230の食堂を兼ねた学生ユニオンが設置され、また、SHALOM会館にはコーヒーショップを併設するラウンジが設置されている。学生ユニオンは、時間の制限を受けることなく、気軽に利用できるようになっており、土日・祝祭日も学生から施設利用の申請がある場合は、積極的に開放するようになっている。
- ②南棟1階・北棟2階及び3階には、それぞれ空間を利用し、各所にベンチを配置している。また、南棟及び北棟屋上も、くつろげる場所になっている。
- ③学生の健康管理の施設として、保健室を設置している。保健室では、校医及び看護師を配置し、心と体の健康管理に関する業務全般に対応している。
- ④上述①のとおり食堂は、北棟1階に設置している。
- ⑤売店（購買部）は、事務棟前に設置している。土日・祝祭日・長期休業期間を除き、午前8時30分から午後4時30分まで営業。書籍、文房具他、弁当、各種雑貨品を販売している。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。

本短期大学に学生寮はないが、賃貸アパート関連の情報を希望する学生には、近隣の不動産業者リストを提供している。

本短期大学においても、県内他大学同様、自家用車を通学の手段とする学生が殆どを占めている。学内外に駐車場を確保し、学生の安全確保のため、教職員が学外駐車場を利用することで、学生に優先的に学内駐車場が提供されている。

(5) 平成 20 年度の日本短大生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。
また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

日本学生支援機構奨学金の受給者数は、平成 20 年度時点で、190 人（英語科 85 人、保育科 105 人）、新規採用が 105 人、継続者が 85 人。第一種が 40 人（英語科 11 人、保育科 29 人）、第二種が 150 人（英語科 74 人、保育科 76 人）。本短期大学の学生数 493 人（平成 20 年 5 月 1 日現在）の内、実に 2.6 人に 1 人が日本学生支援機構の奨学金を受給していることになる。

他の外部奨学金については、2 人（英語科 1 人、保育科 1 人）が財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金（貸与）を受給している。

本短期大学独自の奨学金としては、特待奨学金等の学内奨学金（平成 20 年実績 1 千 746 万円）があり、特待奨学金受給者 5 人、特別選抜奨学金受給者 7 人、特別奨学金受給者 3 人、在学留学特別奨学金 2 人、授業料減免私費外国人留学生奨学金 3 人、その他 27 人となっている。

成績優秀者は学内奨学金で、厳しい家計に在る学生は日本学生支援機構奨学金で救うことができるが、成績不良者の場合は、家計の厳しさに関わらず、奨学金の応募資格を満たさないという現実があり、苦慮している。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

1. 学生の健康管理について

看護師 1 人が常駐し、保健室では基本的に応急処置を行っている。校医による月 4 回の健康相談等を実施していたが、平成 21 年度からは、近隣市町村における医師不足等の事由により、隔週 1 回となっている。

2. メンタルケアとカウンセリングについて

人目を気にせず入れる学生相談室を設け、カウンセラー 2 人（本短期大学教員 1 人、兼任教員 1 人）が、週 8 時間（2 時間×2 回×2 人）対応している。平素から「保健便り」等で周知し、予約のない者やメールでの相談にも対応する体制を整えている。学生相談室内は、入口には植物を、室内にはソファを配置し、リラックスできるようお茶も出している。

入学時の学生生活オリエンテーションで、「学生生活健康調査（20 項目から成るアンケート調査）」を実施し、配慮の必要な学生については、アドバイザーと連携しつつ、定期的なカウンセリングを行い、事前予防に努めている。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

個々の学生の個人情報、入学時に提出してもらった「学生カード（氏名、生年月日、実家住所、両親氏名他）」を元情報とし、本短期大学では、入学後の学生に関する、履修状況、アドバイザー名、所属正課外活動団体名等、学生に関する全ての情報を、情報管理ソフト（GAKUEN システム）で管理している。「学生カード」等、個々の学生の

個人情報に記載されている資料の原本は、全て施錠可能なキャビネットに保管している。また、情報管理ソフト（GAKUEN システム）の運用・管理に際しては、入力担当者限定し、閲覧も、特定の部署のみにし、情報漏洩の防止に万全を期している。

〈参考資料－19〉 学生支援のための学生の個人情報を記録する様式

【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

●英語科の進路状況表（平成18年度～20年度） （平成21年3月31日現在）

区分	18年度	19年度	20年度
a 卒業者数	134人	114人	105人
b 就職希望者数	b/a		
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b		
d うち自己開拓分の就職者数	d/b		
e 就職未定者数	e/b		
f 進学・留学希望者数	f/a		
g その他	g/a		

●保育科の進路状況表（平成18年度～20年度） （平成21年3月31日現在）

区分	18年度	19年度	20年度
a 卒業者数	120人	124人	118人
b 就職希望者数	b/a		
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b		
d うち自己開拓分の就職者数	d/b		
e 就職未定者数	e/b		
f 進学・留学希望者数	f/a		
g その他	g/a		

〈参考資料－20〉 平成18年度～20年度 進路一覧表

(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

本短期大学の学生の就職を支援する教員組織としては、アドバイザーグループ制度があり、学生が入学すると同時にアドバイザー（担当）教員を配置し、就学や進路等

の相談に対応している。また、事務組織としては、学生の就職支援をより強化するために、平成19年度に従来の学生部就職課を、キャリア開発部キャリア開発課（4人体制）として独立させた。それに伴い、就職委員会もキャリア開発委員会（5人体制）に名称変更した。業務が特化されたことにより、学生の個別相談に迅速に対応できるようになった。

キャリア開発部では、1年次の段階から卒業後の進路について全学的に考えようと、学生、教職員、OB・OGが一丸となり、全講義を休講にし「秋の進路セミナー」を終日開催している。同セミナーでは「自己分析・自己発見のための職務適正テスト」を実施しており、日頃の進路相談やカウンセリングの際に役立ててもらうため、学生各々の検査結果を各アドバイザー教員へ配布している。

毎年11月から翌年5月にかけては、毎月、教授会や学科会議等に進路状況報告を行っている。特に進路未定の学生については、各教員による声かけや個別相談の実施を依頼している。しかし、教員の業務としての規程上の位置付けが成されておらず、教員間に意識の温度差があり、十分に機能しているとはいえない。

今後、キャリア開発部と教員間における、それぞれの長所を發揮できる協力体制の整備が課題であると認識している。

（3）就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

本短期大学では、平成17年度より、オープンスペースづくりに努め、閲覧用の就職関連資料も学生のニーズに即したものに厳選する等の工夫で、かなり広いスペースを確保することができた。そこが、学生がいつでも気軽に利用できる学生ラウンジとなり、就職相談で窓口を訪れた学生に留まらず、別の用件で来た学生に対しても職員が声かけしやすい環境整備がなされた。

求人情報の提供は、これまで求人票を壁に掲示するなど紙媒体で行っていたが、平成19年度にウェブサイトを利用した求人票閲覧システムを導入し、学生が随時求人票を閲覧できる環境整備を行った。また、「キリジョブ」と呼ばれるメーリングリストを構築し、求人情報や就職活動関連イベント等の情報を学生の携帯電話へ送信し、リアルタイムな情報提供を行っている。その他、教員の協力を得て、各講義においても就職活動に係る各種情報の周知も行っている。

（4）過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

〔学長〕

本短期大学における卒業生の就職内定率及び就職希望率は、英語科が、平成18年度卒者〔51.5%、62.7%〕、平成19年度卒者〔45.6%、55.3%〕、平成20年度卒者〔32.4%、42.9%〕。保育科が、平成18年度卒者〔85.0%、90.0%〕、平成19年度卒者〔87.9%、89.5%〕、平成20年度卒者〔80.5%、82.2%〕となっている。ここ3ヶ年の傾向としては、両学科の就職内定率、就職希望率ともに減少している。

就職先については、平成20年度卒者でみると、英語科が、①金融・保険業〔10人、29.4%〕※、②サービス業（宿泊業、旅行代理店等）〔7人、20.6%〕、③情報通信業〔5人、14.7%〕、保育科が、①医療、福祉（保育園、施設等）〔76人、80.0%〕、②教育、学習支援事業（幼稚園等）〔12名、12.6%〕となっている。

〔※就職者数（英語科34人中、保育科95人中）、割合〕

英語科の場合は、従来より金融業を含め、サービス業への就職者が多く、保育科は、現在も殆どの卒業生が保育園及び幼稚園等への専門就職を果たしている。英語科では、四年制大学への編入や留学への志向が極めて強く、英語科の優位性となりつつある。保育科では、高い専門就職率を維持しているものの、殆どが非正規雇用を余儀なくされている点が懸念される。

両学科とも、充実した教育課程の整備に向け、より一層の努力が求められている。

〔英語科〕

英語科では、学生の進路に関する意識は多岐に分散される。平成20年度卒者（105人）の場合、学生の希望する卒業後の進路は、就職希望者45人（42.9%）、国内進学希望者34人（32.4%）、留学希望者11人（10.5%）である。その結果、就職希望者45人中、就職した者は34人（32.4%）となっている。

就職先としては、従来から、エアライン関係、銀行関係などに多くの者が就職している。

〔保育科〕

保育科では、殆どの卒業生が保育士・幼稚園教諭二種免許、両方の資格を取得しており、従来より高い専門就職の割合を維持している。平成20年度卒者の専門就職者数は88人〔医療、福祉（保育園、施設含む）76人、教育、学習支援業（幼稚園含む）12人〕／118人で、卒業生に占める割合は74.6パーセントとなっている。ただし、近年就職先が四年制大学卒者を望む傾向が強くなっていることに加え、不況による就職難等の要因からも、就職者に占める非正規雇用の割合が極めて高く、その対応策が今後の最も大きな課題である。

（5）過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の進学（四年制大学、専門学校等）及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

県内、県外進学希望者を対象に、毎年7月に進学説明会を開催している。県内四年制大学並びに県外推薦校を中心に、進学に向けた各種手続き及び試験（編入試験、面接等）の日程、最近の傾向等を説明。その他、過去の実績の紹介と併せて、編入試験合格者（先輩）を招き、体験談やアドバイスを話してもらっている。

平素、学生課では、各大学からの『募集要項』、『大学案内』を自由に見られるようファイリングし閲覧している。また、学生から希望のある場合は、受験対策や不安軽減のための相談にも応じている。

国際平和文化交流センターでは、留学希望者に対して、4月に留学説明会を開催し、短期研修プログラム、長期留学（3ヶ月以上1年未満）に関連した各種情報の説明を行

っている。また、複数回オリエンテーションを開催し、事前、事後の各種情報提供・指導を行っている。

◆平成18年度～20年度の進学及び海外留学の実績

学科	区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度
英語科	卒業者数	134人	114人	105人
	進学者数	31人	20人	27人
	海外留学者数	6(3)*人	8(1)人	2(1)人
保育科	卒業者数	120人	124人	118人
	進学者数	3人	5人	7人
	海外留学者数	0人	0人	0人

※内数は前年度からの継続留学者数。

【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の留学生・社会人・帰国子女・障がい者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。

なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

◆多様な学生の受け入れ状況(平成18年度～20年度)

(各年5月1日現在)

	種別	18年度	19年度	20年度	計
英語科	留学生(人)	3	1	3	7
	社会人(人)	10	13	9	32
	帰国子女(人)	1	1	4	6
	障がい者(人)	0	0	0	0
	長期履修学生(人)				
	高大連携(人)	0	0	0	0
	科目等履修生(人)	5	3	4	12
保育科	留学生(人)	1	1	0	2
	社会人(人)	9	5	5	19
	帰国子女(人)	0	0	0	0
	障がい者(人)	1	1	0	2
	長期履修学生(人)				
	高大連携(人)	14	8	13	35
	科目等履修生(人)	6	6	3	15
短期受入	長榮大學生(人)	16	15	13	44

※長榮大學生の学科別振り分けは行っていない。

※社会人の受験資格

社会人としての経験があり、本短期大学入学時に23歳以上の者で、高等学校卒業見込みの者、卒業した者または大学入学資格を有する者。

※帰国子女の受験資格

日本国籍を有し、受験年度の4月1日現在満18歳に達し、次のいずれかに該当する者。

- ①外国において、学校教育における12年の課程を修了した者
- ②外国で中等教育を含めて2年以上の学校教育を受けた者で、日本の大学入学資格を有する者
※日系2・3世を含む
- ③文部科学大臣の指定した者
- ④外国の高等学校を卒業した者

1. 障がい者に対する学習支援、生活支援

本短期大学においては、上表のとおり、過去3ヶ年に、聴覚障がいを持つ学生2人が入学している。その受け入れ態勢として、教務課を中心にノートテイクのサポート体制が整備された（学生ボランティアの公募、講習会開催によるノートテイカーの養成等）。その結果、①授業中はボランティア学生が同席しノートテイク、②授業担当者への周知及び協力依頼（授業時の配慮等）の徹底がなされた。また、総合教育系の教養科目として「要約筆記」も開講された。

その後、担当部署を学生課へ移管し、当該学生のためのより充実したサポート体制を構築するため、アンケート調査を実施し、その結果に基づいて、ノートテイク講習会集中講座（年1回2日間）や懇談会の定期開催等により、ノートテイカーボランティアとの連絡体制の緊密化を図った。その一方で、教務課は、アンケート（「聴覚障がい学生の授業状況について」）を実施するなど、授業担当教員の意見を聴取し、教学上の課題解決に努めた。

2. 留学生・帰国子女に対する学習支援、生活支援

国際平和文化交流センターでは、センター長（教員）、専任事務職員1人、非常勤事務職員1人の体制で、以下のサポートを実施している。

(1) 外国人留学生へのサポート

①留学生受け入れ関連の各種手続き

- ・留学生の入学に係る、在留資格更新または変更手続き、外国人登録、国民健康保険加入等
- ・学生教育研究災害傷害保険、留学生住宅総合補償、自賠責保険、任意の自動車保険
- ・各種奨学金関連業務

②履修指導、生活指導等

新入留学生対象のオリエンテーションを開催し、履修指導、資格外活動（アルバイト）許可書の申請、スチューデント・アシスタント制度*等に関する説明、指導を実施。

なお、本短期大学では、一般学生同様、留学生に対しても学生教育研究災害傷害保険への加入を義務付けているほか、自動車所有者に対しては自動車傷害保険への加入も指導している。また、留学生がアパートの賃貸契約をする際の難しさ（保証人問題）を解消するため、学院が財団法人日本国際教育支援協会の留学生住宅総合補償制度に加入し、当センター長が保証人を引き受ける等の便宜を図っている。

〔※日本人学生ボランティアが、授業内容の復習、レポート作成等、日本語をサポ

ートする制度（90分／週程度）]

③奨学金

一律50%の授業料減免を提供しているほか、私費外国人留学生特別奨学金等、学院内の各種奨学金に応募できる制度を整えている。また、日本学生支援機構の私費外国人学習奨励費等、学外奨学金への応募手続きに係るサポートを行っている。

(2) 短期受入研修生へのサポート

目下、海外協定大学である台湾の長榮大學との交流プログラムを推進しており、毎年約20人前後の短期（約2週間、6月下旬～7月中旬）研修生を受け入れている。当該プログラムは、日本語研修に加え、沖縄地域を中心とする伝統文化、歴史、風俗習慣の学習・体験を目的として、両大学の学生相互の交流を重視した、草の根レベルでの国際理解と交流促進を目指したプログラムである。

(3) 帰国子女へのサポート

校内団体「-ix-国際交流友の会」への参加を呼び掛けるとともに、当センターが推進または参画する学内外の交流事業に関する情報を提供し、日本人学生や外国人留学生等との積極的な交流活動を促している。

(4) 科目等履修生へのサポート

海外協定大学からの交換留学生（学内身分：特別聴講学生）受け入れに係る以下業務。

- ・協定大学との調整、在留資格認定許可書の交付申請他
- ・入学に際しての諸手続き（上記「留学生へのサポート」参照）
- ・履修指導（授業登録のサポート等）、生活支援等

【特記事項について】

(1)この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

本短期大学を設置する沖縄キリスト教学院では、卒業生のスムーズな社会進出を実現するため、在学生へのキャリア教育を重視しており、現在、キャリア開発部では、各種講座の開設及び各種試験等に関する取り組みを、以下のとおり行っている。

1. 現在開設している各種対策講座

- ①話しことば検定対策講座
- ②TOEIC対策講座
- ③公務員試験対策講座
- ④日本語検定対策講座

2. その他

公務員模擬試験、一般常識模擬試験、SPI適正検査（能力適性検査及び性格適性検査）、社会人基礎力診断テストを実施しています。

《VI 研究》

【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

◆平成18年度～20年度 専任教員の研究実績表（学科等の順に記述）

学科名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
英語科	作田 真由子	教授	0	0	0	0	無	無	
	前里 光盛	教授	0	0	0	0	無	無	特任教授
	仲座 栄利子	准教授	0	2	0	0	有	有	
	城間 仙子	准教授	0	1	1	0	無	無	
	James A. Ross	講師	0	0	0	0	無	無	
	柳田 正豪	講師	0	1	0	0	無	有	
保育科	山城 眞紀子	教授	0	4	3	0	無	有	
	川西 康裕	教授	0	0	2	1	無	有	
	大山 伸子	教授	0	7	2	3	無	有	
	吉村 壮明	准教授	0	0	0	2	無	有	
	喜舎場 勤子	准教授	0	3	0	0	無	有	
	大城 りえ	准教授	1	3	1	0	無	有	
	赤嶺 優子	准教授	0	0	0	2	無	無	
	照屋 建太	講師	1	2	4	1	無	有	
総合教育系	内間 清晴	教授	0	6	9	0	無	有	
	上原 明子	准教授	0	2	2	0	無	有	
	青野 和彦	准教授	0	4	3	2	無	有	
	張本 文昭	准教授	0	0	2	3	無	有	

※制作、演奏等の実技に関する業績は「その他」に含める

〈参考資料-5〉平成18年度～20年度 教員個人の研究業績書

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取り組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

専任・兼任教員の研究成果発表の場として毎年発行している『沖縄キリスト教短期大学紀要』は、本短期大学図書館に所蔵し閲覧可能である。また、『図書館報ソフォス』（本学院ウェブサイトを含む）において紀要の目次や著作活動状況を公開している。その他、研究開発支援総合ディレクトリ（Read）において個々の教員が研究活動の状況を公開している。

今後は、本学院助成による研究（特別研究助成金）及び外部資金による研究（科学研究費補助金等）の基本情報を本学院ウェブサイト上で公開することを検討していきたい。

〈参考資料－21〉 平成 18 年度～20 年度 沖縄キリスト教短期大学紀要

〈参考資料－22〉 平成 18 年度～20 年度 図書館報ソフォス

（3）過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況（件数）を一覧表にして下さい。

◆外部研究資金の申請・採択状況（平成18年度～20年度） （件数）

外部資金調達先等		平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度	
		申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金		0	0	1	0	1	0
その他の 外部研究資金	公益信託 宇流麻学術研究助成基金	0	0	1	1	2	1

（4）学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

本短期大学では、個々の専任教員がそれぞれの研究領域の研究活動を行うに留まり、学科ごとのグループ研究や共同研究は為されていない。教員によっては、積極的に他大学研究者と共同研究を行っている者もいるが、本短期大学における研究活動の概況は、研究成果に乏しく、個々の教員間のバラつきもあり（「専任教員の研究実績表」参照）、課題が多い。教育活動、学生支援、その他種々の公務と多忙な日々の中になっても、今後、研究者としての自負心に訴え、個人研究の充実、大学の命運をかけた学科ごとのグループ研究の推進等、より一層の精進が求められている。

【研究のための条件について】

（1）研究費（研究旅費を含む）についての支給規程等（年間の支出限度額等が記載されているもの）を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の決算書から研究に係る経費を項目（研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等）ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

専任教員の教育研究を助成し、学術研究の向上に資することを目的に、個人研究費に関する規程を平成21年6月に制定した。

規程名称（参考資料－23）：

「学校法人沖縄キリスト教学院教育職員の個人研究費に関する規程」

〈参考資料－24〉 平成 18 年度～20 年度の研究に係る経費の実績（研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等）

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

学内においては、専任・兼任教員の研究成果発表の場として、毎年『沖縄キリスト教短期大学紀要』を発行している。

また、学外（国内・国外）での研究発表を支援するため、教員の個人研究費（年間30万）のほか、国内2回（1回12万円上限）、国外1回（30万円上限）の旅費の支給を規定している。平成20年度においては、3人の教員がこの制度を利用した。目下、当該旅費の申請を予算編成時（11月）に制限しているため、学会開催通知受領の時期の差などから実情に合わないとの指摘があり、制度改善に向け準備を進めている。

〈参考資料-21〉 平成18年度～20年度 沖縄キリスト教短期大学紀要

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成20年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

平成20年度の短期大学教員の個人研究費支出のうち、機器及び図書の支出内訳は次のとおりである。

・機器：パソコン及び周辺機器等の購入 総額 25万3,160円

・図書：総額 14万5,609円

〔図書費は5,000円以上（5,000円未満は含まない）、平成21年度より1万円以上（1万円未満は含まない）の書籍に関してカウントしている。〕

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

教員の研究活動の拠点となる研究室は、学院内の西棟2～4階に26室、北棟2～5階に11室配置されており、本短期大学専任教員全員に専用の研究室が提供されているほか、2学科・1系それぞれ学科室を有している。

室内備品として、什器・パソコン・プリンタ・ファクシミリ機能付電話機等を完備しているほか、情報化設備としてLANが敷設されている。また、全室冷房機を備えており快適な環境で研究活動できる状況である。

研究室用パソコン・プリンタは、年次計画で更新を実施しているが、耐用年数を超過した研究室用空調機の計画的な更新が今後の課題である。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

本短期大学では、専任教員の研修日、研修期間の確保については、第一に学生の利益を優先し、授業科目の開設時間帯にムラがでないよう、教務課において調整した上で、各専任教員の研修日（週1日、出勤不要）並びに研修期間（夏季・春季休業期間時）を決定している。

【特記事項について】

(1) この《VI研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

学院では、教員の研究を助成するため、「特別研究助成費交付規程」に基づき、特別研究助成金として、年間200万円（短期大学・四年制大学共通の助成金）の予算を確保し、研究1件につき最高50万円の研究助成を行っている。研究成果を3年以内に公表することを条件とし、4月末を申請期限、5月上旬に教員人事委員会において審査・採択している。平成19年度は採択された4件中2件、平成20年度は3件中2件を短期大学が占めている。平成21年度（5月1日決定）は2件採択され、2件ともに短期大学であった。

〈参考資料-25〉 特別研究助成費交付規程

〈参考資料-26〉 特別研究助成費交付対象者一覧

《Ⅶ 社会的活動》

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取り組みについて】

（１）社会的活動への取り組みについて、その理念や方針等、教育研究における位置付けについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取り組む予定かを記述して下さい。

本短期大学は、従来から「地域に開かれた大学」を目指し、地元西原町を始め、周辺地域の多くの自治体、団体が主催する各種講座・講演会等に講師を派遣している。平成20年度には、西原町との間で、「地域の教育活動の充実・発展に寄与する諸事業を推進する」ことを趣旨とした「地域連携事業に関する協定書」に調印し、小学校理科担当の教諭と協同し、児童生徒の“理科離れ”対策として「理科教育支援事業」を推進している。

今後、前述の協定書に基づき、英語教育支援、子育て支援等の事業を実施する予定である。

（２）社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

本学院の建学の精神では「他者に仕える」を大学運営の根本思想として掲げており、「社会の発展に資する大学」「地域に開かれた大学」を、建学の精神を具現化する活動として重視している。社会人経験を有する者が熱い向学心に押されて学び舎の門をくぐる、あるいは社会人として日々の業務で疲れた身体に鞭打ちつつ公開講座等で学習に精進する、その旺盛な学習意欲に応えることは、論を待たず、本短期大学にとって極めて有意義な教育活動であると認識している。

本短期大学両学科における、過去3ヶ年の社会人の受け入れ状況は、英語科〔計32人：10人，13人，9人〕※、保育科〔計19人：9人，5人，5人〕で推移している。社会人学生、あるいは公開講座参加者が増えていくことは、誠に歓迎すべきこととして、今後とも積極的に受け入れていきたいと考える。

（※〔平成18年度，平成19年度，平成20年度〕）

〈添付資料－4〉 2010年度 学生募集要項（6～7ページ）

（３）過去3ヶ年（平成18年度～20年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

本短期大学を設置する沖縄キリスト教学院では、「本学の専門的教育機能を生かして、地域の生涯学習センターとしての役割を担い、専門家の継続学習をはじめ、社会・地域のニーズに応え、家庭人、社会人としての教養の高揚をはかり、地域の文化向上に資することを目的とし（公開講座規程より）」、平成2年度から公開講座を開催している。

その内、平成18年度～20年度までの3ヶ年、本短期大学所属の専任教員が5講座を担当し、非常勤講師、地域の学識者その他が32講座を担当している。専任教員が担当し

た講座には、①「朗読ワークショップ」(16人)※②「リトミック教育法に基づいた音楽表現演習」(46人)③「現任保育士にとって養成校における施設実習体験の意義とは何か」(19人)④子どもの表現をどう見るか?—現代社会と造形あそびを中心として—(54人)⑤「子どもの環境—ビオトープを通して自然を学ぶ」(44人)がある。

なお、学院の主催する当講座は、3ヶ年で計45講座(960人)を開催し、どれも好評を博している。中でも、本短期大学保育科が主催した「保育科特別公開講座」(187人)、「キリスト教系音楽」(112人)、初級から上級クラスまで完備した「カウンセリング」(195人)等の講座は広範囲の受講者から高く評価されている。〔※内数は受講者数〕

〈参考資料-27〉 公開講座規程

(4) 過去3ヶ年(平成18年度~20年度)の短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等)との交流、連携等の活動について記述して下さい。

本短期大学では、地域社会の連携強化に努めており、下記の活動を行っている。

1. 西原町民文化講座

「文教のまち西原」を目指す西原町に協賛し、平成18年度より学院からも毎年、短期大学・四年制大学あわせて4人講師を派遣し、西原町及び琉球大学との共催事業として文化教養講座の運営に協力している。

講義を、町民向けに分かり易い内容で提供することで、町民の文化教養の向上と生涯学習の振興を図っている。

◆西原町民文化講座派遣講師一覧

年度	講師名	講座名
平成18年度	大山 伸子	宮良長包メロディを楽しむ
	柳田 正豪	三つの文化を体験して(台湾・日本・アメリカ)
	山城 眞紀子	子育ての知恵は、「抱きしめ」と「こちょこちょ」から
平成19年度	柳田 正豪	カウンセリングにチャレンジ
	山里 米子	楽しい英語で始めよう国際理解 ※非常勤講師
	喜舎場 勤子	地域の教育力
平成20年度	張本 文昭	健康づくりの運動のはなし
	照屋 建太	子どもの自然環境をどのように考えるか

2. インターンシップ

本短期大学では、沖縄県教育委員会で実施されている県内高校生を対象とする就職促進施策の一環である高校生の就業体験(インターンシップ)の受け入れを行っている。平成20年度は、学内行事との兼ね合いで受け入れできなかったが、毎年2~3人の高校生を受け入れている。

3. チャレンジウィーク

本短期大学では、西原町教育委員会が取り組む職場体験学習事業「西原町中学生職場体験学習チャレンジウィーク」において、毎年、地域の中学生の受け入れを行って

いる。就業体験のほか、体験授業を組み込む等、大学ならではの体験プログラムとなっている。平成20年度は3人を受け入れた。

【学生の社会的活動について】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

学院では21のサークル団体が活動しているが、その中で、地域のボランティア活動等に参画している団体の活動を以下に要約する。

1. 学生会

学院内の全学生及び学生団体を代表する組織。各種学内行事をリードする傍ら、地元西原町ボランティアの日のボランティア活動（清掃活動）にも参加している。

2. WLO (We Love Okinawa) サークルの活動（クリーン活動）

「愛する美しい沖縄を守る」ため、県内ビーチ、山の清掃活動を展開している。WLOでは、平素から環境問題を真剣に考え、学習し、その実践として、自主的に活動場所を決定し、地域市町村とも連携を取りつつ、ゴミ拾い等の清掃活動（約7回×1.5時間/年）を実施。学内には、環境問題に対する意識向上のため、ビオトープを設置し、維持管理している。多くのOBも参加するWLOによる清掃活動は、地域市町村の広報誌やウェブサイトにも掲載されたほか、平成19年にソニーマーケティング学生ボランティアファンドの助成金を獲得した。

3. 児童文化研究サークル

保育科の教育目標「子どもを慈しみ育てる」を実践する、“保育のキリ短”を代表する伝統あるサークル。子ども達の心にひと時の喜びを贈るため、保育園や幼稚園等の施設で、人形劇やフィンガーアクションの公演活動を実施。絶えない公演依頼に応え、積極的に活動している。

4. シグマソサエティサークル

ボランティアとしての奉仕活動をとおして心を磨き友情を育むことを目的とし、病院や各種施設で種々のボランティア活動を実施。筋ジス支援グループ「ゲッコウズ」の活動援助やガールスカウトの交流会への参加等、ボランティア団体とも積極的に交流している。主に保育科の学生が組織する伝統あるサークル。

5. ワイワイプラザ in キリ短

保育科の学生が授業の一環として実施している地域との交流・支援事業。保育科の1・2年次の学生（4クラス）が、クラス単位で、おもちゃ作り、料理作り、昔からある伝統的な遊び等を通して、子どもとの触れ合い、父兄との交流を行っている。企画から実施まで、全て学生が主体となっている。地域との交流及び子育て支援のあり方を体験することを目的としている。

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

学院の「建学の精神」では、「ピースメーカー」「他者に仕える」人材の育成を標榜している。積極的に地域の清掃活動等に参加している前述の団体は、「建学の精神」をよく理解し、積極的にその精神の示すところを実践しているものと高く評価している。「奉仕の精神」を実践することで、労働を始め、全ての日々の営みの中に喜びを見出せる人間となり、真に社会に貢献し得る人材と成るものとする。今後とも、学生のボランティア活動を強く奨励していきたい。

【国際交流・協力への取り組みについて】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況を記述して下さい。

◆英語科の海外教育機関等への派遣状況

種別	平成18年度	平成19年度	平成20年度	計
派遣留学生（人）	6 (3)	8 (1)	2 (1)	16 (5)
台湾研修（人）	4	9	1	14
海外幼児教育研修（人）	0	-	0	0
フィリピン研修（人）	0	0	4	4
ハワイ研修（人）	7	2	-	9

※派遣留学生（ ）内は前年度からの継続者で内数。

◆保育科の海外教育機関等への派遣状況

種別	平成18年度	平成19年度	平成20年度	計
派遣留学生（人）	0	0	0	0
台湾研修（人）	0	0	0	0
海外幼児教育研修（人）	10	-	11	21
フィリピン研修（人）	0	0	0	0
ハワイ研修（人）	0	0	-	0

〈参考資料-28〉 海外留学希望者に向けた資料

(2) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

本短期大学を設置する本学院では、建学の精神に基づき、国際交流及び平和教育を推進していくため、平成5年4月に学生課に設置された「国際交流室」を、平成18年4月、「国際平和文化交流センター」として独立させた。以下の交流活動を推進している。

1. Michigan State University（平成8年10月協定締結）
平成18年度、平成20年度に海外幼児教育研修を実施（9月、約3週間）。
2. Hawaii Community Colleges（平成6年4月協定締結）
平成18、19年度にKauai Community Collegeにおいてハワイ研修を実施（2月、約3週間）。
3. Portland Community College（平成19年5月協定締結）
平成19年度海外幼児教育研修を計画したが未実施。
4. 長榮大學（平成18年4月、協定締結）
平成18、19、20年度に台湾研修を実施（8月、2週間）。
5. University of the Philippines（平成18年7月協定締結）
平成18、19、20年度フィリピン研修期間中に大学訪問（9月）。
6. Philippine Women's University（平成20年7月協定締結）
平成18、19、20年度フィリピン研修期間中に大学訪問（9月）。

(3) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

◆平成18年度～20年度 専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況

年 度	教員名	事 項
平成19年度	(英語科) 仲座 栄利子	国際開発学会第18回全国大会 参加

【特記事項について】

(1) この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

1. 高大連携
本短期大学では、関心のある学生（地元西原町、県立西原高等学校）が授業を受講できるよう制度を整えており、過去3ヶ年に、合計33人（平成18年度10人、平成19年度9人、平成20年度13人）が受講している。高校生が受講した科目は、保育関連及び英語の授業が中心となっている。
2. 高校生のための学び応援プログラム
平成19年度より「高校生のための学び応援プログラム」を実施し、大学の社会奉仕の一環として、「学ぶ喜び、面白さ」を伝えるため、高校生の「学び」を応援している。

(1) 講座の内容

- ①時間：30分～※相談可
- ②内容：高校生の学ぶ気持ちの火種となるような内容。体験型のクラス。
- ③費用：無料。大学側の責任において実施。

(2) 平成20年度提供講座

- ・死生学を学ぶ
- ・生命の科学の現代動向を探る
- ・Jポップとオキナワポップにみる「恋する夏」－歌詞から読み解く現代のキーワード－
- ・マンガ・諷刺画で読む「琉球処分」
- ・ロミオとジュリエット
- ・国際理解教育
- ・フェアトレードって何？
- ・相手に届く話し方の技を磨く
- ・赤ちゃんポスト是か非か
- ・キリスト教がわかれば欧米文化がわかる
- ・大学体育って何するの？
- ・目かくし歩きで、“思いやり”を再発見！！
- ・「クリティカルシンキング（批判的思考力）とクリエイティブシンキング（創造的思考力）を鍛える」
- ・子どもっておもしろい！
- ・私にもできる?! 通訳に挑戦してみよう！
- ・リトミックを楽しもう

《Ⅷ 管理運営》

【法人組織の管理運営体制について】

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

理事長は、宗教部長を3期、平成11年10月から平成20年3月まで本短期大学及び併設四年制大学の学長を2期務め、平成20年10月より理事長に就任し、現在に至る。(平成20年4月より、特任教員)

- ◇本短期大学を設置する沖縄キリスト教学院は、キリスト教の聖書の教えを建学の精神として平和を希求 (peace maker) し、地域と国際社会に奉仕する人材の育成を目指して、昭和32年に設立された学院である。本短期大学は、保育と英語教育において地域社会から高い評価と信頼を受けてきた。学院は、短期大学をベースに四年制大学 (1学部1学科・入学定員120人)、大学院修士課程 (入学定員5人) を併設している。本短期大学は、併設四年制大学とは協力関係にあると同時にライバル関係にもあり、いい意味で協力と競合がなされている。
- ◇平成16年に「私立学校法一部改正」により、本学院では平成18年7月の理事会において寄付行為を改正して、従来の常任理事制度を廃止し、理事数を減じて、常務理事を置き、現在、学長を入れて10人の理事で理事会を構成している。理事会では、従来にも勝って、建学の精神が重んじられ、学院全体が建学の精神に沿って経営と運営ができるよう、学内の協力を要請している。評議員は23人を置き、学院の財政及び経営、その他必要な事項について諮問することになっている。
- ◇理事会は年8回開催しているが、必要に応じて臨時理事会を開催している。理事会召集案内には、前もって議案を付し、欠席者にも意思表示ができるよう、賛否を問う用紙に、その理由を述べるスペースを設けている。理事会は、毎回ほぼ全員出席で議論も活発である。
- ◇学内と理事会を効率よくつないでいくため、毎週火曜日の午前10時から正午まで、理事長、学長、常務理事、総務課長の4人で本部会議を開き、意思の疎通を図っている。また、学院内の大学運営協議会に、常務理事兼事務局長が常時出席し、大学運営の重要事項の審議に参加し、理事会の意向を反映させている。更に、重要な変更点がある場合、また、要請がある場合、時に応じて、教職員・事務職員を含めた全体説明会を開くこともある。
- ◇私立学校法一部改正において監事の役割と責任が明確化されると同時に、法人の業務監査に積極的に関わることが規定され、理事会、及び評議員会には毎回陪席し、監事の意見が理事会に回付されている。理事会は、監事の意見を尊重し、改善要請については極力、監事の意見を生かし、大学改革と大学の使命を強く自覚する機運を生じさせている。
- ◇本学院の同窓会は、1万1,000人になろうとしている。同窓会は学院の事業に積極的

に協力し、財政面を含め、精神的なサポートも行っている。なお、後援会も強化され、奨学金や学生活動等への支援を提供している。また、最近の金融危機に鑑み、窮迫した家計に在る学生に対応して、更に、奨学金の造成と強化のため、企業や個人からの寄付が得られるよう努力している。

- ◇平成16年に四年制大学を立ち上げ、平成20年4月から修士課程を立ち上げたが、新たな学院の教育事業を強化するため、学生サービスと事務職員の職務の効率化を図って、50年ほど続いてきた事務組織を改変した。更に、新たな課題に対応するため、学則変更及び諸規程制定と改定の頻度が高くなってきたのに合わせて、民間会社から職員を登用し、諸規定関係の整備に当たらせている。
- ◇事務各種セクションの業務をサポートするため、できる限りの財政支援をしている。特に、入試やキャリア開発関係に力を入れている。
- ◇平成21年3月に新校舎が落成し、大学院生研究室と大教室、小・中教室、外国語教育のためのラボや同時通訳者養成機器が完備された会議室、自然科学教育をバックアップする自然科学実験室も整備された。その他、国際交流、学生たちの自発的な活動を支援する教員・事務職員が良く世話をみている。
- ◇学院内の研究活動の活性化を奨励するため、科学研究費補助金等競争的外部資金獲得に備え、企画推進課を中心にサポート体制を強化している。
- ◇本学院創立50周年事業の一環として募金活動を開始することになったが、「中・長期計画」と照らし合わせて、本学院の将来計画を視野に入れ、21世紀に必要とされる学院のマスタープランを作成して、それに沿った財政計画と募金計画・活動が必要であると考えている。理事会内にそのためのタスクチームを作る必要がある。

(2) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の理事会の開催状況(主な議案、理事の出席状況等を含む)を下表を例に開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成21年5月1日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

◆理事会開催状況(平成18年度～20年度)

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
平成18	4	26	【第1回常任理事会】大学学則変更、短大学則変更、給与規程改正	7	7
平成18	5	26	【第1回理事会】基本金取崩し、平成17年度事業報告、平成17年度決算報告・監査報告、平成18年度補正予算、組織規程改正、就業規則改正、給与規程改正、事務職員人事委員会内規改正、教育管理職選考規程改正、事務職員採用	10	10
平成18	6	28	【第2回常任理事会】短大英語科・総合教育系教員採用、事務職員人事異動方針	7	7
平成18	7	28	【第3回常任理事会】短大学則変更、大学運営協議会規程改正、給与規程改正、研究成果等刊行奨励費交付規程制定、正規留学派遣奨学金給付規程制定、事務職員人事異動	7	7

(理事会開催状況のつづき)

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
平成 18	10	2	【第 2 回理事会】平成 19 年度予算編成方針、大学学則変更、給与規程改正、役員報酬規程改正、寄附行為第 18 条の規程に基づく業務決定の一部委任、育児・介護休業規程制定	10	10
平成 18	11	27	【第 3 回理事会】平成 18 年度補正予算、監事の選出（補充）、評議員の選出、沖縄電力との土地売買及び地役権設定契約	9	10
平成 19	2	9	【第 4 回理事会】組織規程改正、給与規程改正、大学院設置	10	10
平成 19	3	16	【第 5 回理事会】平成 19 年度事業計画、平成 19 年度予算	10	10
平成 19	5	25	【第 1 回理事会】平成 18 年度事業報告、平成 18 年度決算報告・監査報告、平成 19 年度補正予算、寄附行為改正（大学院設置）、評議員選任	10	10
平成 19	6	15	【第 2 回理事会】寄附行為改正（大学院設置）	9	10
平成 19	7	20	【第 3 回理事会】審議事項なし。学長選挙に関する報告等	10	10
平成 19	10	12	【第 4 回理事会】平成 20 年度予算編成方針、次期学長選任	10	10
平成 19	12	12	【第 5 回理事会】新校舎建築に係る建築設計・監理業務委託契約、大学院学則制定、大学院研究科規程制定、大学学位規程制定、学長就任式・創立 50 周年記念式典日程、就業規則改正	9	10
平成 20	1	23	【第 6 回理事会】平成 19 年度補正予算	9	10
平成 20	3	14	【第 7 回理事会】平成 20 年度事業計画、平成 20 年度予算、駐車場土地売買契約、就業規則改正、任期事務職員に関する規程制定	10	10
平成 20	5	13	【第 1 回理事会】元事務職員の訴訟調停、財務課後任人事	9	10
平成 20	5	23	【第 2 回理事会】平成 19 年度事業報告、平成 19 年度決算報告・監査報告、平成 20 年度補正予算、新校舎建築に係る建築請負契約、日本私立大学協会評議員選任	8	10
平成 20	6	26	【第 3 回理事会】新校舎建築資金借入金、組織規程改正、参与に関する細則制定、参与人事	9	10
平成 20	8	8	【第 4 回理事会】役員報酬規程改正、短大自己点検・評価・改善委員会規程改正	8	10
平成 20	9	26	【第 5 回理事会】任期満了に伴う次期理事、監事、評議員候補者	9	10
平成 20	10	15	【第 6 回理事会】理事・監事の選任、評議員の選任、理事長の選任、理事長職務代理者の指名、常務理事の選任及び事務局長人事、平成 21 年度予算編成方針	10	10
平成 20	12	19	【第 7 回理事会】平成 20 年度補正予算、役員報酬規程改正	9	10
平成 21	1	15	【第 8 回理事会】役員報酬規程改正	10	10
平成 21	3	13	【第 9 回理事会】平成 21 年度事業計画、平成 21 年度予算、施設譲渡に伴う財産処分、沖縄キリスト教平和研究所の設置	10	10

※理事会開催にあたっては、監事が最低 1 人出席可能となるよう日程調整している。

◆理事会についての寄附行為上の規定(「学校法人沖縄キリスト教学院寄附行為」より抜粋)

<p>(理事の選任) 第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。 (1) 学長及び短期大学長 (2) 評議員のうちから評議員会において選任した者 3人 (3) 日本キリスト教団沖縄教区において牧師及び信徒のうちから選任した者 3人 (4) 学識経験者のうち理事会において選任した者 3人 …省略… (理事会) 第16条 この法人に、理事をもって組織する理事会を置く。 …省略… (理事会の業務) 第17条 理事会は、次の各号に掲げる業務を行う。 (1) 予算及び決算に関する事項 (2) 資産の管理及び処分に関する事項 (3) 債務の負担に関する事項 (4) この法人の設置する学校の教育方針、教育課程その他諸規程等に関する事項 (5) 職員の任免、監督及び給与等に関する事項 (6) 寄附行為、その他この法人の設置する学校の組織に関する事項 (7) その他この法人の業務に関する事項</p>
--

〈添付資料-2〉 現在の理事・監事・評議員名簿(2009年度 学生便覧 197 ページ)

〈参考資料-29〉 平成20年度の理事会議事録

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規程、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

平成18年7月の寄附行為改正の施行まで、理事会の下に、常任理事会を置き、理事会決定事項の業務執行について処理していた。

◆改正前寄附行為(抜粋)

<p>(常任理事の選任及び職務) 第15条 理事のうち互選によって、常任理事を6人選任し、常任理事会を組織し、理事会の議決した事項の業務を処理する。 2 常任理事会は、理事長が招集し、その議長となる。 3 議長は、常任理事会の開催の場所及び日時並びに決議事項及びその他の事項について議事録を作成しなければならない。 4 常任理事会の執行する業務は、別に理事会が定める。</p>
--

平成18年7月の寄附行為改正により、常任理事会を廃止し、理事会機能の更なる活性化を図ることとした。

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成20年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

1. 監事の任務

寄附行為第5条の規定により監事を2人配置している。業務監査及び財産状況監査について監査報告書を作成し、理事会及び評議員会に提出する等、寄附行為第15条に

規定する職務を行っている。

2. 平成 20 年度の業務状況

- (1) 理事会、評議員会に毎回出席し、適宜意見を述べている。主な意見として
 - ・役員報酬の適正化について意見を述べ、改善を図った。
 - ・会議進行に対する時間配分や進行方法について意見を述べた。
 - ・発言が一部の理事に偏る傾向について、全員参加型の理事会を促した。
 などがある。
- (2) 法人監査を行う公認会計士と打合せを行い、内部監査との連携を図っている。
- (3) 内部監査において、次のような指摘を行った。
 - ・給与体制の見直しと適正化（定年制度、勸奨退職制度等）
 - ・減価償却引当預金の積み立て
 - ・固定資産処分等による臨時収入と一般財源との区別化など
- (4) 文部科学省の主催する学校法人監事研修会に参加し、研修内容について理事会への報告を行っている。

(5) 平成20年度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

◆評議員開催状況（平成 20 年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
平成 20	5	28	【第 1 回】平成 20 年度補正予算	16	23
平成 20	6	25	【第 2 回】新校舎建築資金借入	16	23
平成 20	10	15	【第 3 回】任期満了に伴う第 1 号評議員の選任、評議員理事の選任、監事候補者の同意	23	23
平成 20	12	17	【第 4 回】平成 20 年度補正予算	21	23
平成 21	3	4	【第 5 回】平成 21 年度事業計画書、平成 21 年度予算、施設譲渡に伴う財産処分	19	23

◆評議員会の寄附行為上の規定（「学校法人沖縄キリスト教学院寄附行為」より抜粋）

<p>第 4 章 評議員会及び評議員 （評議員会）</p> <p>第 2 0 条 この法人に、評議員会を置く。</p> <p>2 評議員会は、2 3 人の評議員をもって組織する。ただし、学長及び短期大学長が兼務する場合は、評議員を 1 人減ずることができる。</p> <p>…省略…</p> <p>（諮問事項）</p> <p>第 2 2 条 理事長は、次の各号に掲げる事項について、あらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分 (2) 事業計画 (3) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄 (4) 寄附行為の変更 (5) 合併 (6) 目的たる事業の成功の不能による解散
--

(評議員会の寄附行為上の規定のつづき)

(7) 寄附金品の募集に関する事項

(8) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの
(評議員会の意見具申等)

第23条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に応え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第24条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

(1) この法人の職員で理事会において推薦された者のうちから、評議員会において選任した者 6人

(2) この法人の設置する学校を卒業した者で年令25年以上の者のうちから、理事会において選任した者 5人

(3) 学識経験者のうち、理事会において選任した者 12人

2 前項第1号に規定する評議員は、職員の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。
(評議員の任期)

第25条 評議員の任期は、3年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 評議員は、再任されることができる。

3 評議員は、任期満了の後でも後任者が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

(6) 法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えのない範囲で記述して下さい。

本短期大学を設置する学校法人沖縄キリスト教学院においては、これまで、年度ごとに事業計画を策定、予算計画を編成し、法人経営・大学運営に係る諸事業を推進してきた。しかし、短期大学を取巻く環境が一層厳しさを増す昨今、その荒波を安全に渡りきるため、法人経営及び大学運営に求められていることは、社会的需要の変化を見抜く「洞察力」、正確な将来計画を打ち立てるための「先見性」と、適宜変化・反応できる「行動力」であると考えます。今後、本学院は、健全かつ安定した法人経営及び大学運営を実現するため、以下の点を達成すべく、鋭意努力したい。

①「中・長期計画」を策定する（現在策定に向け協議中）と同時に、職員及び学生の意見を徴し中・長期計画に反映できる体制を確立する。②理事の構成員に幅広く民間企業の経営経験者を登用する。③理事、監事及び評議員を対象とする管理研修会を開催し、現状認識を共有し、意思決定の迅速化に努める。④法人役員と同窓会役員との懇談会を定期的に関行し情報交換等連携を図る。⑤「大学は人なり」一競争的外部資金の獲得等、教員の研究活動を奨励し強化する。⑥事務体制の強化を図るため、学内研修・人事交流等を通して、幹部候補者を養成する。⑦事務職員の実務能力の向上を図るため、職員研修（初任者研修、若手職員研修、管理職研修等）を積極的に実施する。⑧労働意欲の向上並びに服務上の課題解決のため、教育職員及び事務職員に対する人事考査制度を導入する。⑨人件費の抑制策の一環として、給与体系及び任用制度を見直す。

〈添付資料-5〉 寄附行為

【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

本短期大学教授会は、短期大学部長が議長を務め、議事進行が行われているが、就任以来、学長として、議題調整から関わり、教授会にも参加し、教授会と積極的に議論している。理事会決定の詳細を教授会に周知するとともに、本短期大学が直面する種々の問題を解決するため、教授会と共に幅広く議論している。

〈参考資料-30〉 沖縄キリスト教学院大学及び短期大学学長選任規程

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成20年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。

なお、学則を添付して下さい。

教授会は、教授、准教授及び講師を構成メンバーとし、以下にあげる項目を審議している。

- ①教職課程の編成及び授業に関する事項
- ②学生の試験及び単位の認定に関する事項
- ③学生の入学、休学、退学、復学、卒業、転入学、転科、再入学、除籍、賞罰等学生の身分に関する事項
- ④学生の生活指導、助言及び福利厚生に関する事項
- ⑤教員の人事に関する事項
- ⑥学則その他重要な規程の制定改廃に関する事項
- ⑦その他本短期大学の教育研究及び運営に関する事項

◆平成20年度教授会開催状況

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
平成20	5	1	平成21年度指定校追加、全学集会委員教授会代表選出	16	18
平成20	5	29	長期欠席学生、インターンシップ実習費	16	18
平成20	6	26	平成20年度後期開設科目、学生による授業評価アンケート	16	18
平成20	7	29	指定校枠拡大、外国人留学生出願に係る日本留学試験未受験者の取り扱い、教授会ワークショップ	17	18
平成20	8	4	平成20年度10月転入学試験合否判定	16	18
平成20	9	10	平成20年度秋季卒業予定者の判定、秋季卒業式、平成21年度AO入試合否判定手順、新規非常勤採用、次期評議委員の選出	16	18
平成20	9	19	再入学、特別奨学生継続、AO入試合否判定	13	18
平成20	10	23	教員の採用、研究図書に関する細則第3条1項の改定	15	18

(平成20年度教授会開催状況のつづき)

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
平成 20	11	26	平成 21 年度推薦入試合否判定、平成 21 年度開設科目クラス数担当者	12	18
平成 20	12	11	情報センター委員会規程の一部を改正する規程(案)、平成 21 年度学年暦	17	18
平成 21	1	22	入学者選抜の公正確保、平成 22 年度入試に向けての検討課題、外国人留学生科目等履修生受入	15	18
平成 21	2	18	平成 21 年度一般入試入学試験(前期日程)合否判定、名誉教授称号授与、新規非常勤採用、新設科目	17	18
平成 21	3	3	平成 20 年度卒業判定、新規非常勤採用、平成 20 年度第 2 回教授会ワークショップ開催、短期大学部長職の廃止	17	18
平成 21	3	12	平成 21 年度一般入学試験(後期日程)合否判定、平成 22 年度入試、学則変更、第 2 回短大ワークショップ	15	18
平成 21	3	24	平成 21 年度入学者確定、平成 22 年度推薦入試、A0 入試「自己アピール書」、ホームページ管理運営内規の一部を改正する規程(案)、再入学、各種委員会委員の選出	14	18

〈添付資料-6〉 沖縄キリスト教短期大学学則

(3) 学長もしくは教授会の下に教育研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成 20 年度の開催状況等を記述して下さい。

◆平成20年度の各種委員会開催状況一覧

名称	根拠規程	主な業務	構成メンバー	開催状況
沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学運営協議会	沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学運営協議会規程	学則及び関連諸規程の制定並びに改廃に関する事項/本学の組織、運営の基本方針に関する事項 等	学長、人文学部長※、短期大学部長、宗教部長、教学部長、入試部長、キャリア開発部長、図書館長、事務局長 計 10 人	9 回
公開講座委員会	公開講座規程	公開講座の年間計画の作成/公開講座の実施・運営・評価 等	英語科、保育科、総合教育系、英語コミュニケーション学科※、総務課長 計 5 人	8 回
学校法人沖縄キリスト教学院教員人事委員会	学校法人沖縄キリスト教学院教員人事委員会規程	教員組織の定員管理に関する業務/本学教員の分限・懲戒に関する業務/本学教員の昇任及び新規採用候補者の資格審査に関する業務等	学長、人文学部長※、短期大学部長、教学部長、宗教部長、事務局長、(学長指名) 計 6 人	7 回
学校法人沖縄キリスト教学院事務職員人事委員会	学校法人沖縄キリスト教学院事務職員人事委員会規程	採用・昇任・異動に関する事項	学長、人文学部長※、短期大学部長、宗教部長、事務局長、 計 5 人	15 回

(平成20年度の各種委員会開催状況一覧のつづき)

名称	根拠規程	主な業務	構成メンバー	開催状況
沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会	沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会規程	自己評価等の方針に関する事項／自己評価等の項目の相互調整に関する事項等	学長、短期大学部長、宗教部長、教学部長、入試部長、キャリア開発部長、図書館長、事務局長、学科長、総合教育系主任、ALO、(他学長指名) 計12人	3回
沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学教務委員会	沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学教務委員会規程	学生の休学、退学、転学、卒業等学籍の異動に関する事項／教育課程の編成に関する事項等	教学部長、人文学部長※、短期大学部長、英語コミュニケーション学科長※、英語科長、保育科長、総合教育系主任、教務課長、(他学長指名) 計8人	11回
沖縄キリスト教短期大学入試委員会	沖縄キリスト教学院学生募集・入試委員会規程	学生募集戦略に関する事項／学生募集の計画及び実施に関する事項等	入試部長、短大部長、学科長及び主任、事務局長、入試課長 計6人	22回
学生生活委員会	学生生活委員会規程	学生の構成補導に関する事項	教学部長、英語コミュニケーション学科※、英語科、保育科、総合教育系、カウンセラー、学生課長 計6人 ◎英語科・カウンセラー兼任	5回
全学集会運営委員会	全学集会規約	学生集会の円滑な運営に関する事項	学生代表3名、四大教授会※1人、短大教授会1人、事務職員代表1人、教学部長、学生課事務職員(書記担当) 計8人	5回
沖縄キリスト教学院キャリア開発委員会	沖縄キリスト教学院キャリア開発委員会規程	キャリア開発の運営に関する事項	キャリア開発部長、英語コミュニケーション学科※、英語科、保育科、キャリア開発課長 計5人	4回
図書館委員会	図書館委員会規程	図書館の機構ならびに運営に関する事項	英語科、保育科、総合教育系、英語コミュニケーション学科※、図書館長、図書館課長 計6人	9回
沖縄キリスト教学院情報センター委員会	沖縄キリスト教学院情報センター委員会規程	情報センター課の運営に関する事項	図書館長、英語コミュニケーション学科※、英語科、保育科、総合教育系、総務課長、情報センター課長 計7人	7回
宗教委員会	宗教委員会規程	キリスト教教育活動に関する事項	宗教部長、英語コミュニケーション学科※、英語科、保育科、総合教育系、事務職員 計6人	9回

(平成20年度の各種委員会開催状況一覧のつづき)

名称	根拠規程	主な業務	構成メンバー	開催状況
沖縄キリスト 教学院国際平 和文化交流委 員会	沖縄キリスト 教学院国際平 和文化交流委 員会規程	国際交流計画及びその実 施に関する事項／外国人 留学生の受入による文化 交流及び教育指導に関す る事項 等	国際交流文化平和交流 センター長、教学部長、宗 教部長、英語科、保育 科、英語コミュニケーション学科 ※ 計6人	6回
紀要委員会	紀要委員会規 程	紀要編集に関する事項	英語科、保育科、総合 教育系 計3人	7回

※併設の沖縄キリスト教学院大学と合同委員会を開催している。

- 〈参考資料-11〉 沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学運営協議会規程
- 〈参考資料-27〉 公開講座規程
- 〈参考資料-31〉 学校法人沖縄キリスト教学院教員人事委員会規程
- 〈参考資料-32〉 学校法人沖縄キリスト教学院事務職員人事委員会規程
- 〈参考資料-33〉 沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会規程
- 〈参考資料-34〉 沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学教務委員会規程
- 〈参考資料-35〉 沖縄キリスト教学院学生募集・入試委員会規程
- 〈参考資料-36〉 学生生活委員会規程
- 〈参考資料-37〉 全学集会規約
- 〈参考資料-38〉 キャリア開発委員会規程
- 〈参考資料-13〉 図書館委員会規程
- 〈参考資料-10〉 沖縄キリスト教学院情報センター委員会規程
- 〈参考資料-39〉 宗教委員会規程
- 〈参考資料-40〉 学校法人沖縄キリスト教学院国際平和文化交流委員会規程
- 〈参考資料-41〉 紀要委員会規程

(4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

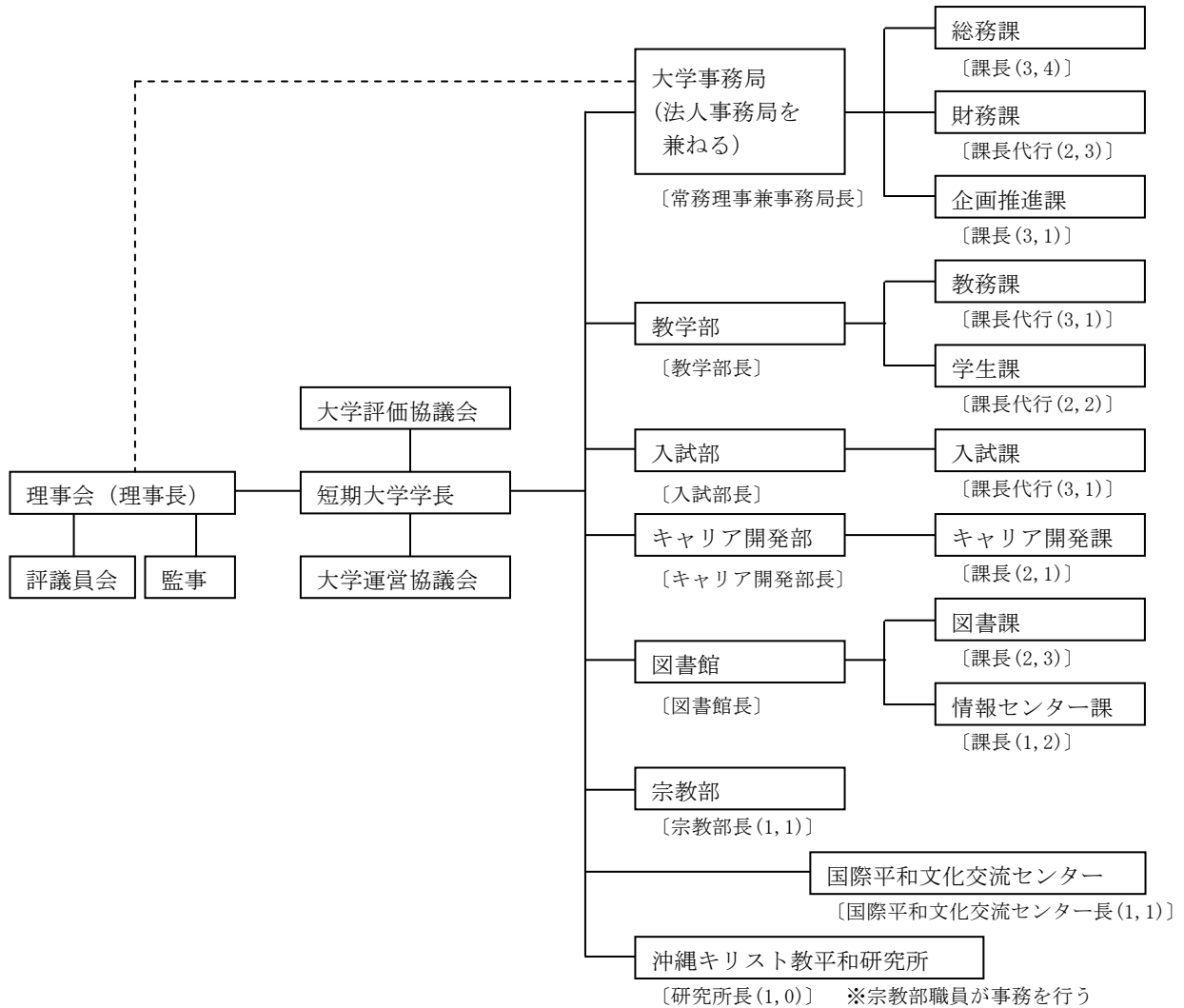
近年、大学受験者数が減少の傾向になり、早急に総合的な組織改善を図る必要がある。

①英語科は第二外国語の導入も含めた教育課程の改編を断行する。②保育科の改組については、マスタープラン、財政状況等も含めて総合的に検討する。③総合教育系については、リベラルアーツを重視する本短期大学の方針に鑑み、従来どおり、今後も教養教育の拠点として位置付ける。

【事務組織について】

(1) 現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名(課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む)、各部門の人員(専任・兼任の別を含む)、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際にご案内いただきます。

◆学校法人沖縄キリスト教学院事務組織図 (平成21年5月1日現在)
 ()内の数: (n, m)=(専任職員数, 非専任職員数)を表す。



◆各部門の主な業務

部署名	主な業務
総務課	法人業務、人事、給与、予算編成、資産管理 等
財務課	会計、予算、決算、会計監査、収入支出 等
企画推進課	学部学科設置改廃、自己点検、募金、広報、補助等
教務課	成績、時間割、学生の身分、履修、卒業、学年暦 等
学生課	奨学、学生福利厚生、保健、学生相談、学生会 等
入試課	学生募集、学校案内、入学手続き、オープンキャンパス等
キャリア開発課	就職、進路指導、求人開拓、検定試験対策 等
図書課	図書資料収集、分類、登録、閲覧貸出し 等
情報センター課	ネットワーク管理・運用、パソコン教室管理 等
宗教部	礼拝、キリスト教週間、祝会、建学の精神 等
国際平和文化交流センター	外国人留学生福利厚生・奨学、留学、国際交流事業 等
沖縄キリスト教平和研究所	キリスト教研究、平和学研究 等

(2) 事務職員の任用（役職者の任免を含む）について現状を訪問調査時にご説明下さい。

(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

- 規程 ・ 沖縄キリスト教学院組織規程〈参考資料－42〉
 ・ 学校法人沖縄キリスト教学院就業規則〈参考資料－43〉

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

1. 決裁処理の概要と流れ

公文書の作成及び取扱いについては、「学校法人沖縄キリスト教学院文書管理規程」に基づき処理している。稟議書、伺い書等、決裁処理を必要とする文書については、係る部署の担当者が所属長の承認を得て、法人・教学に分類した上で学長、理事長の決裁を得ることになっている。

公文書の作成、取扱い、並びにその処理については、係る部署の所属長が責任を持ってこれをファイル保存し、問合せに対応している。また、緊急を要する決裁文書については、学長、理事長不在時に在っては部署長の判断の下で対応している。

2. 公印や重要書類（学籍簿等）の管理

公印の取扱いについては、「沖縄キリスト教学院公印取扱規程」に基づき対応している。公印の保管場所や管理責任者を明確にし、公印使用の際は、公印使用簿に必要事項を記載し検印することとしている。

公印の使用に当たっては、文書管理責任者に使用の趣旨を説明し、相互確認の上、

押印を許可されることとしているため、公印使用に関する問題は特に発生していない。

3. 防災の状況

防災に関しては、「防火管理規程」「消防計画規程」「危機管理規程」及び「危機管理対応マニュアル」等に基づき、災害時の対応を図ることとしている。特に、「危機管理マニュアル」では、災害の種類（地震、風水害、不審者、火災等）、状況等に即した対応をフローチャートで表し、迅速に対応し被害を最小限に止めるための詳細を定めている。さらに、台風の多い沖縄では、台風時の休校の判断を速やかに下す必要があるため、学内放送により情報を伝達する等、事故の未然防止に努めている。

また、学園祭時は、事前に学生を対象に消火器の操作説明や実際に消火器を使用した消化訓練を実施している。

4. 情報システムの安全対策等の現状

学内ネットワークへの不正アクセス及びウィルス対策として、ファイアーウォール及びウィルスゲートウェイを設置している。基幹システムへはユーザ ID とパスワードでセキュリティ管理を行い、サーバーについては、定期的なバックアップを行い、緊急時における迅速なシステム復旧のための安全性を確保している。

〈参考資料-44〉 学校法人沖縄キリスト教学院文書管理規程

〈参考資料-45〉 沖縄キリスト教学院公印取扱規程

〈参考資料-46〉 防火管理規程

〈参考資料-47〉 消防計画規程

〈参考資料-48〉 学校法人沖縄キリスト教学院危機管理規程

〈参考資料-49〉 危機管理対応マニュアル

(5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者（事務局長等）が現状を率直に記述して下さい。

事務職員は、大学運営を円滑に進め、学生に対する最良のサービス提供を実現するためには、教員に対し一体感を持ち、お互いに相手の立場を理解して信頼しあって接しなければならない。そしてこのことを常に心掛けて教員の教育研究活動を支援することが重要な職務である。

本短期大学では、この自覚をもって教員に接しており、教員から信頼されている。

事務職員は、教員と学生の両輪の輪の一員として学生に対する最良のサービスを提供することである。つまり、学生が学生生活において本学で学んでよかったと思うように充実と満足をもって卒業させることである。事務職員は、常にこのことを忘れずに学生に対し、親切・丁寧・正確さを心がけて対応している。特に学生と直接接する学生課、教務課、キャリア開発課はもちろんのこと、総務課、財務課及び企画推進課も同様な対応をしている。卒業式や同窓会との懇談会等で保護者の方から感謝の声を聞く機会があり、学生から信頼されている。

(6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント (SD) 活動 (業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等) の現状を記述して下さい。

本短期大学を設置する沖縄キリスト教学院では、従来より、積極的に学内研修を行うとともに、日本私立短期大学協会、日本私学振興共済事業団、文部科学省等が実施する研修等にも、各部署が計画的に職員を派遣し、事務職員としての能力向上に努めている。その他、学院が加盟するキリスト教学校教育同盟へも職員を派遣し研修を受けさせている。

今後、SDに関する規程を早急に制定し、職位別、階層的に研修制度を構築し、計画的な人材育成のシステムを構築する必要があると考えている。

なお、平成 20 年度には、事務局長が講師となり、大学事務に係る各種法令、並びに大学改革に関し、事務職員研修会を実施した。また、新規採用者に対し事務部門各課の課長が講師となり、3 日間に亘り大学事務全般についての研修も行った。さらに、国際基督教大学へ課長クラス 6 人を派遣し、本短期大学の課題に関する情報交換、意見交換等の研修を実施した。平成 20 年度の職員研修の実績の詳細は、以下のとおりである。

◆職員研修の実績

年度	月	日	内容	参加人数	備考
平成 18 年度	8	2~3	キリスト教学校教育同盟 夏季職員研修会	1 人	教員参加
	8	11	建学の精神懇談会	49 人	全学で実施 (宗教部主催)
	8	17~18	県私立大学協会事務職員研修会	14 人	
	8	17~18	キリスト教学校教育同盟 夏季職員研修会	2 人	事務職員参加
	8	21	夏期事務職員研修 (働くことの意味)	—	非常勤含む事務職員全員が対象
平成 19 年度	8	2~3	キリスト教学校教育同盟 夏季職員研修会	1 人	教員参加
	8	14	夏期事務職員研修 (第三者評価)	—	非常勤含む事務職員全員が対象
	8	16~17	県私立大学協会事務職員研修会	11 人	
	8	28~29	キリスト教学校教育同盟 夏季職員研修会	1 人	事務職員参加
平成 20 年度	4	24	建学の精神懇談会	53 人	全学で実施 (宗教部主催)
	9	8~10	事務職員初任者研修	6 人	新人以外個別に 10 人参加
	11	17	中・長期計画全体研修会	49 人	全学で実施
	12	4~	事務職員研修会 (事務局長による法令を中心とした研修)	延べ 63 人	7 回実施 (平均 9 人/回)
	2	23	国際基督教大学派遣研修	6 人	

(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

これまで、本法人においては、人事政策の面で、諸般の事情から、職員間で人事異動の周期の差異が大きく、職員の総合的な実務能力を養成するという点で大きな課題となっていた。その課題を解決すべく、全専任職員から「人事異動調書」を提出させるとともに、一人ひとりに対しヒアリングを行い、個々の事務職員に合った人事制度の実現に向け努力している。

〈参考資料-50〉 沖縄キリスト教学院事務職員人事異動に関する細則

【人事管理について】

(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規程等）を訪問調査の際にご準備下さい。

少子化による18歳人口の激減、世界同時不況等、予想を超えて急速に厳しさを増す状況下において、法人経営並びに大学運営は、財政面の厳しさは元より、教育活動、研究活動等、どの領域においても予断を許さない状況である。

本学院においては、人件費抑制策の一環として、平成21年度より専任教員週7コマ制を導入（従来は6コマ）しているが、個々の専任教員の職責の認識及び履行状況に差異が発生しないよう、制度整備並びにその周知徹底が求められている。

教育力の維持向上、研究活動の充実は無論のこと、多様化する学生への木目細かなサポート、教育課程の改編・学科改組のための各種取り組み、地域支援事業等、大学を守り抜くため、専任教員が一丸となって奮闘しなければならないことは多い。

〈参考資料-43〉 学校法人沖縄キリスト教学院就業規則

(2) 法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

〔理事長〕

学院の持続的発展を図るため、計画的な人事計画が必要である。一法人の中に小規模短期大学、四年制大学及び大学院があるため、協働的な人事配置が求められる。近年、大学等の教育・学生サービス業務の多様化・複雑化・高度化のため、学生サービス、地域サービス及び国際交流をより充実発展させるためには、業務を適性かつ敏速に遂行できる人事配置が必要である。

人事の採用には、理事長・学長のリーダーシップは必要であるが、各セクションとの調整を図り、事務局長と総務課長が各セクションの長の意見を斟酌し、職員の個人の要望を聴取して人事を適正に配置運用できるよう努力している。

〔学長〕

近年、理事会と教授会の関係は大きく改善されてきたが、教授会の構成員の中にはなおも教授会の権限が強かった頃を懐かしむ者もいる。法人経営及び大学運営のためには、法人側と教授会の信頼関係を構築してゆくことが、学長として重要な役割であると認識している。昨今の厳しい財政状況では、困難な点も多いが、法人と教授会が誤解なく、前向きに大学発展のため協力できる関係造りに努めてゆきたいと思う。

(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

〔学科長〕

本短期大学における教員と事務職員の関係はおおむね良好である。小さなキャンパス内に在っては、平素からコミュニケーションの機会も多く、各種委員会での委員としての協働（教員と事務職員が均しく委員となっている）、学内各種行事における共同作業等、良好な関係の下、円滑に行われている。

〔事務局長〕

教員と事務職員との関係は、教務課をはじめ学生課、キャリア開発課、入試課の各課とも密接に連絡を取り合って円滑に業務を進めており、良好な関係にある。教員も予算の厳しい状況の中で学生募集業務等においても多忙な教育研究活動の中で協力的である。特に、事務職員は、人員の限られた範囲内で非常に多岐にわたる業務を的確に処理しており、学生の指導等においても教員と密接な連携を取りながら適切に対応している。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

1. 健康管理

全教職員（非常勤事務職員を含む）を対象とした定期健康診断を毎年7月頃に実施している。また、毎月1回産業医カウンセラーによる健康相談を実施している。

2. 就業環境の改善

定期的に構内全域の空気環境測定を実施し、教職員の就業環境に問題が生じた場合は、施設・設備担当者が適宜、必要な措置を講じている。特に、暑さの厳しい沖縄では、就業及び就学環境の設備確保は重要な課題であり、空調設備の点検及び更新等については計画的に実施している。

3. 就業時間の順守

職員の就業時間については、就業規則第15条に規定している。1日の所定労働時間は8時間、1週間の労働時間は労働基準法に基づき40時間としている。

教育職員については、教育職員の勤務に関する規程に基づき、1週間の出校日数は4日以上、7コマ（90分）の授業を担当するほか、学生指導や短期大学運営に関する職務、個々の研究活動を行うことになっている。教育職員の出勤については、出講記録簿を作成し、各自、これに押印することとしている。

《Ⅸ 財務》

【財務運営について】

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

法人全体の中・長期計画について、平成21年度中の策定を目指し、作業を進めている。中・長期計画のなかで、財務計画についても策定する。財務計画策定にあたっての検討課題として、以下の項目があげられる。

- ①固定資産取得の将来計画に基づく第2号基本金の設定
- ②具体的な目標を掲げた募金活動
- ③大学拡充経費引当特定資産、減価償却引当特定資産の適正な積み立て

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

予算編成方針を理事会で審議・決定後、学内に向け予算編成方針説明会を開催し、予算概算要求書及び事業計画書の作成を、各部署に依頼する。

事務局は、各部署より提出された予算概算要求書及び事業計画書を基に、内容のヒアリング・査定を行い、予算案を策定。策定された予算案について、各部署長、課長を対象とする予算編成会議において、その内容の説明を行い意見を聴取する。その後、予算案を事業計画案とともに評議員会に諮った上で、理事会で審議・決定する。

査定の段階で、各部署からヒアリングを行うことにより、事業計画の詳細な内容と事業予算を把握している。

(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

本短期大学の予算については、理事会で決定後、学内説明会を開催し周知を図っている。

予算執行については、担当者が「予算支出伺書」を起案し、証憑書類（領収書、納品書、請求書等）を添付した上で、担当者、主任、課長（学科長）、部署長、予算係、事務局長、常務理事、学長、理事長の順に決裁を受ける。ただし、10万円未満の予算執行については、事務局長の承認決裁としている。財務課は添付された証憑書類を確認し支払いを行う。学外者への支払は、原則として、月末までに予算執行の承認を受けたものについては翌月10日払い、個人立替等による内部支払は10日または25日払いとしている。承認決裁の流れの中で、予算係が「予算支出伺書」及び添付された証憑書類の確認作業を行うことにより、間違いがあれば早めに担当者に連絡し対処する

よう配慮している。

規程名：学校法人沖縄キリスト教学院経理規程（参考資料－51）

- （４）過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

1. 公認会計士による監査実施状況（平成18年度～20年度）

年	月	日	監査概要
平成18	4	14	平成17年度 期末監査
	5	11・12	
	11	27～30	平成18年度 期中監査
12	1		
平成19	5	7～9・12	平成18年度 期末監査
	6	18・19	財産目録監査（平成19年3月31日現在）
	12	17～19	平成19年度 期中監査
平成20	5	7～9	平成19年度 期末監査
	11	25～27	平成20年度 期中監査

2. 監事による内部監査実施状況（平成18年度～20年度）

年	月	日	監査概要
平成18	5	2	平成17年度 期末監査及び業務監査
平成19	5	2	平成18年度 期末監査及び業務監査
平成20	5	9	平成19年度 期末監査における公認会計士との連絡調整
	5	12	平成19年度 期末監査及び業務監査

3. 公認会計士の監査と監事の連携

公認会計士による期末監査最終日に監事の出席を求め、公認会計士と監事が情報交換を行い連携体制を整えている。公認会計士による期末監査後、監事による期末監査及び業務監査が行われている。

4. 公認会計士の指摘事項

監査報告書に記載された指摘事項はない。監査業務遂行上のアドバイスについては、現時点では業務担当者及び事務局内にのみ周知されている状況であるため、平成21年度より、職員全体が共通認識を持てるよう、監査最終日に講評時間を設けた。

(5) 財務情報の公開は今までどのように行ってきたか、また私立学校法第 47 条第 2 項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

積極的な情報公開に向けた取り組みとして、学院ウェブサイトにて、平成 13 年度決算報告より財務情報の公開を行っている。また、私立学校法第 47 条第 2 項に基づいた財務情報公開についても、「学校法人沖縄キリスト教学院財務書類等閲覧施行規程」を平成 17 年 12 月 21 日に制定（平成 16 年度決算から適用）し、閲覧を申請する本短期大学の在学生及び保護者、卒業生、本学院職員、その他利害関係者に対し閲覧に供している。ウェブサイトで公開している決算報告については、グラフ、吹き出しコメント等を用い、理解しやすいよう工夫している。

〈参考資料-52〉 学校法人沖縄キリスト教学院財務書類等閲覧施行規程

(6) 寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

寄附行為第 30 条に基づき、積立金は、銀行の定期預金、または元本保証が確実な有価証券を購入し、常に安全性に配慮している。今後も資金の適正かつ効率的な運用を図るため、規程を整備中である。

資金の保有については、校舎修繕資金に充てるため、減価償却引当特定預金の積立を開始した。

2 号基本金についても、将来の資産取得計画を明確にし、資金留保に努めたい。

(7) 寄附金・学校債の募集を行っていただければその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

寄付金は、教育研究に要する経常的経費への寄付（特定公益増進法人及び受給者指定寄付金に対する寄付）の募集を行っている。

また、本学院では、学院創立 50 周年の記念事業として、「保育系学部（仮称）の新設」と「教育施設（新校舎建設）等の整備充実」を掲げ、募金趣意書を発行し、募金活動を展開している。平成 20 年 10 月～22 年 9 月までの 2 年間で募金期間とし、目標額を 2 億円としている。

〈参考資料-53〉 沖縄キリスト教学院寄付振込票

〈参考資料-54〉 特定公益増進法人証明書

〈参考資料-55〉 募金趣意書（沖縄キリスト教学院創立 50 周年記念事業）

〈参考資料-56〉 沖縄キリスト教学院寄付振込票（沖縄キリスト教学院創立 50 周年記念事業）

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

〈添付資料-7〉 平成18年度～20年度 資金収支計算書・消費収支計算書

(2) 学校法人の貸借対照表の概要(平成21年3月31日現在)を、別紙様式2にしたがって作成し、添付して下さい。

〈添付資料-8〉 平成20年度 貸借対照表

(3) 財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細表・借入金明細表・基本金明細表)について、過去3ヶ年(平成18年度～20年度)分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

〈参考資料-57〉 平成18年度～20年度 財産目録及び計算書類

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の短期大学における教育研究経費比率(消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率)を、小数点以下第2位を四捨五入し第1位まで求め記述して下さい。

◆短期大学における教育研究経費比率(平成18年度～20年度)

区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度
教育研究経費支出 (a)	129,442千円	126,509千円	141,741千円
帰属収入 (b)	600,704千円	559,317千円	573,715千円
教育研究経費比率(a) / (b)	21.5%	22.6%	24.7%

【施設設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

①学校法人沖縄キリスト教学院経理規程〈参考資料-51〉

②経理規程細則〈参考資料-58〉

③物品管理規程〈参考資料-59〉

④沖縄キリスト教学院図書館規程〈参考資料-60〉

⑤沖縄キリスト教学院図書館利用規程〈参考資料-61〉

⑥研究図書に関する細則〈参考資料-62〉

⑦沖縄キリスト教学院図書館資料収集・管理規程〈参考資料-12〉

⑧沖縄キリスト教学院図書館学外者利用細則〈参考資料-63〉

⑨文献複写規程〈参考資料-64〉

⑩沖縄キリスト教平和研究所規程〈参考資料－65〉

⑪施設使用に関する内規〈参考資料－66〉

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

①火災等の災害対策

②防犯対策

③学生、教職員の避難訓練等の対策

④コンピュータのセキュリティ対策

⑤省エネ及び地球環境保全対策

⑥その他

1. 火災等の災害対策

「消防計画規程」、「防火管理規程」を策定しそれに基づき対応している。

消火栓・自動火災報知設備・消火器・非常放送設備等、消防用設備が適切に整備され緊急時に対応できるようにしている。

2. 防犯対策

終日（昼夜間）警備員を常駐させ、学内巡回を行っている。また、中庭・その他危険と思われる場所に常夜灯を設置し、防犯に努めている。

平成 20 年 3 月に竣工した SHALOM 会館内は、防犯用監視カメラを設置している。

3. 学生、教職員の避難訓練等の対策

「危機管理規程」に基づき避難訓練等を実施する予定である。

4. コンピュータのセキュリティ対策

学内のコンピュータ使用については、ユーザ ID とパスワードによる個人認証を行っている。全ての設置コンピュータには、ウィルス対策ソフトを導入し、セキュリティワイヤーロックの設置による盗難防止対策が施されている。

5. 省エネ及び地球環境保全対策

耐用年数を超過した空調設備の省エネタイプの機器への更新を計画的に実施し、フィルター清掃等適切な維持管理を行っている。教室等施設においては適切な温度管理の対策を行っている。空調機の切り忘れ等を防ぐため、主要な教室の空調機については集中管理を行っている。

照明器具については、白熱電球を効率の良い蛍光灯形電球に順次交換している。

SHALOM 会館は、屋上の砂利敷き、空調機・照明器具、トイレの人感センサーによる点灯等、省エネに考慮した設備となっている。

6. AED(自動体外式除細動器) の設置

危機管理の一環として、平成 19 年に AED を総務課カウンター前に設置した。設置に際し、操作説明会、及び消防組合による救命講習会を開催し、職員が緊急時に確実に対応できるようにしている。また、総務課では、継続的な知識の習得・保持のため、AED の使い方・心肺蘇生の手順等を収録した DVD の貸し出しを行っている。

本短期大学は、AED 設置情報を公開しており、近隣地域の方々も利用可能となっている。

【特記事項について】

- (1) この《Ⅸ財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

教職員に対し学院の財務状況の説明会を開催し、厳しい財政状況に関する現状認識の共有化に努めている。特に、帰属収支差額が支出超過とならないよう、予算編成の段階から教職員に対し、予算削減に向けた注意を喚起している。今後も、財務分析による解説も含め、財政状況についての学内説明会を継続的に開催し、教職員が一丸となって、実効性のある財政施策が見出せる体制づくりに努めてゆきたい。

《X 改革・改善》

【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置付けているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

18歳人口の減少等、大学を取り巻く環境がより厳しさを増す中、健全な法人経営・大学運営のためには、自己点検・評価を実施することによって本短期大学の置かれている現状を正確に把握し、明らかになった諸課題を改善・改革してゆくことが極めて重要であると認識している。

本短期大学では、平成17年4月27日、「沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会規程」を制定し、自己点検・評価・改善委員会（以下「委員会」）を設置している。

今後は、自己点検・評価・改善という一連の作業を着実に実施、継続することで、柔軟に社会のニーズに応え、大学の発展に努めてゆきたいと考えている。

〈参考資料-33〉 沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会規程

(2) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去3ヶ年（平成18年度～20年度）にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

ここ数年、委員会主導で行われた自己点検・評価の取り組みは、「学生による授業評価アンケート」の集計・分析結果を印刷物として公表するに留まっており、評価機構が定義する「自己点検・評価」の項目を網羅した自己点検・評価報告書の発行はない。

法人全体としては、その都度、学生の要求に応え、駐車場の確保や新校舎の建築等、積極的に改善に取り組んできた（事業報告書としてウェブサイト公表）が、自己点検・評価・改善という総合的システムが成熟するに至っていなかったことが大きな反省点である。

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成20年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

本短期大学における自己点検・評価の作業は、前述の委員会の下で実施されている。委員会は、学長、短期大学部長、学科長、ALO、各部署長を構成員とし、その下に執筆部会と編集部会を置いている。執筆部会は、各部署の自己点検・評価を担当する課長を中心とし、編集部会は、ALO、2学科・1系より各1人、事務職員2人より構成されている。

今後は、上記構成員を中心としつつも、組織全体の実質的な自己点検・評価の実現のため、可能な限り、組織内全ての教職員が参画することが望ましいと考えている。

- (2) 平成20年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

本短期大学では、これまで自己点検・評価は行っていない。今後は、法人経営、大学運営の礎として、着実に自己点検・評価を行い、単年度版の発行・公表に努め、改善策の実施に繋げてゆきたいと考えている。

【相互評価や外部評価について】

- (1) 平成20年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

本短期大学では、これまで他大学との相互評価や外部評価は行っていないが、今後実施に向け検討していきたい。

- (2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

【第三者評価（認証評価）について】

- (1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

本短期大学では、「自己点検・評価・改善委員会」並びにその下に設置された「執筆部会」及び「編集部会」を中心として、第三者評価（認証評価）に係る自己点検・評価の作業が実施された。委員会は、学長、短期大学部長、学科長・主任、ALO、各部署長を構成員とし、執筆部会は、各部署の自己点検・評価を担当する課長を中心とし、編集部会は、ALO、2学科・1系より各1人、事務職員2人より構成されている。

- (2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びALO（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

自己点検・評価は、本短期大学の置かれている現状を適切に把握するための極めて重要な作業であると認識している。冷静かつ客観的な現状把握こそが、具体的な改善策へ繋がる原点であると考えている。その観点から、第三者評価を受けるべく実施される学内の自己点検・評価の作業は、その作業に参画する全ての者が、当事者としての責任と自己を点検し評価する勇気を持つと同時に、「第三者」の視点を以って自己点検・評価に当たることが肝要であるとする。

《将来計画の策定（自由記述）》

現在、平成 21 年度中の「中・長期計画」策定を目指し、作業を進めている。以下に、その経緯と進捗状況について記述する。

これまで、単年度の事業計画に基づき、事業を実施してきたが、併設する沖縄キリスト教学院大学の完成（平成 19 年度）を機に、本短期大学を含む、法人の今後の方向性を示す「中・長期計画」策定の必要性が高まり、平成 20 年度の事業計画の一つにその策定が盛り込まれた。

平成 20 年 4 月に就任した学長のもと、大学運営協議会において、タスクチームを設置し、「中・長期計画」策定の方向性を決めることとなった。

タスクチームの議論を踏まえ、「中・長期計画」の骨子（全体像）が平成 20 年 11 月にまとまった。

「中・長期計画」策定の具体的作業を進めるにあたり、その根幹となる建学の精神・教育理念の明文化の作業を進め、これに基づく以下の長期目標案が、平成 21 年 5 月にまとまった。

長期目標 * 沖縄型リベラル・アーツ教育の先駆者としての大学・短大へ

1. 建学の精神とカリキュラムの関連性を深め、キリスト教精神・世界平和を重要視する教育内容の体系性を高める。地域に密着した「沖縄型リベラルアーツ・カレッジ」の先駆者として独創的な教養教育を全学的に充実させ、専門教育及び研究の基礎とする。このために必要なカリキュラムの改変、教育システムの構築を図る。また、各学科や科目の連携を深め、統一性と完結性の高い教育を目指す。整理・縮小など、そのために必要な組織改革を行う。
2. 地域・地球社会に対する責任感と倫理観を養い、批判的な思考と洞察力、積極的な問題提起を行える人材育成を目指す。学習の自立性を育て、高い読解力と表現力を身につけるための教育を行う。
3. 外国の大学への短期・長期留学制度を整備し、国際的視野を涵養する。また、開発途上国への研修・実習を推進し、幅広い国際理解力と地球市民としての意識を高める。
4. 国際的視野を持ち、広い教養と高い語学力、実用的なコミュニケーション能力を育てる教育を行う。
5. 幅広い教養教育を基礎に、豊かな感性と高度な保育の専門知識を身につけた人材の育成を目指す。国際的視野を持ちながらも、地域のニーズにきめ細かく対応した保育の教育プログラムの拡充を図る。
6. 沖縄という地域のアイデンティティを強く意識し、沖縄の社会、歴史、文化、自然を全国・全世界へ発信できる大学作りを目指す。他府県や海外からの学生を招き、沖縄に対する理解と共感を促す教育プログラムを構築する。
7. 地域に根ざし、地域との結び付きを深め、その特性を活かす方策を進める。地域の公立学校や他大学、NPO や他の社会組織との連携を強化し、公開講座や一般向けの講座を充実させることで、地域に開かれた大学作りを目指す。
教員・職員もボランティア活動を通し、広く地域に貢献する。官民学連携のプロジェクトを主導的に企画し、地域発展のリーダー的存在となることを目指す。
8. 生涯教育に貢献し、社会人入学者の受入れ体制を整備する。また、本短期大学卒業生の編入学制度や長期履修制度を定め、独自性に富んだ生涯教育を展開する。

今後、この長期目標案を確定し、目標達成のための、教育環境、地域貢献・国際交流、法人管理・運営体制等について中・長期計画の策定作業を推進する。